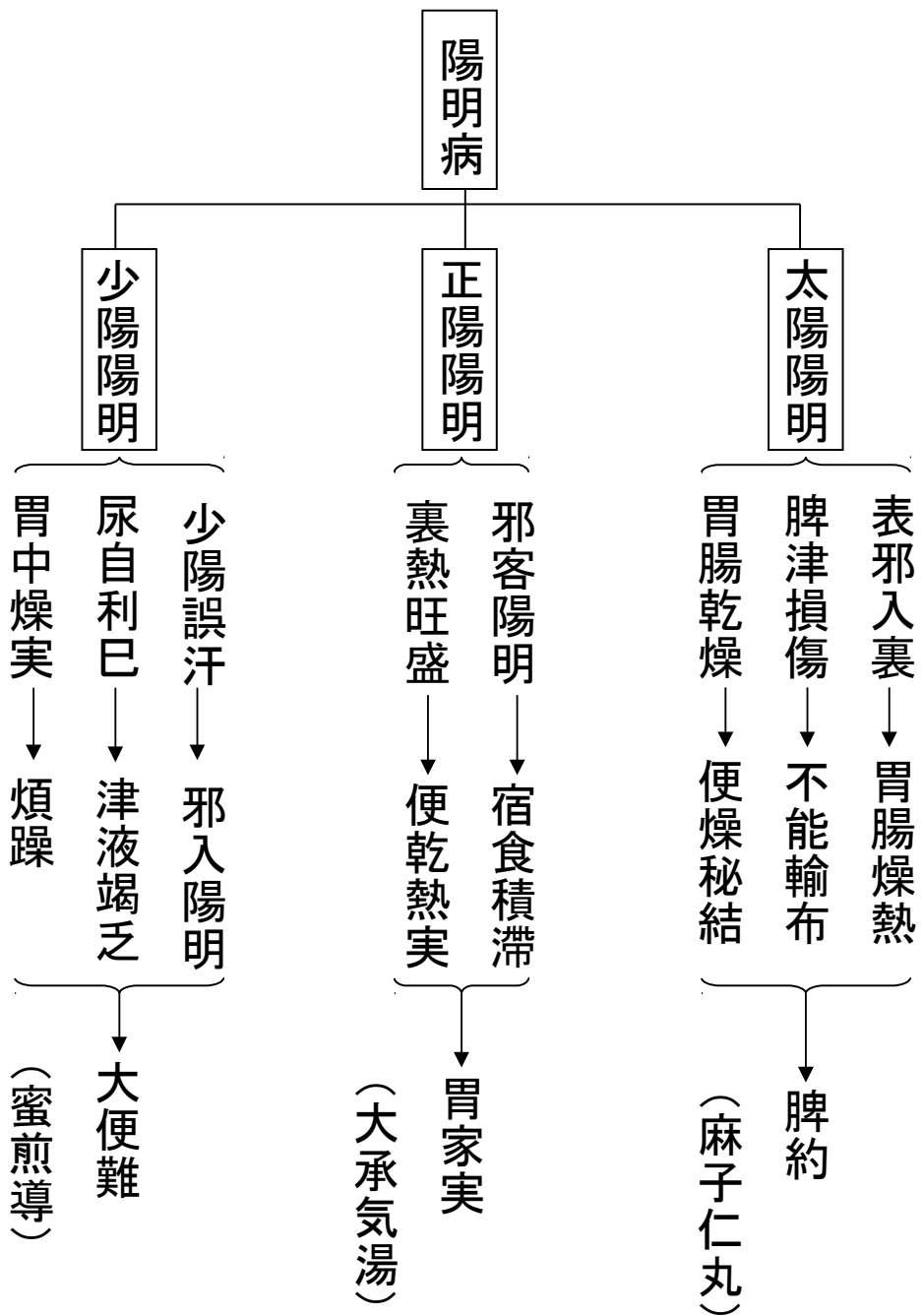


弁陽明病脉証并治

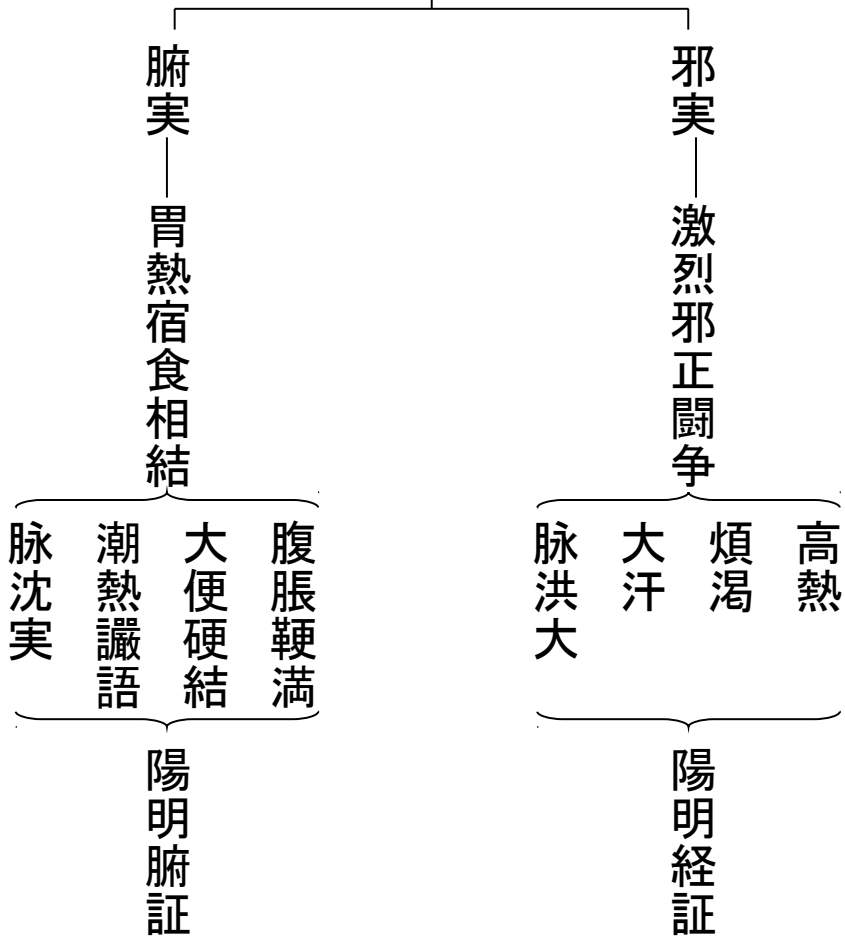
第一七九条 問曰、病有太陽陽明、有正陽陽明、有少陽陽明、何謂也。

答曰、太陽陽明者、脾約是也。正陽陽明者、胃家實是也。少陽陽明者、發汗、利小便已、胃中燥、煩、實、大便難是也。

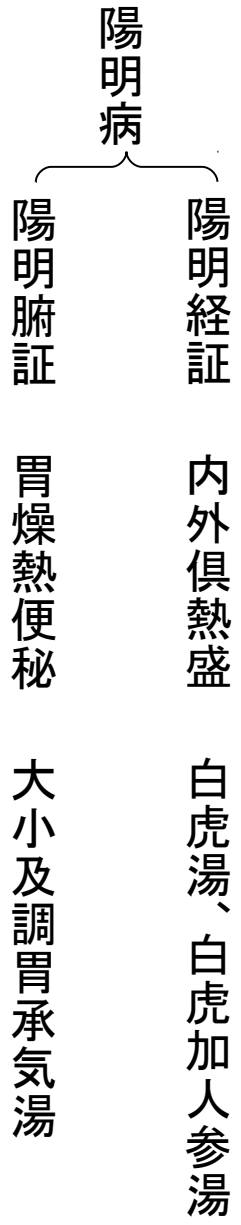


第一八〇条 陽明之爲病、胃家實是也。

陽明之病胃家實

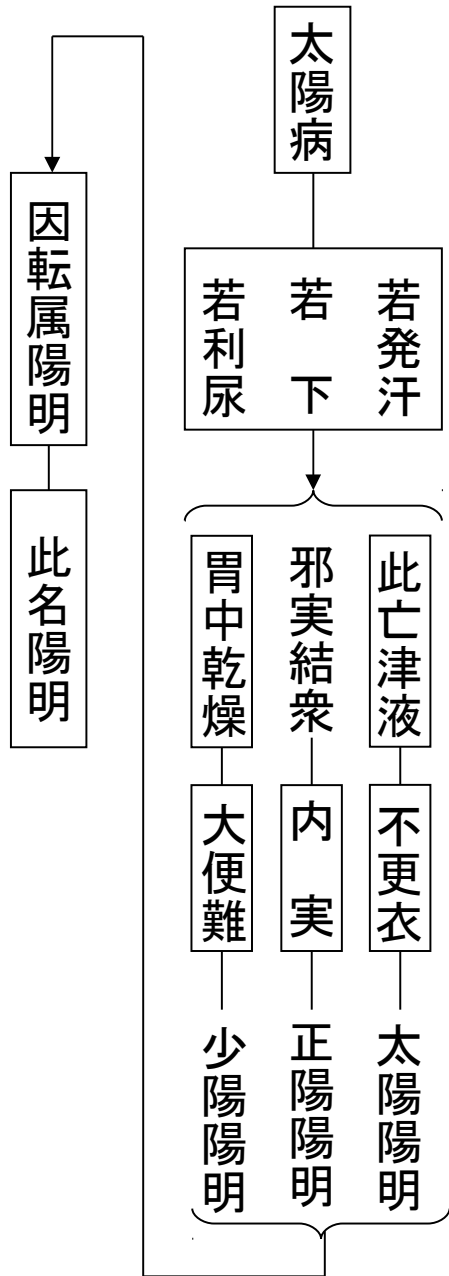


参考 「陽明八常二多氣多血」(『素問』血氣形志篇 第二十四)



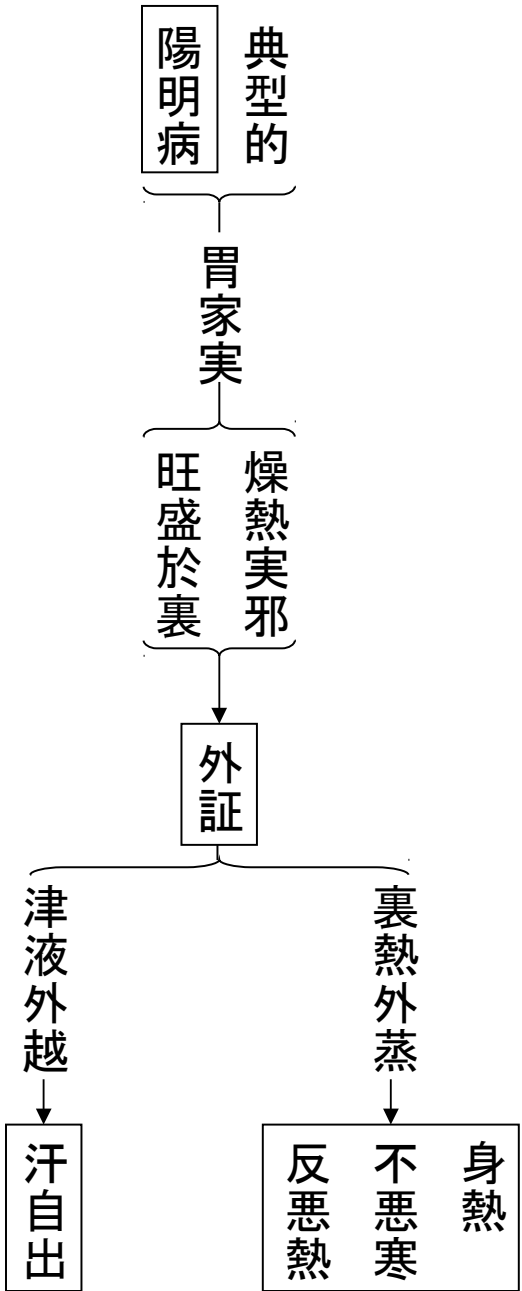
第一八一条 問曰、何緣得陽明病。

答曰、太陽病、若發汗、若下、若利小便、此亡津液、胃中乾燥、因轉屬陽明。不更衣、內實大便難者、此名陽明也。



第一八二条 問曰、陽明病外証云何。

答曰、身熱、汗自出、不惡寒反惡熱也。



第一八三条 問曰、病有得之一日、不發熱而惡寒者、何也。

答曰、雖得之一日、惡寒將自罷、即自汗出而惡熱也。

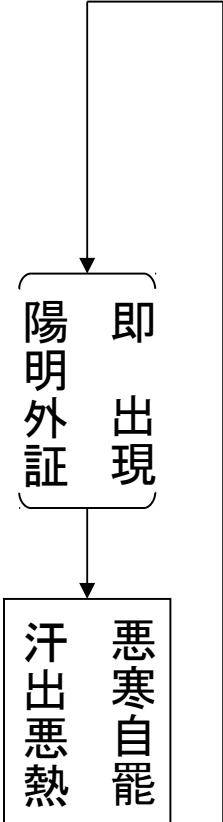
病轉属
陽明

病得之
一日

表邪
現存

不發熱
而惡寒

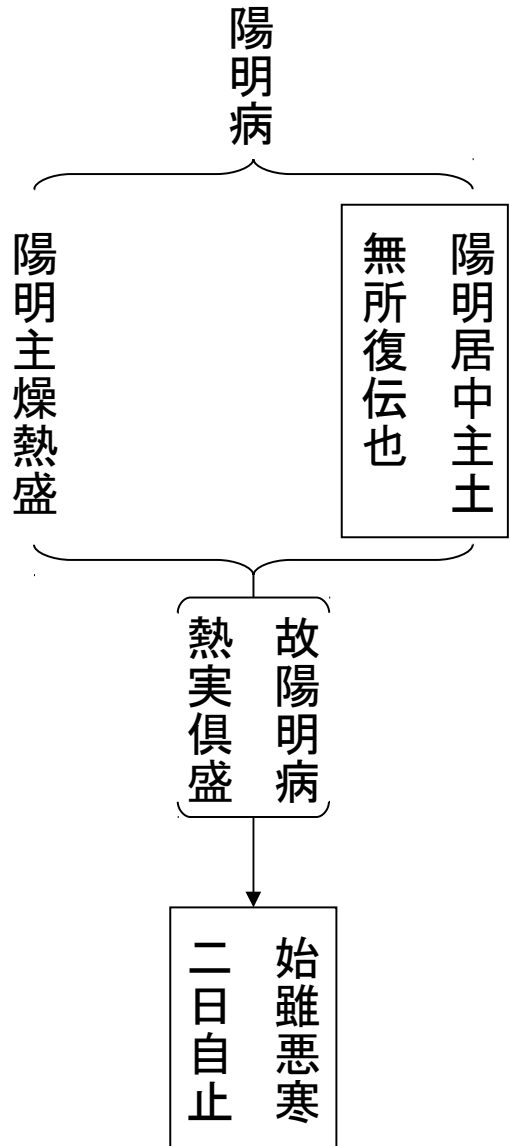
裏熱漸盛
熱勢外蒸



第一八四条 問曰、惡寒何故自罷。

答曰、陽明居中、主土也。万物所歸、無所復伝。

始雖惡寒、二日自止、此為陽明病也。



第一八五条 本太陽病、初得病時、発其汗不徹、因転属陽明也。

傷寒発熱、無汗、嘔不能食、而反汗出濇濇然者、是

転属陽明也。

太陽病

汗出不徹

表邪入裏

是転属
陽明病

傷寒

発熱無汗
(太陽傷寒)

嘔不能食
(少陽病)

反汗出

濇濇然

第一八六条 傷寒三日、陽明脉大。

傷寒三日

邪伝陽明

陽明病中焦燥熱(邪実)

陽明經多氣多血(正盛)

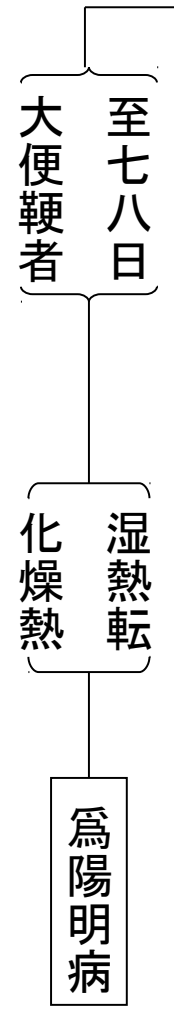
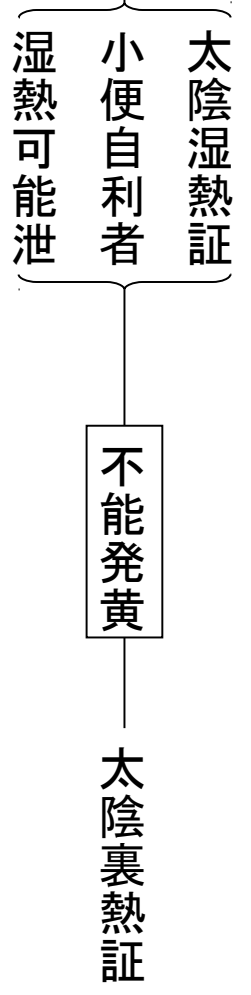
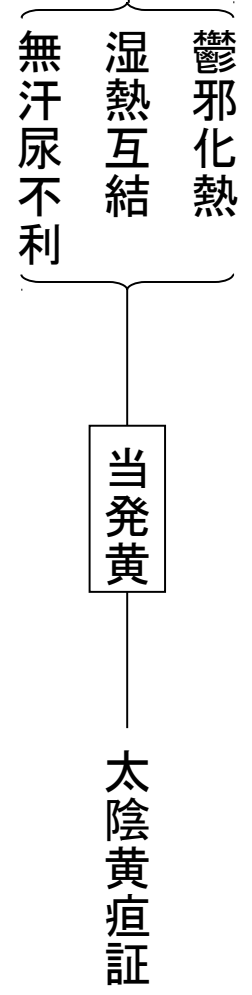
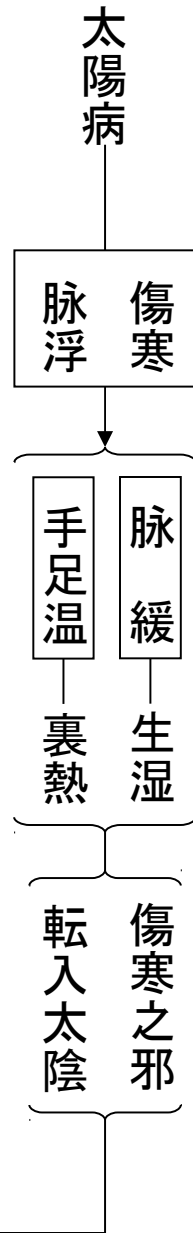
正盛邪実

激烈相搏

脉洪大滑数 || 脉大

第一八七条 傷寒脉浮而緩、手足自温者、是爲繫在太陰。太陰

者、身当發黄。若小便自利者、不能發黄。至七八日、大便鞭者、爲陽明病也。



第一八八条 傷寒転繋陽明者、其人澼然微汗出也。

太陽傷寒

無汗

発熱悪寒

邪入裏

熱迫津液

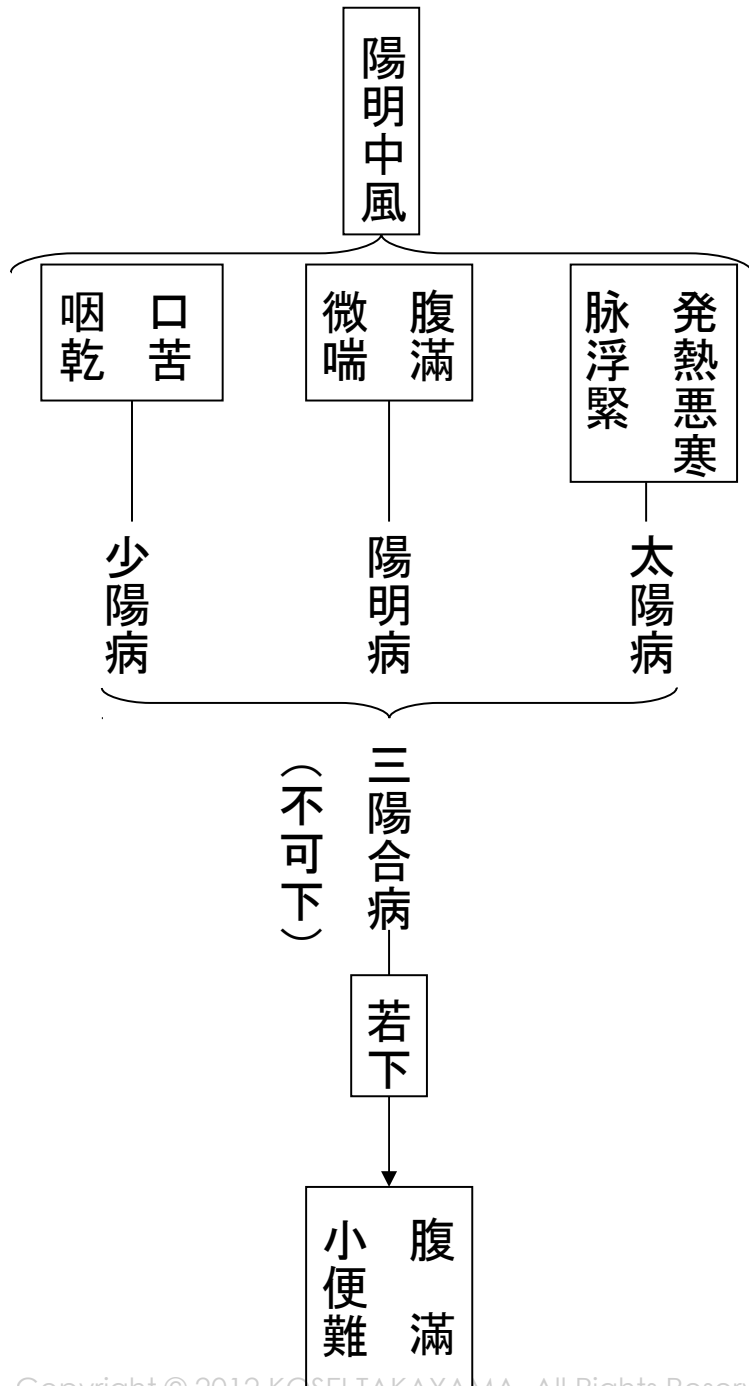
澼然微汗

裏熱旺盛—発熱不悪寒

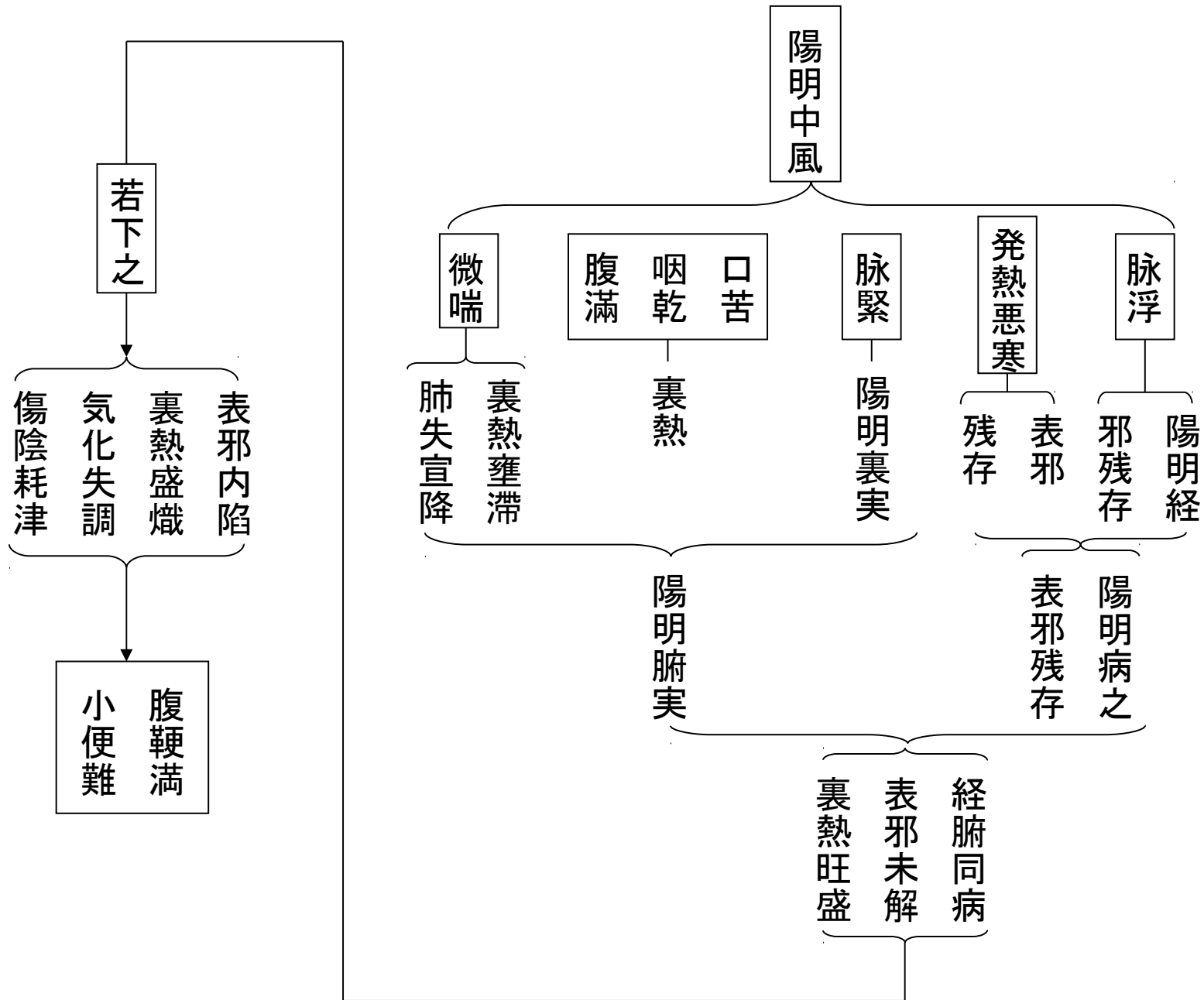
傷寒転繋陽明

第一八九条 陽明中風、口苦、咽乾、腹滿、微喘、発熱、悪寒、脉浮而緊。若下之、則腹滿小便難也。

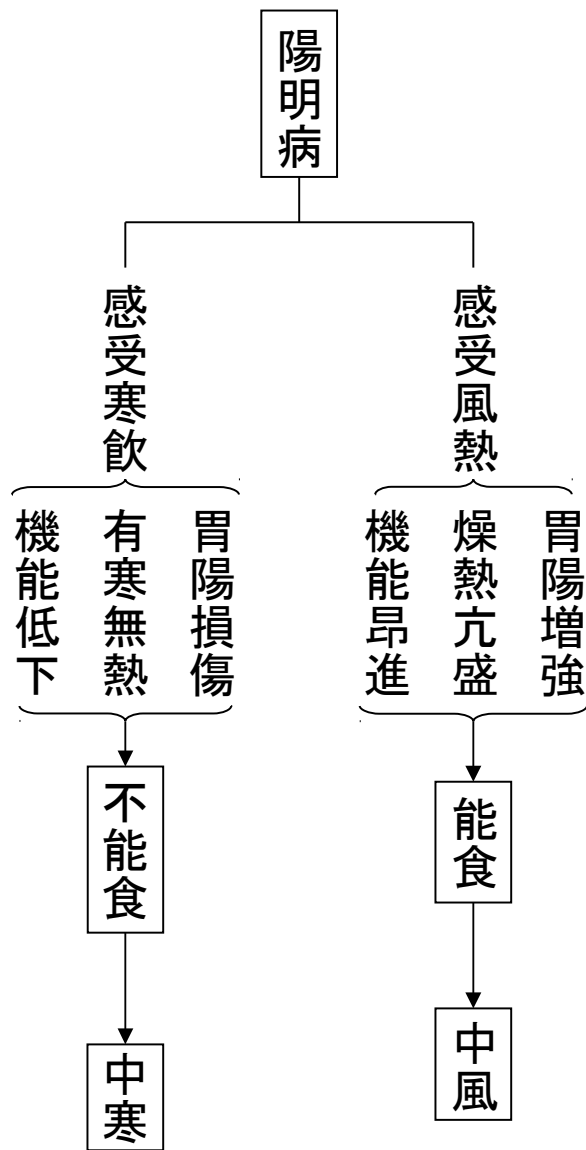
(弁証其の一)



（第一八九条 弁証其の二）

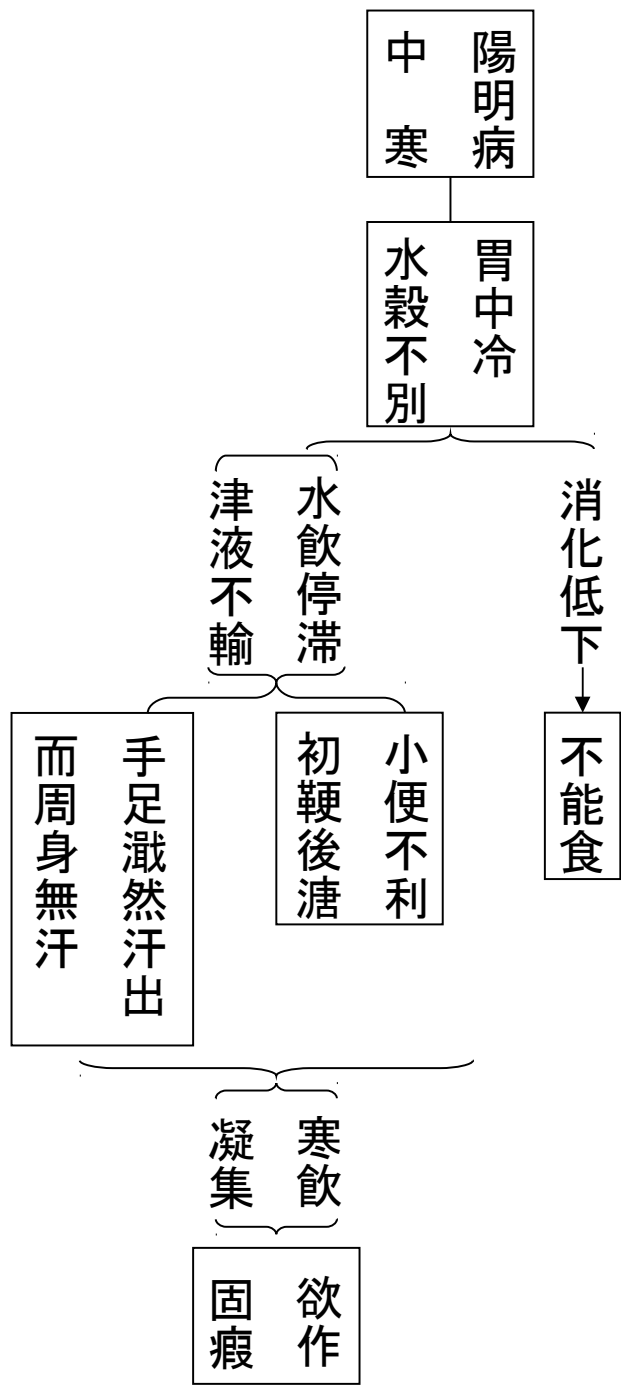


第一九〇条 陽明病、若能食、名中風。不能食、名中寒。



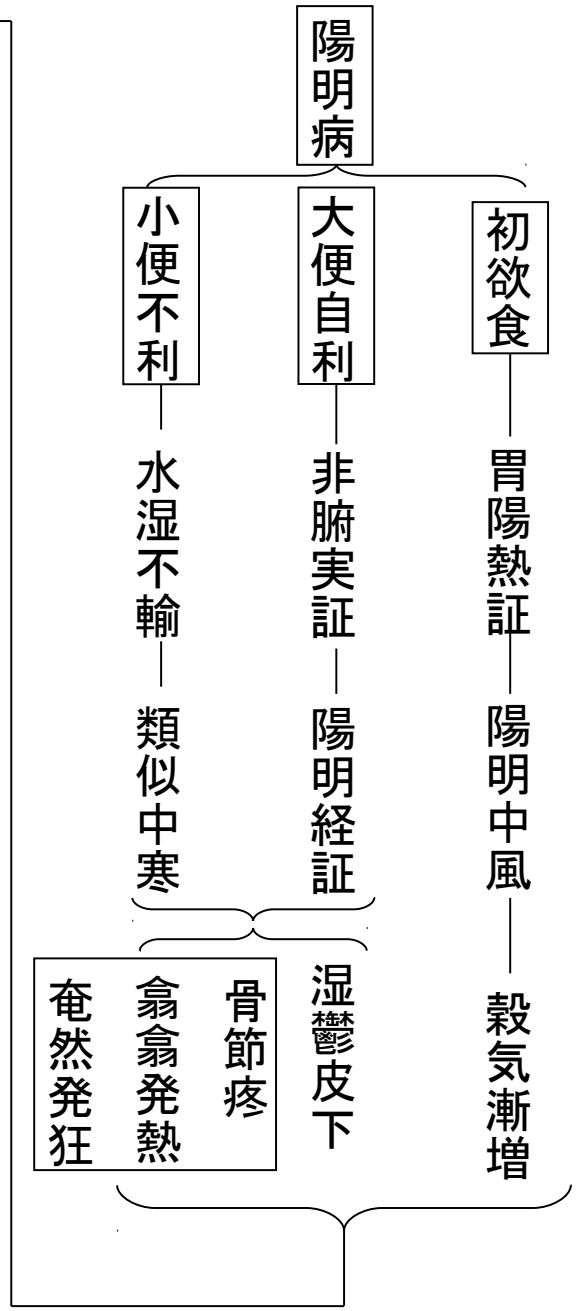
第一九一条 陽明病、若中寒者、不能食、小便不利、手足澀然

汗出、此欲作固瘕、必大便初鞭後溏。所以然者、以胃中冷、水穀不別故也。

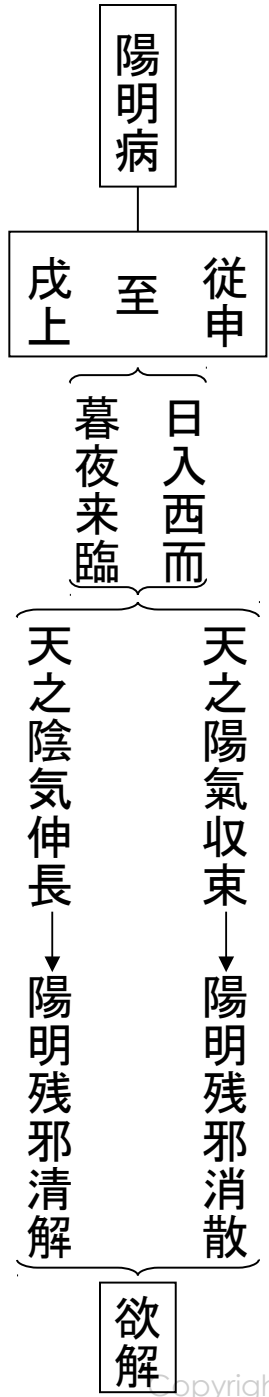
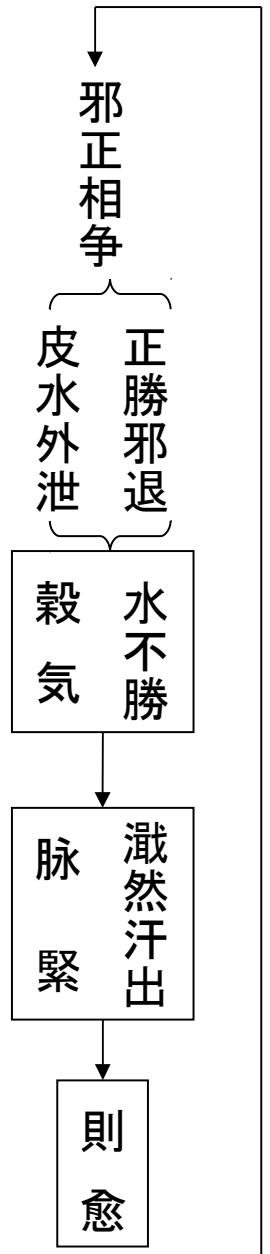


第一九二条 陽明病、初欲食、小便反不利、大便自調、其人骨

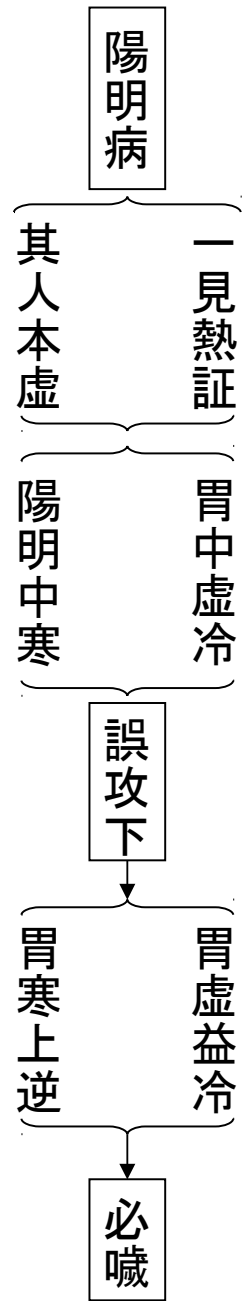
節疼、翕翕如有熱狀、奄然發狂、濇然汗出而解者、此水不勝穀氣、与汗共并、脉緊則愈。



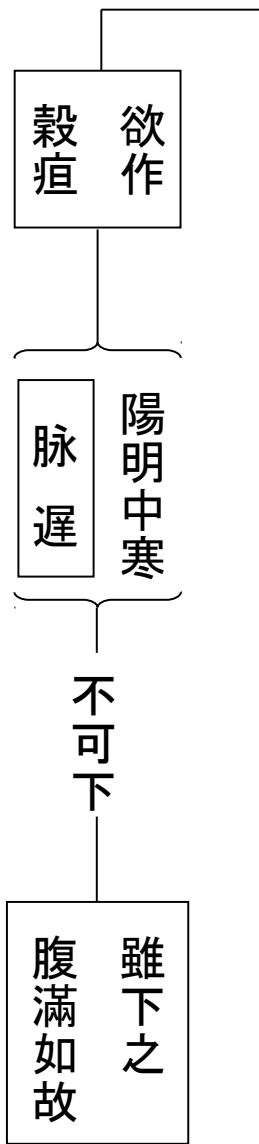
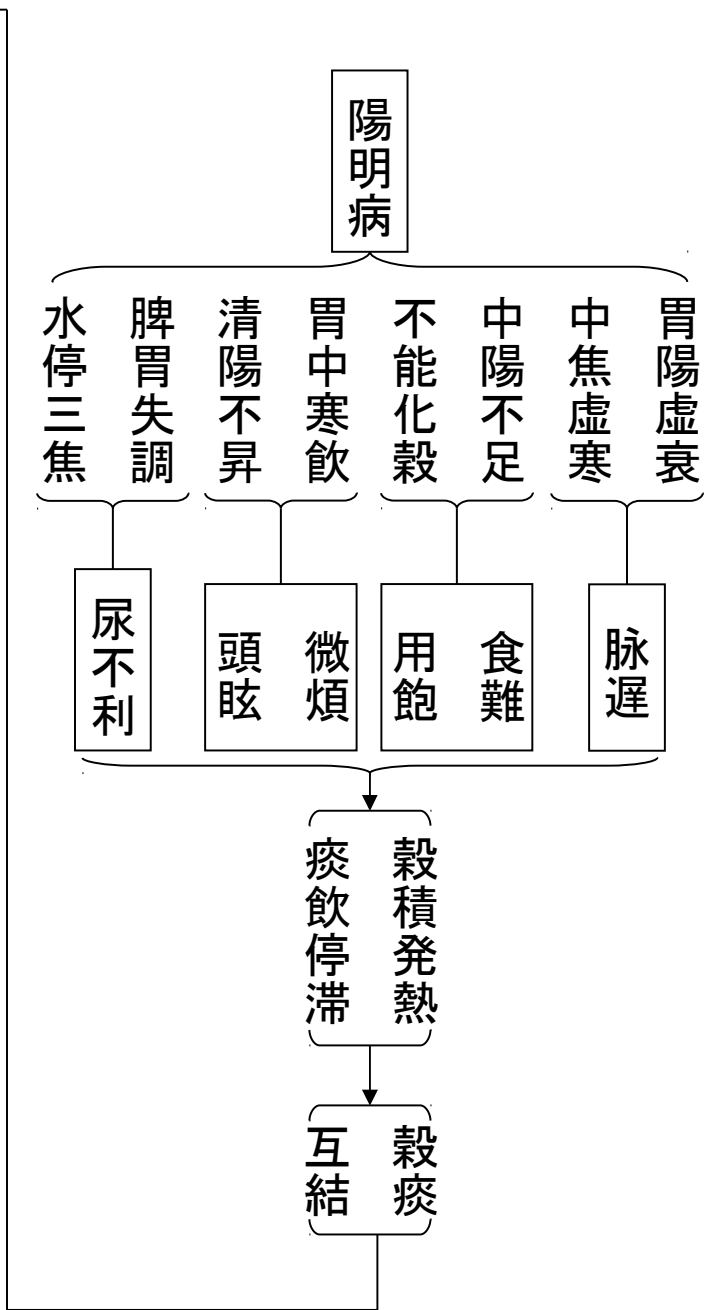
第一九三条 陽明病、欲解時、從申至戌上。



第一九四条 陽明病、不能食、攻其熱必噦。所以然者、胃中虛冷故也。以其人本虛、攻其熱必噦。

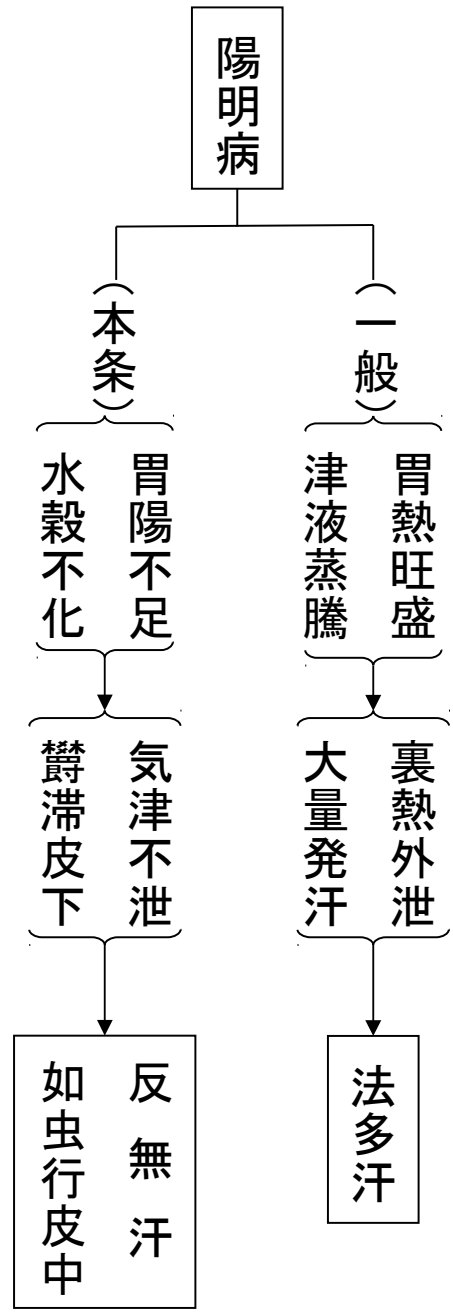


第一九五条 陽明病、脉遲、食難用飽。飽則微煩頭眩、必小便難、此欲作穀疸、雖下之、腹滿如故。所以然者、脉遲故也。

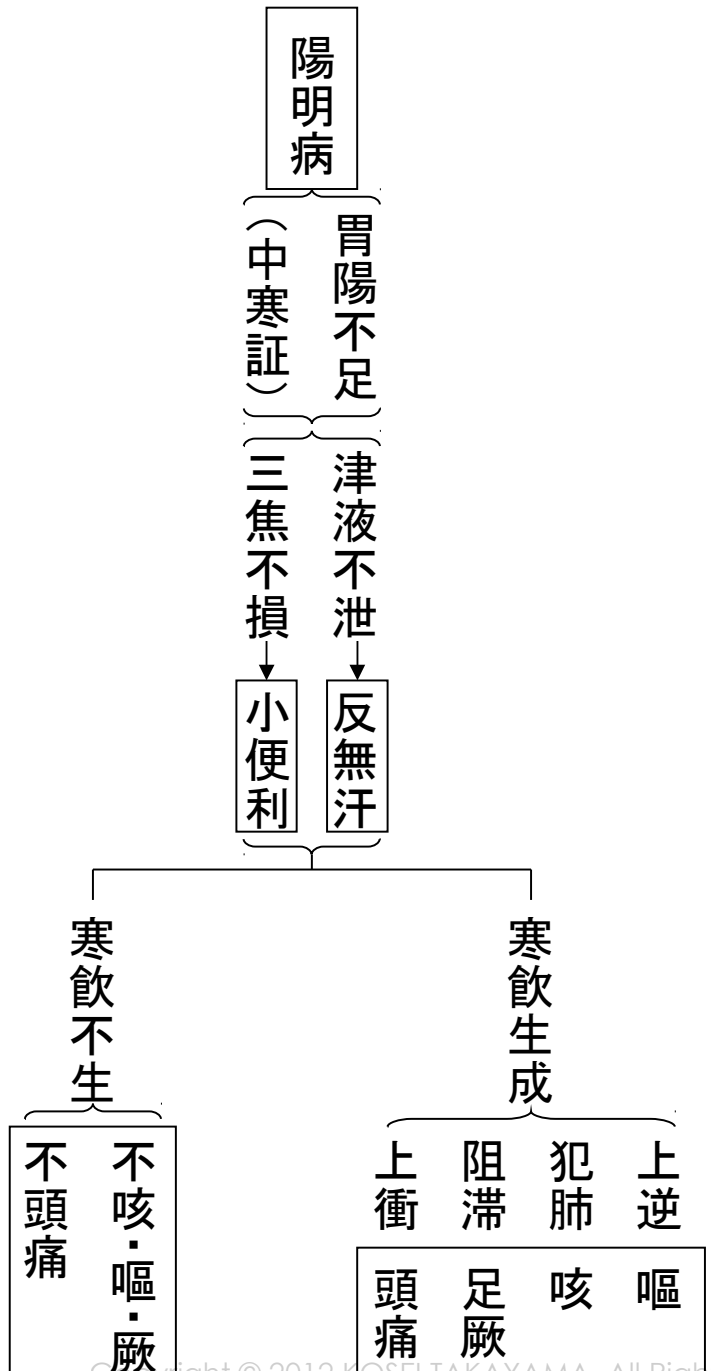


第一九六条 陽明病、法多汗、反無汗、其身如虫行皮中状者、

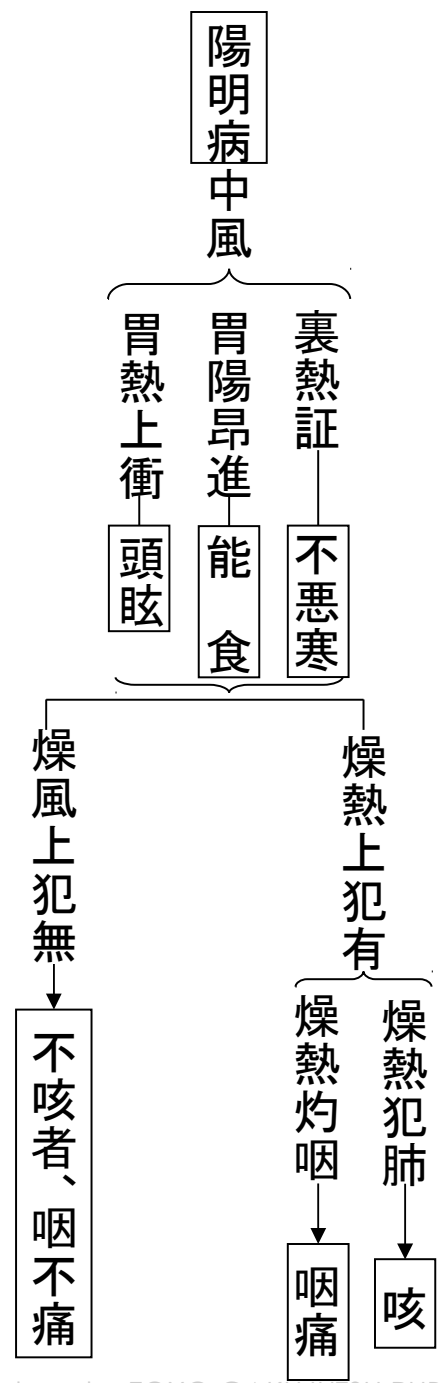
此以久虚故也。



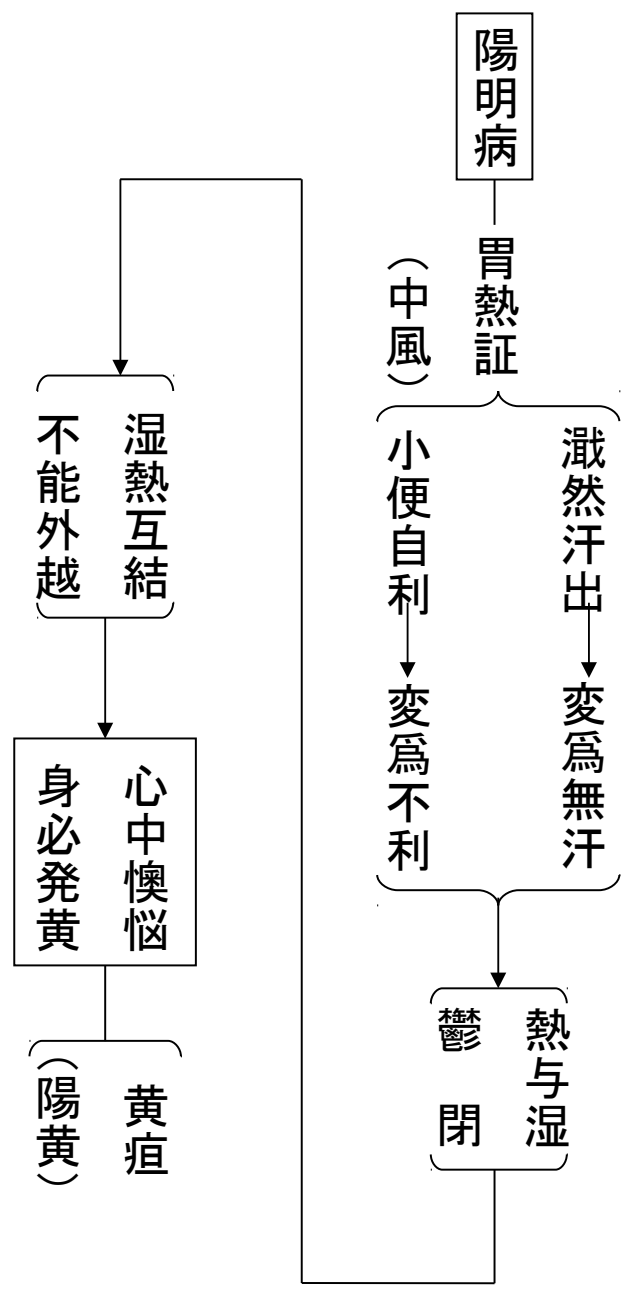
第一九七条 陽明病、反無汗而小便利、二三日嘔而咳、手足厥者、必苦頭痛。若不咳、不嘔、手足不厥者、頭不痛。



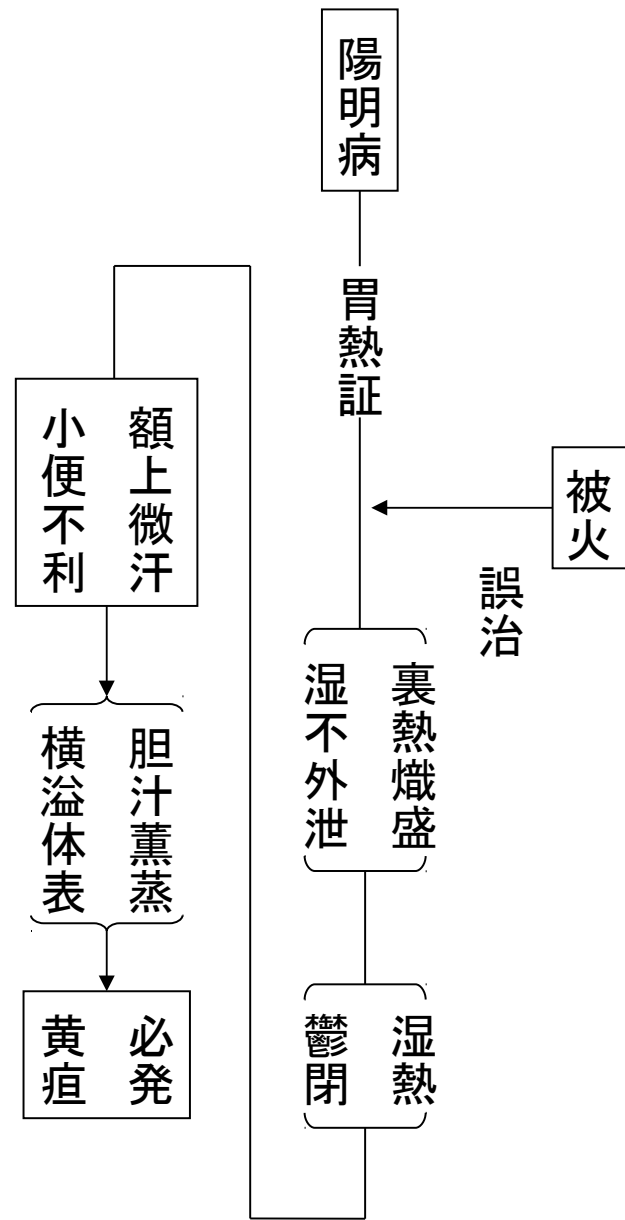
第一九八条 陽明病、但頭眩、不惡寒。故能食而咳、其人咽必痛。若不咳者、咽不痛。



第一九九条 陽明病、無汗、小便不利、心中懊惱者、身必發黃。

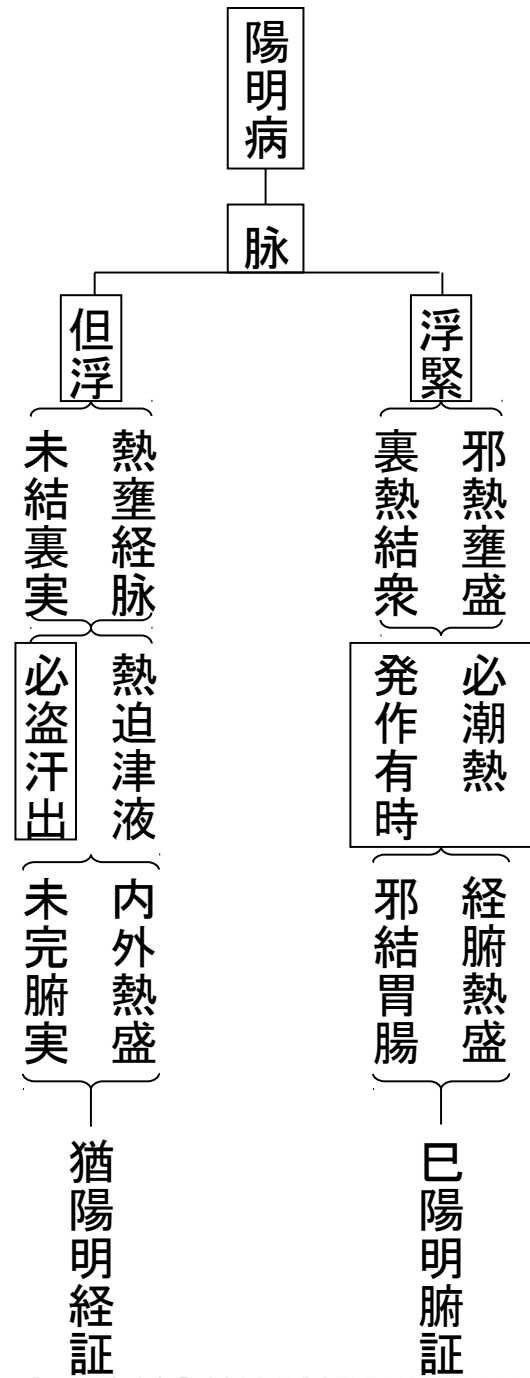


第二〇〇条 陽明病、被火、額上微汗出、而小便不利者、必發黃。

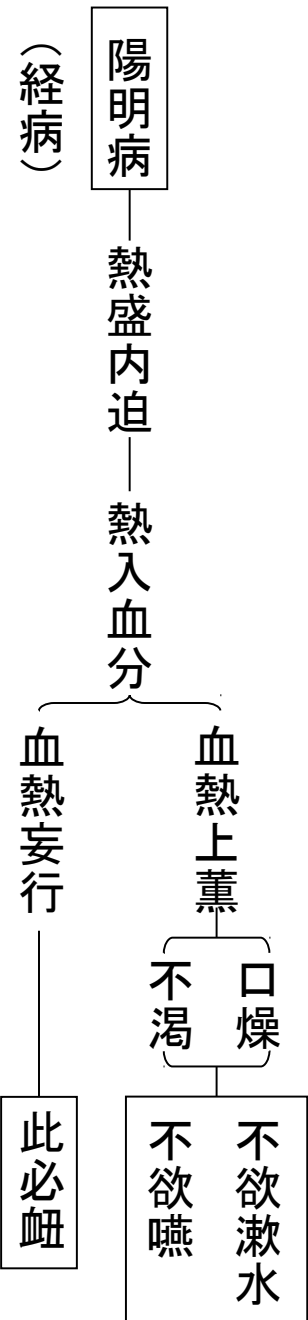


第二〇一条 陽明病、脉浮而緊者、必潮熱發作有時。但浮者、

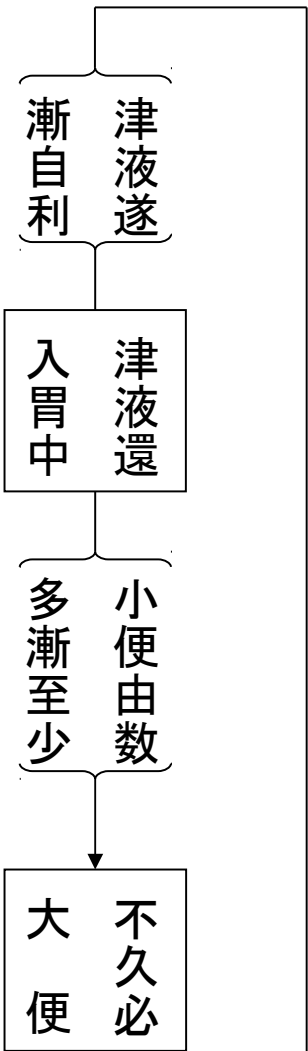
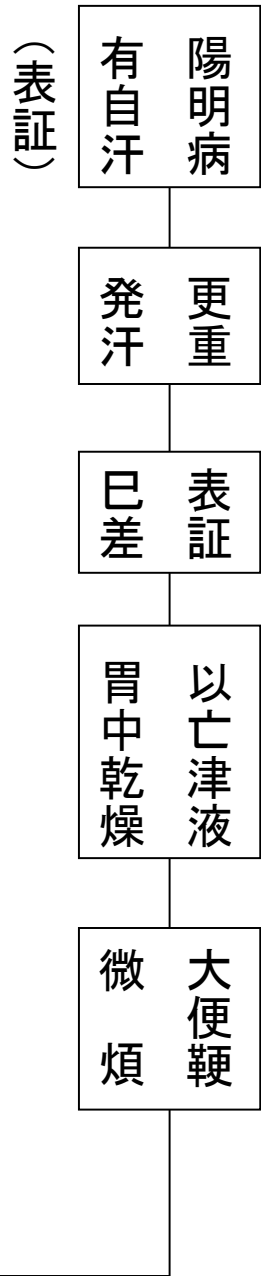
必盜汗出。



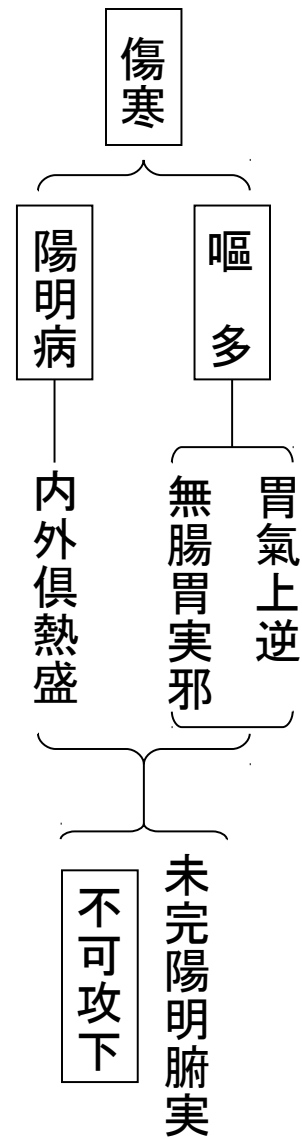
第二〇二条 陽明病、口燥但欲漱水、不欲嚥者、此必衄。



第二〇三条 陽明病、本自汗出。医更重發汗、病已差、尚微煩、不了々者、此必大便鞭故也。以亡津液、胃中乾燥、故令大便鞭。当問其小便日幾行、若本小便日三四行、今日再行、故知大便不久出。今爲小便少、以津液当還入胃中、故知不久必大便也。

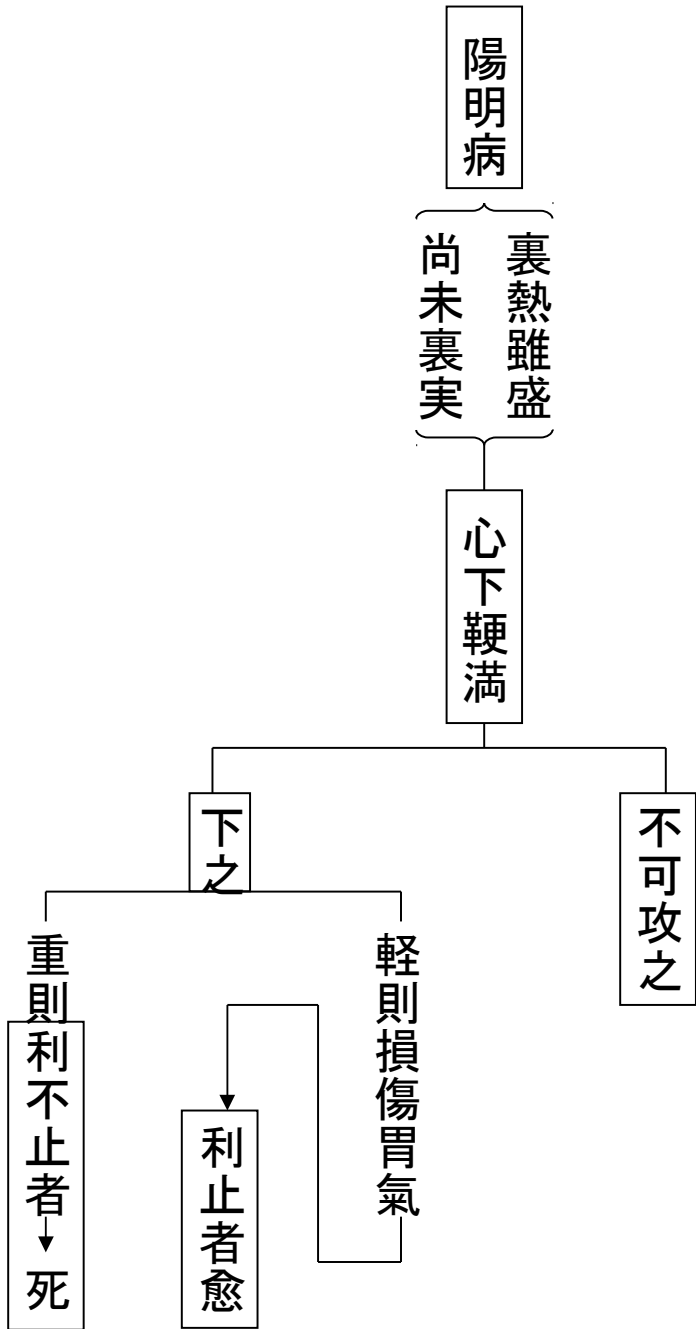


二〇四条 傷寒嘔多、雖有陽明証、不可攻之。



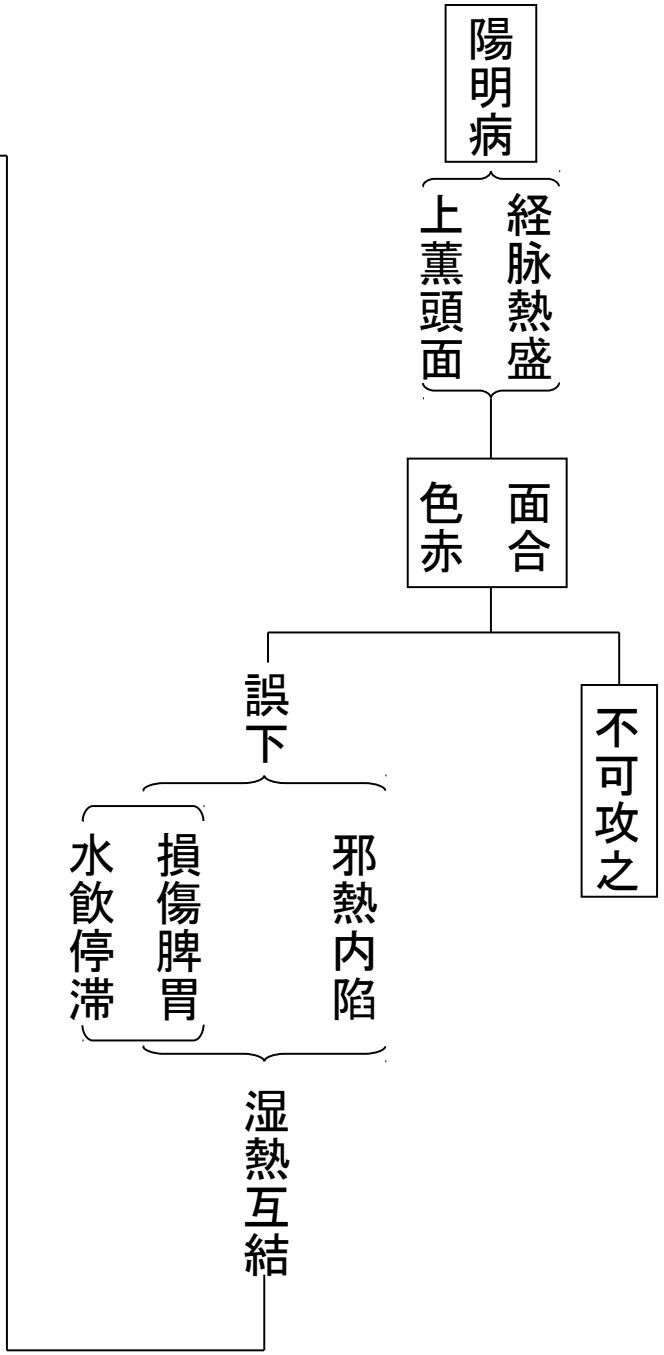
二〇五条 陽明病、心下鞭滿者、不可攻之。攻之、利遂不止者死。

利止者愈。

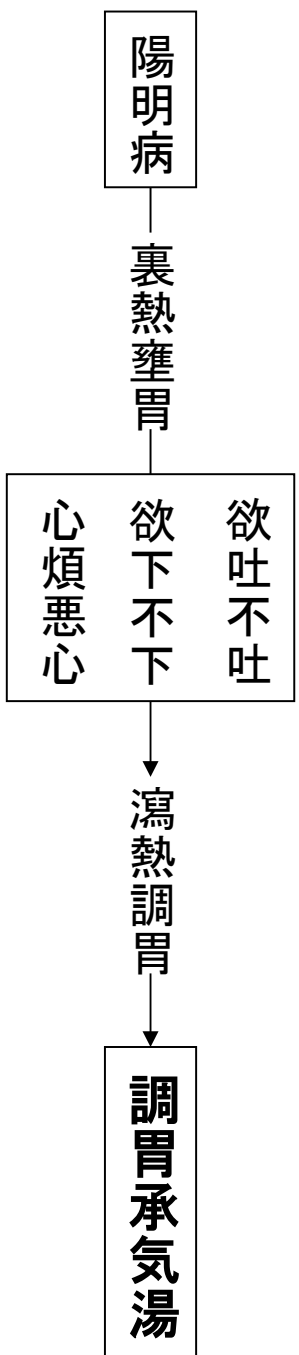


二〇六条 陽明病、面合色赤、不可攻之。必發熱、色黃者、

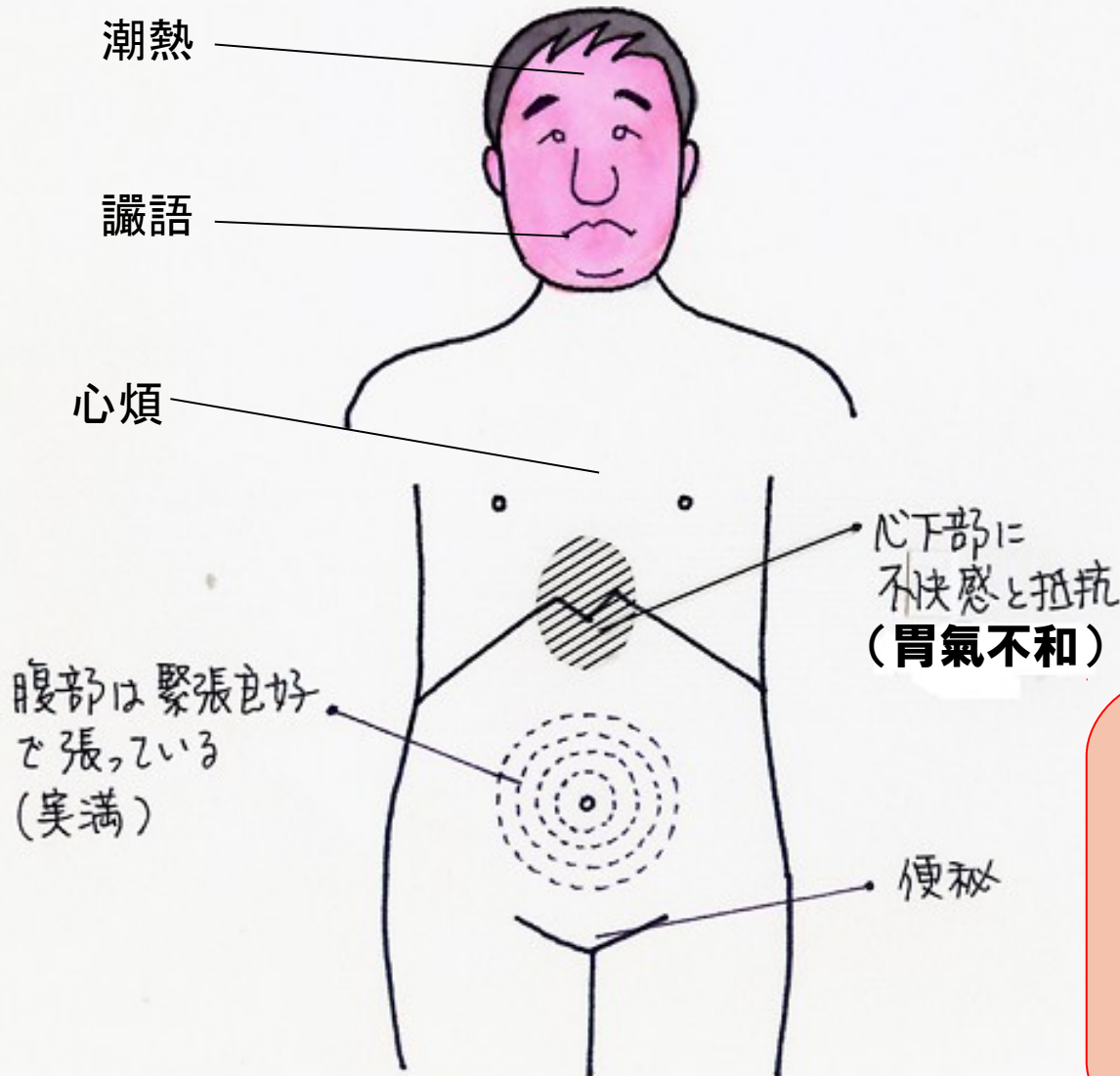
小便不利也。



二〇七条 陽明病、不吐、不下、心煩者、可與調胃承氣湯。



調胃承気湯の証



方意

陽明病の代表的方劑である承気湯類の中では最も作用の緩和な薬方である。
順気通便の方劑である。
病位は陽明病 裏熱実証
脈は沈実
舌は乾燥し、厚い黄苔或いは白苔

弁証のTrias

- 1) 腹部実満、便秘
- 2) 胃氣不和
- 3) 時に潮熱、煩躁、讞語

第二〇八条 陽明病、脉遲、雖汗出不惡寒者、其身必重、短氣、

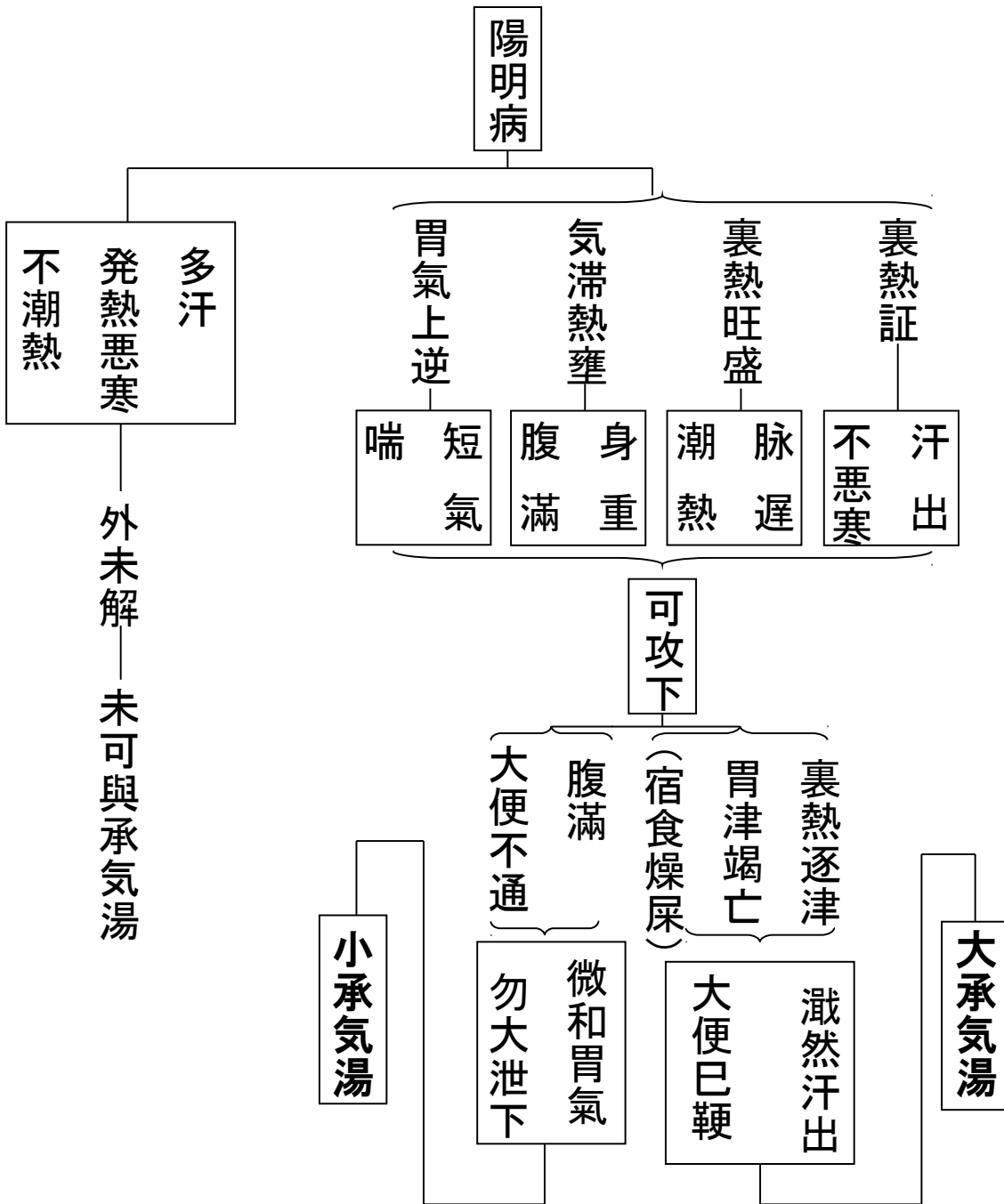
腹滿而喘、有潮熱者、此外欲解、可攻裏也。手足濇然

汗出者、此大便已鞭也、**大承氣湯**主之。

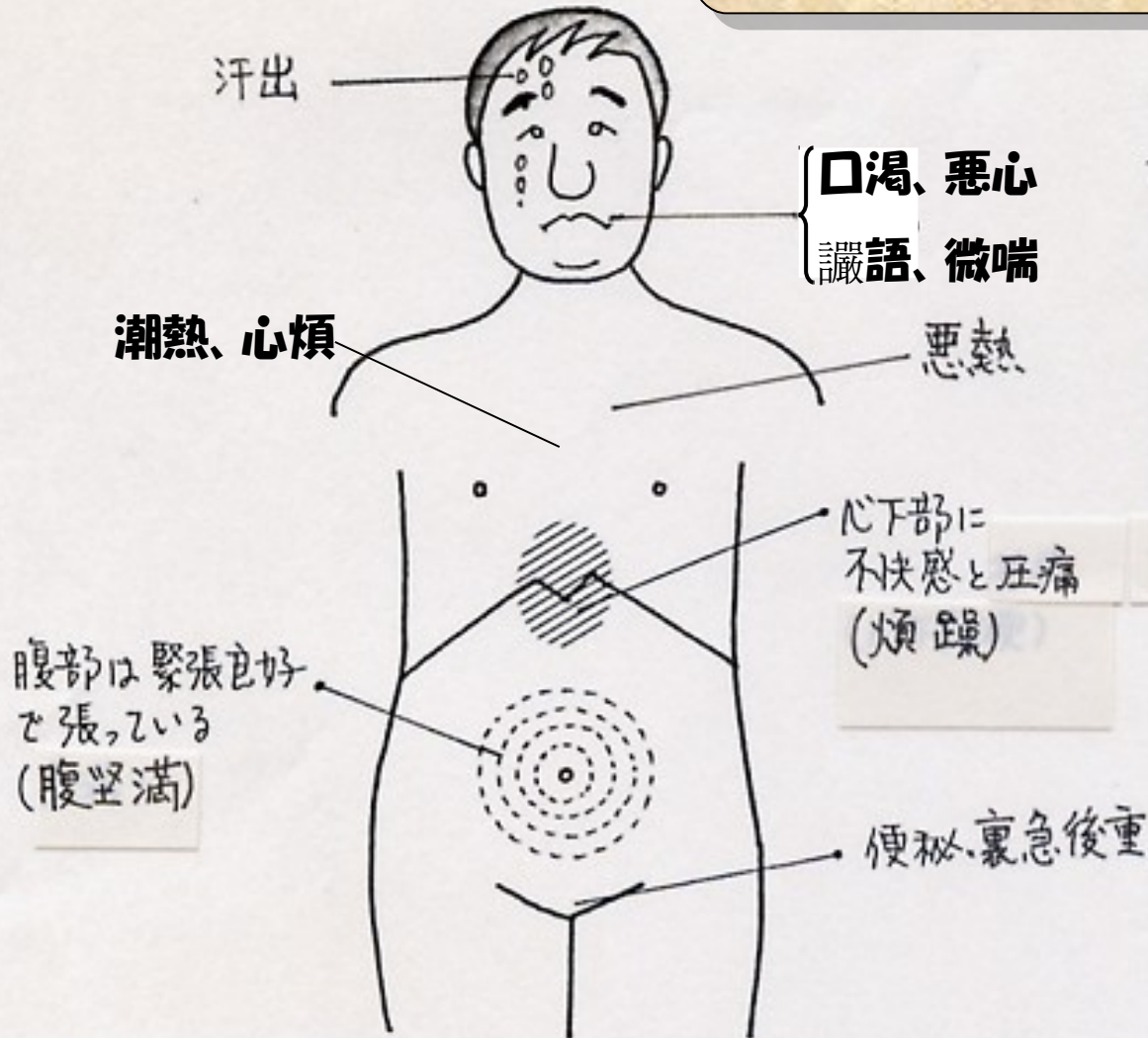
若汗多、微發熱惡寒者、外未解也。其熱不潮、未可與

承氣湯。若腹大滿不通者、可與**小承氣湯**、微和胃氣、

勿令至大泄下。



大承気湯の証*



陽明病の代表的方剤である承気湯類の中では最も作用の強力な薬方である。順気通便の方剤である。病位は陽明病裏熱実証脈は沈実遲舌は乾燥し、厚い黄苔或いは黒苔

弁証のTrias

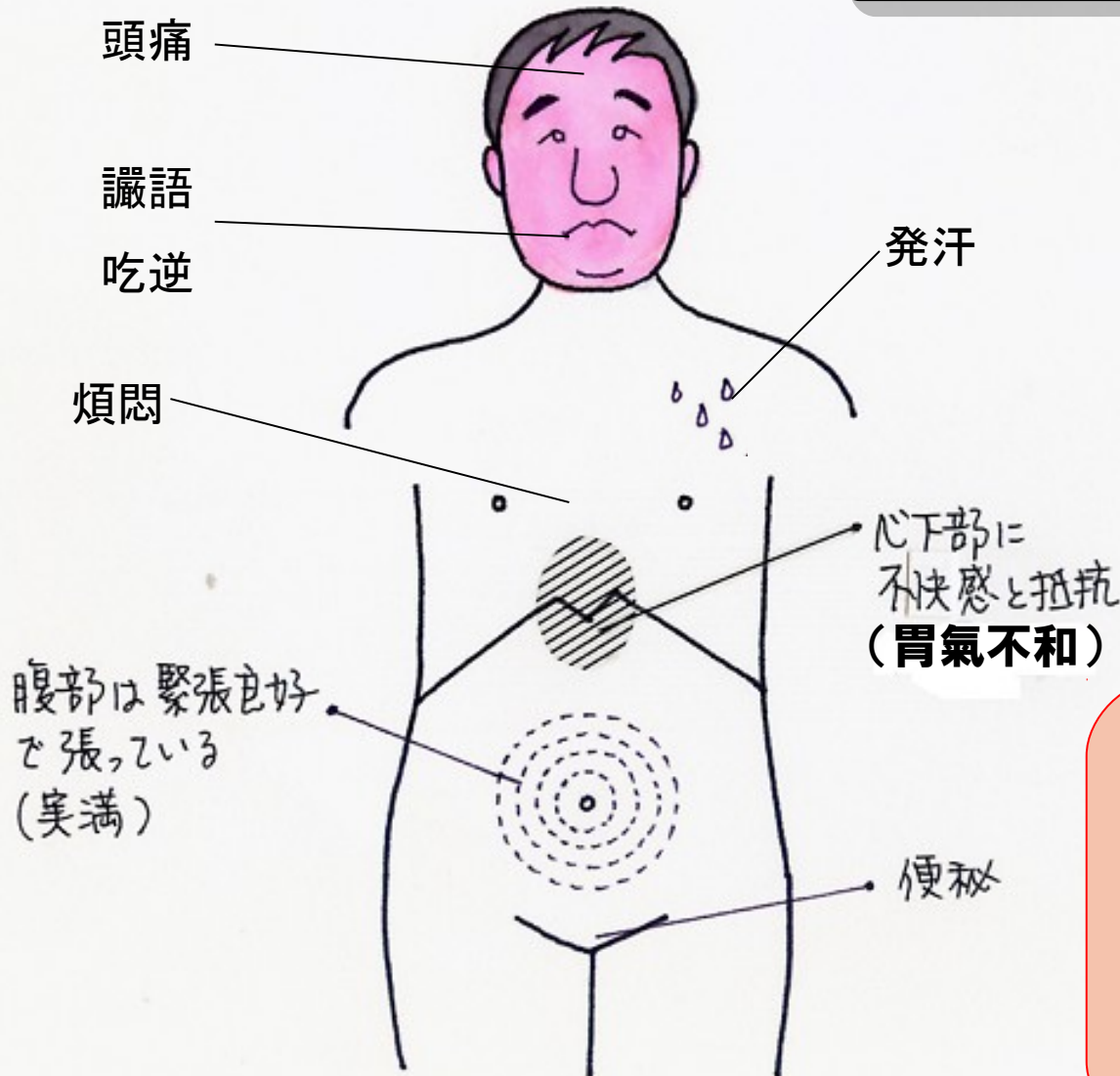
- 1) 陽明腑証極期
- 2) 潮熱、譫語、多汗
- 3) 腹実満痛、便秘、拒按

K. Takayama

小承氣湯の証

方意

大承氣湯より芒硝を去ることにより瀉下泄熱の働きを若干緩和し、瀉下泄熱に胃氣を和す機能が加わる。三承氣湯の中では陽明腑実の未だ軽度の例に用いる。

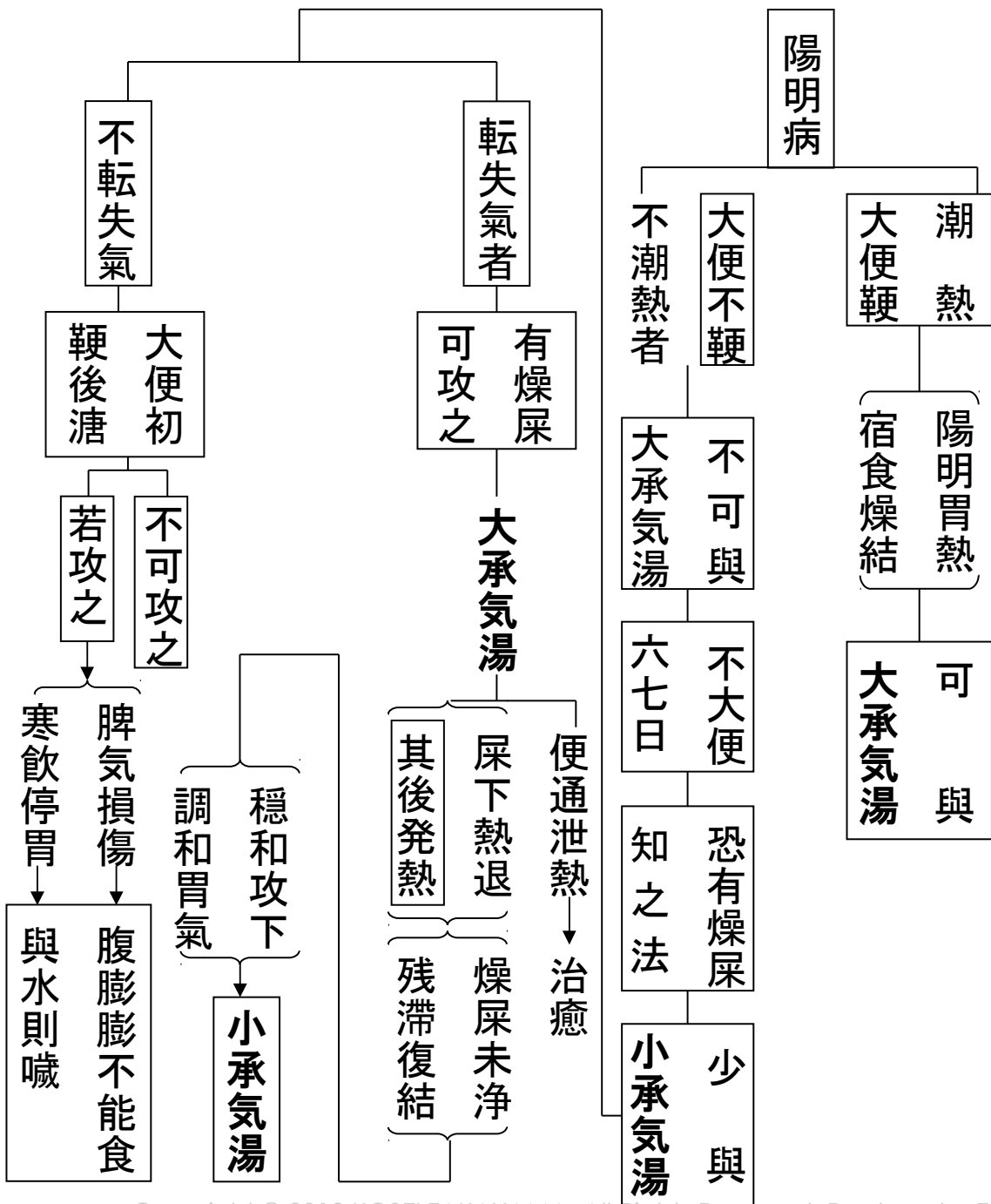


弁証のTrias

- 1) 腹部実満、便秘して痛む
- 2) 脉沈滑、舌苔黄または黒
- 3) 潮熱、煩躁、讞語

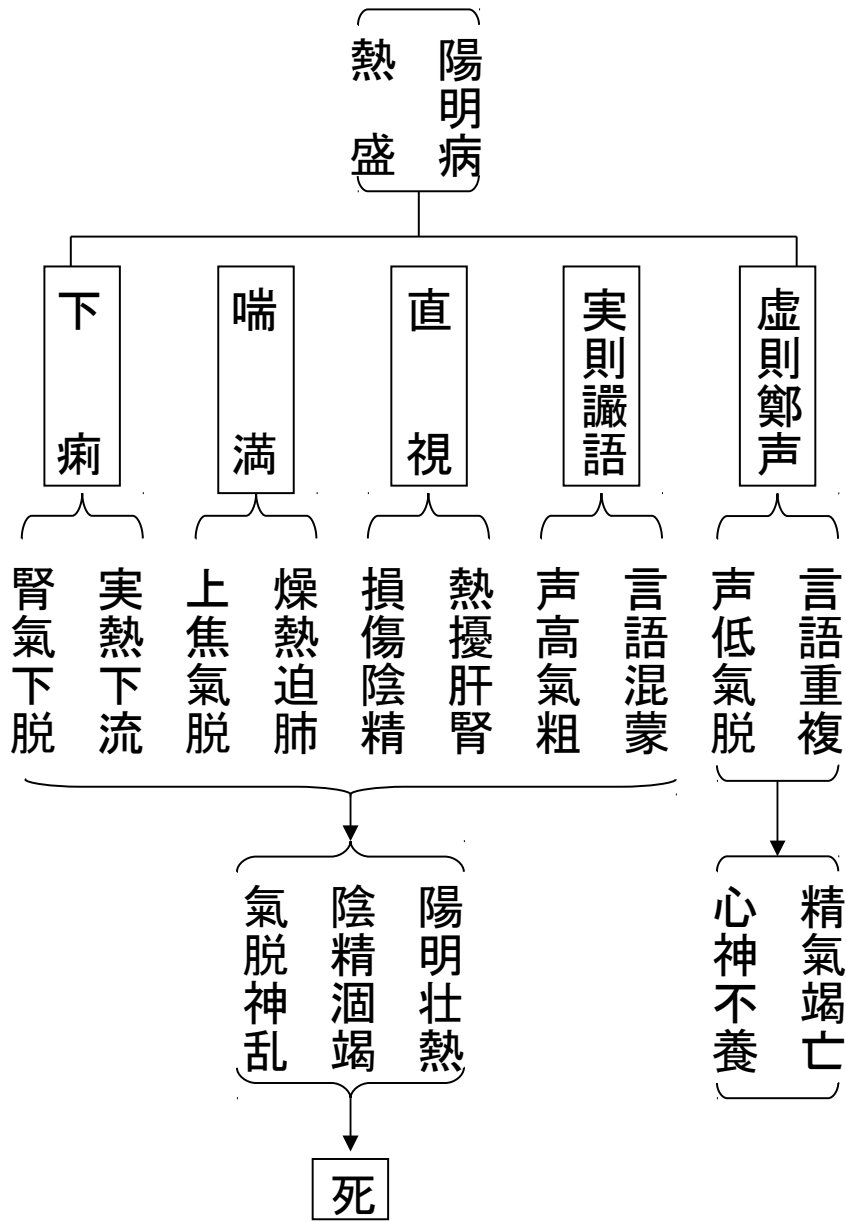
第二〇九条 陽明病、潮熱、大便鞭者、可與大承氣湯。

不鞭者、不可與之。若不大便六七日、恐有燥屎、欲知之法、少與小承氣湯、湯入腹中轉失氣者、此有燥屎也、乃可攻之。若不轉失氣者、此但初頭鞭、後必溏、不可攻之、攻之必脹滿不能食也。欲飲水者、與水則噦。其後發熱者、必大便鞭而少也、以小承氣湯和之。不轉失氣者、慎不可攻之也。



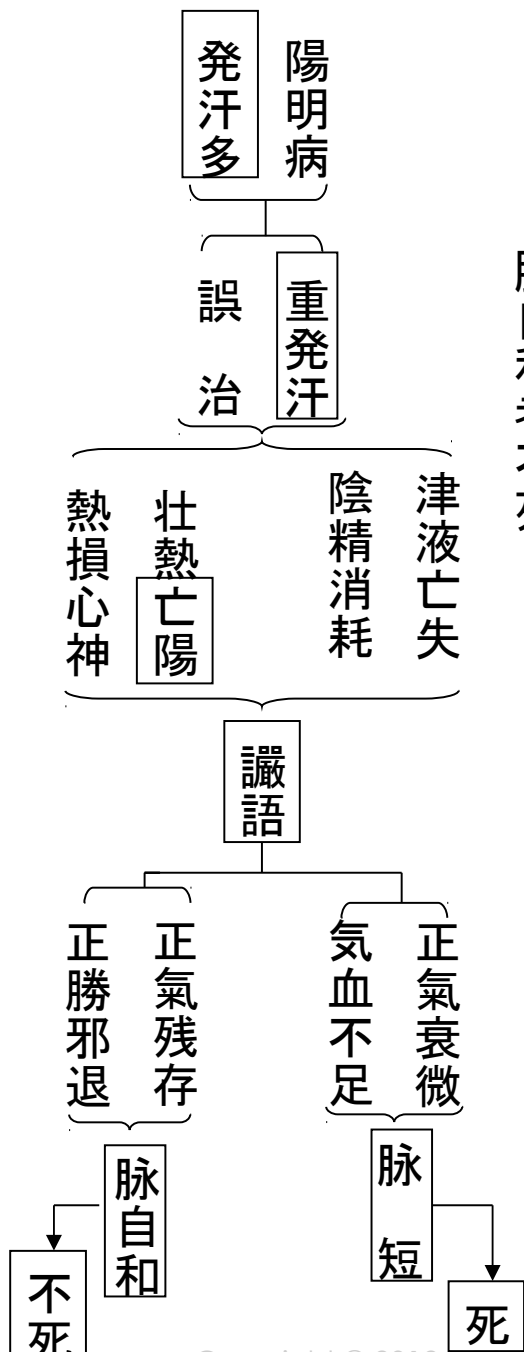
第二一〇条 夫実則讖語、虚則鄭声。鄭声者、重語也。直視、讖

語、喘滿者死、下利者亦死。



第二一一条 発汗多、若重発汗者、亡其陽、讖語、脉短者死。

脉自和者不死。

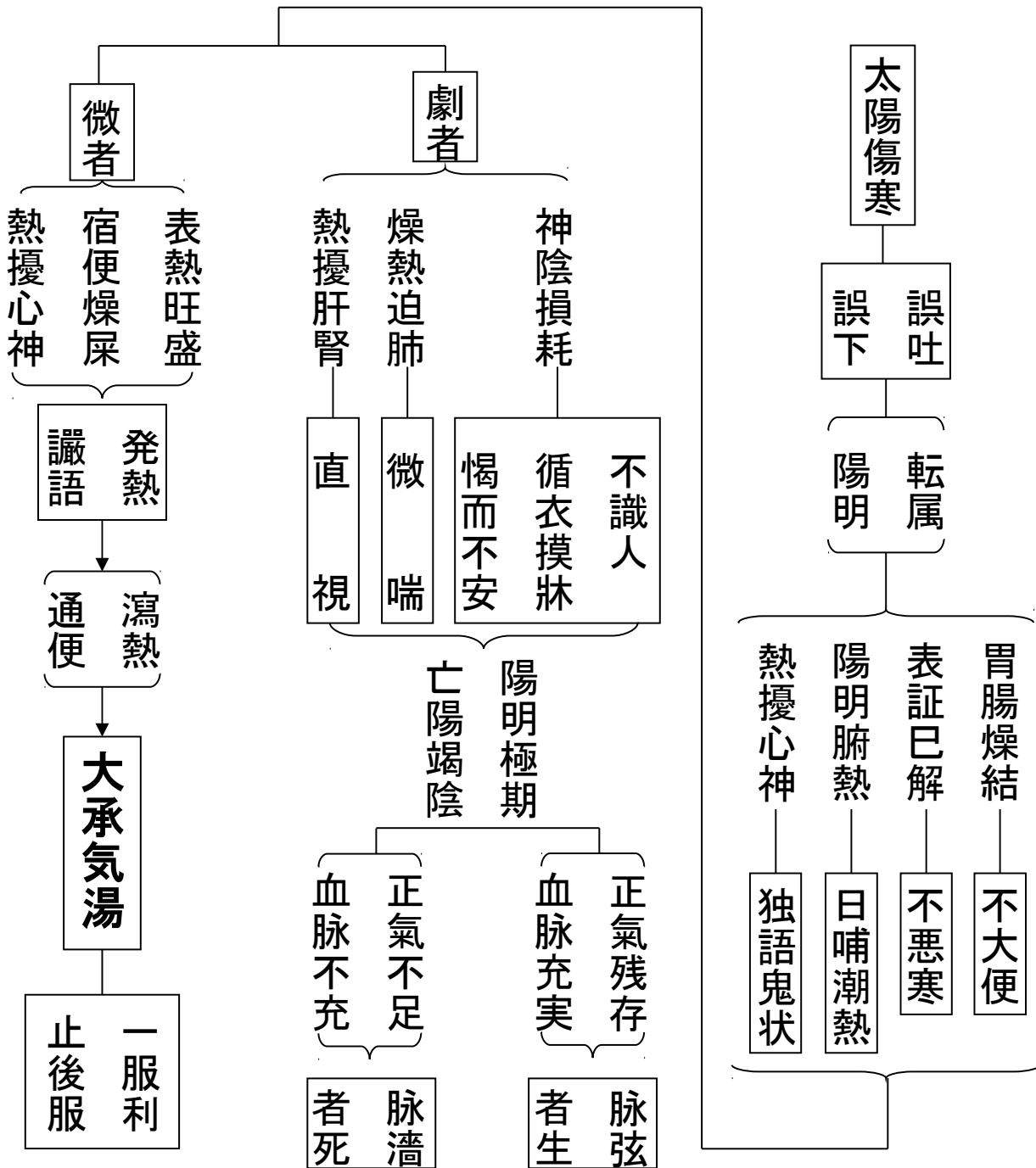


第二一二条 傷寒若吐、若下後不解、不大便五六日、上至十余日、

日晡所發潮熱、不惡寒、独語如見鬼狀。

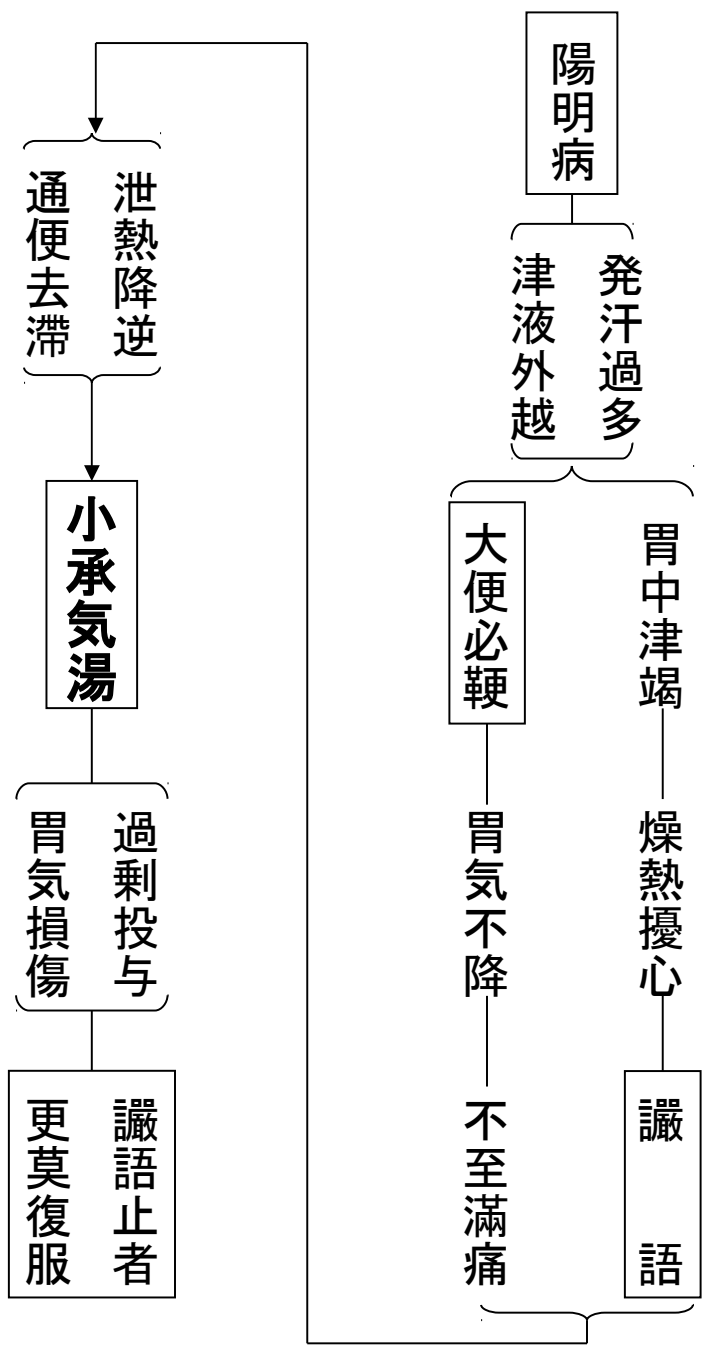
若劇者、發則不識人、循衣摸牀、愒而不安、微喘直視、脉弦者生、濇者死。

微者、但發熱讖語者、主之大承氣湯。若一服利、則止後服。



第二一三条 陽明病、其人多汗、以津液外出、胃中燥、大便

必鞭、鞭則讖語、小承氣湯主之。若一服讖語止者、更莫復服。



第二二四条 陽明病、讖語、發潮熱、脉滑而疾者、小承氣湯主之。

因與承氣湯一升、腹中轉氣者、更服一升。

若不轉氣者、勿更與之。

明日又不大便、脉反微瀼者、裏虛也、為難治、不可

更與承氣湯也。

陽明病

讖語潮熱

陽明腑實

脉滑而疾

裏熱旺盛

便鞭較輕

實中有虛

和胃通便

不轉氣者

燥屎未成

勿更與

小承氣湯
一升

腹中轉氣

有燥屎

更服一升

明日又
不大便
脉微瀼

通便→愈

裏虛也

虛實錯雜

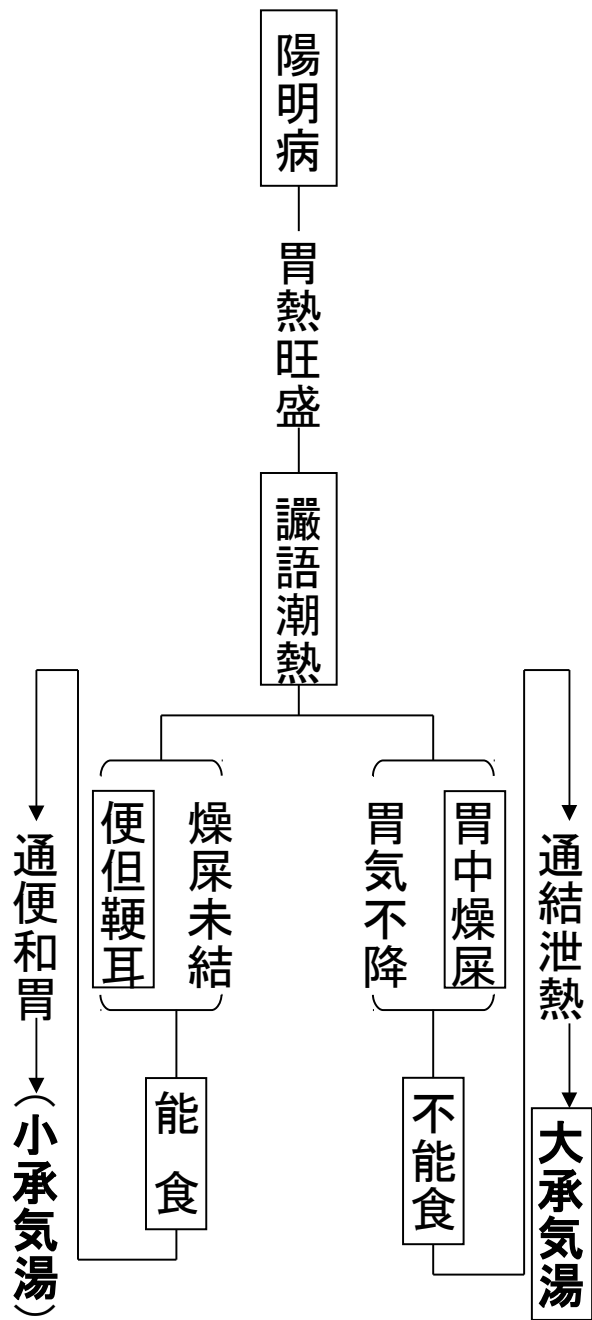
難治

不可與
承氣湯

第二一五条 陽明病、讖語、有潮熱、反不能食者、胃中必有燥屎

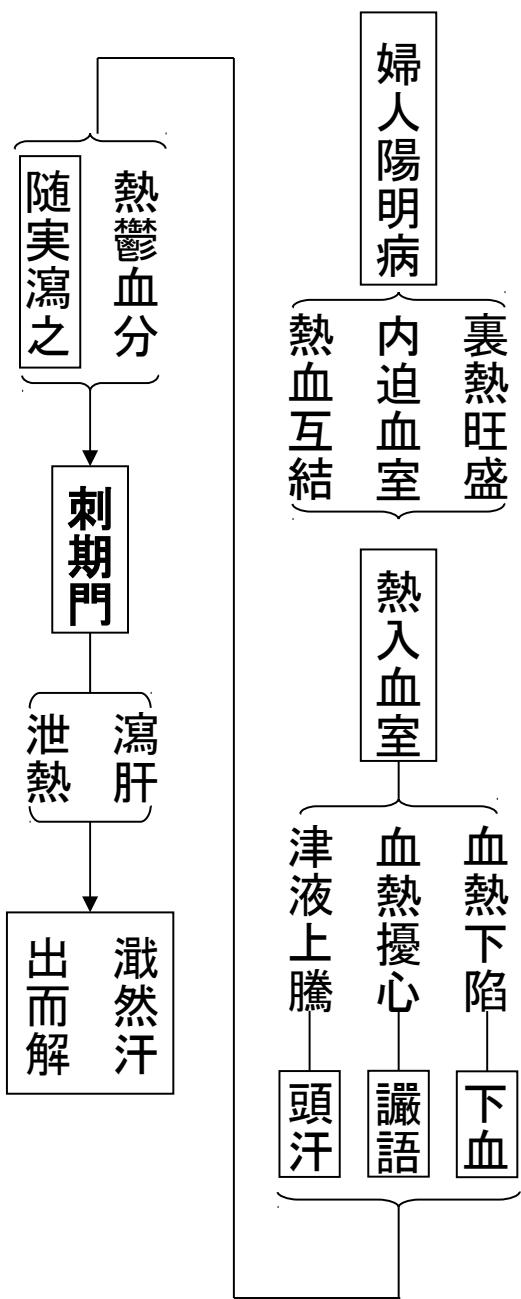
五六枚也。

若能食者、但鞭耳。宜大承氣湯下之。



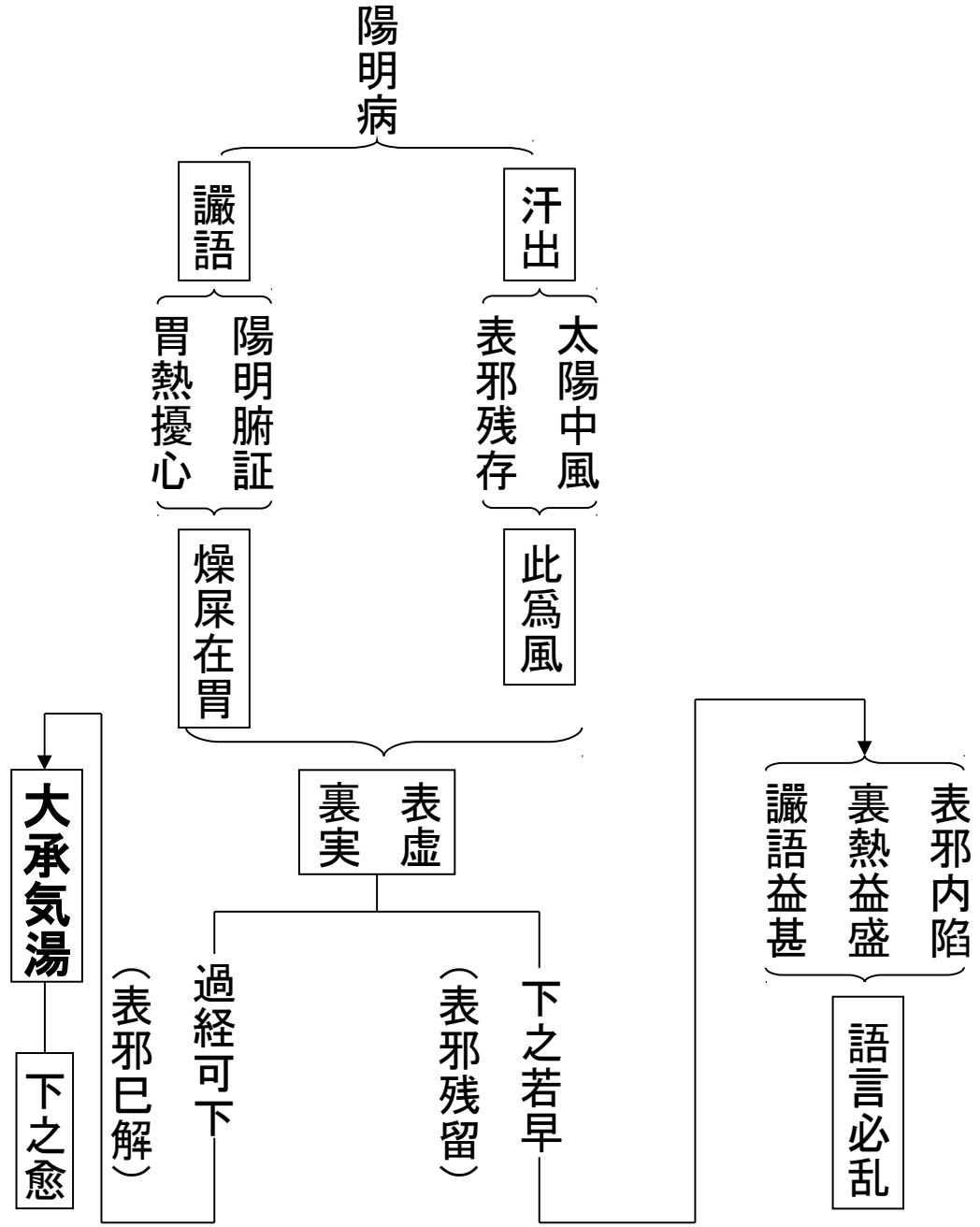
第二一六条 陽明病、下血、讖語者、此為熱入血室。但頭汗出者、

刺期門、隨其寒而瀉之、澱然汗出則愈。



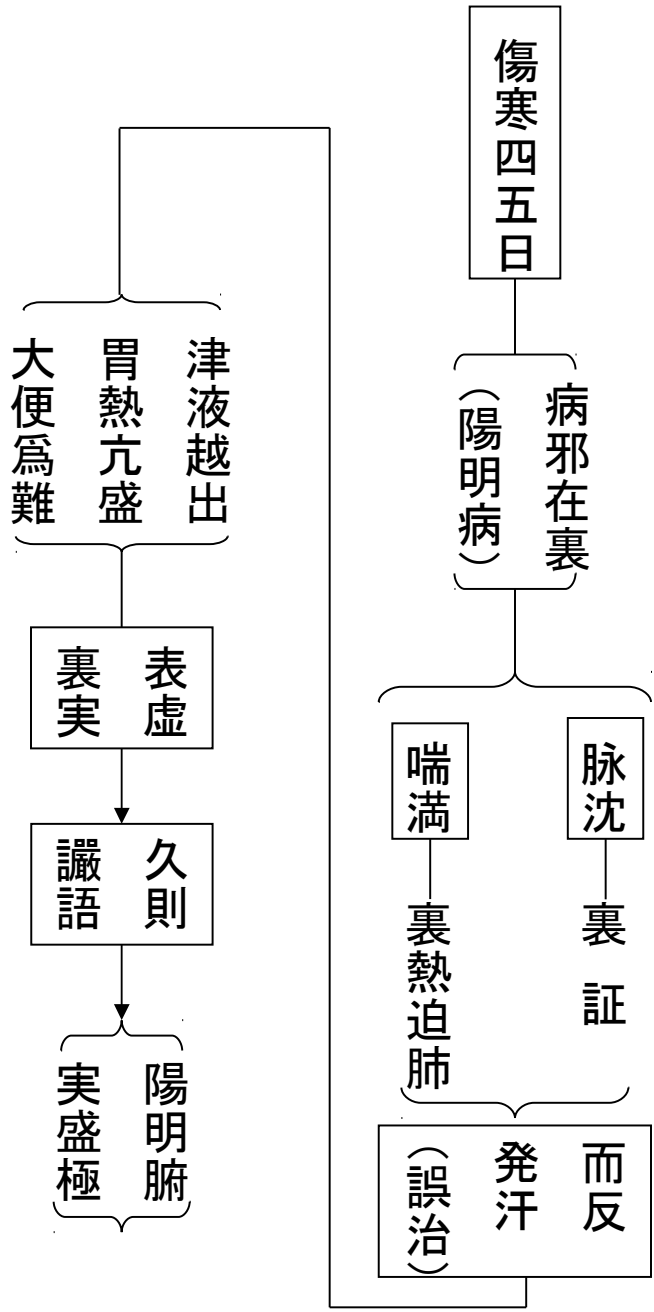
第二一七条 汗出讖語者、以有燥屎在胃中、此爲風也。

須下者、過經乃可下之。下之若早、語言必乱、以表虛裏實故也。下之愈、宜大承氣湯。



第二一八条 傷寒四五日、脉沈而喘滿。沈爲在裏、而反發其汗、

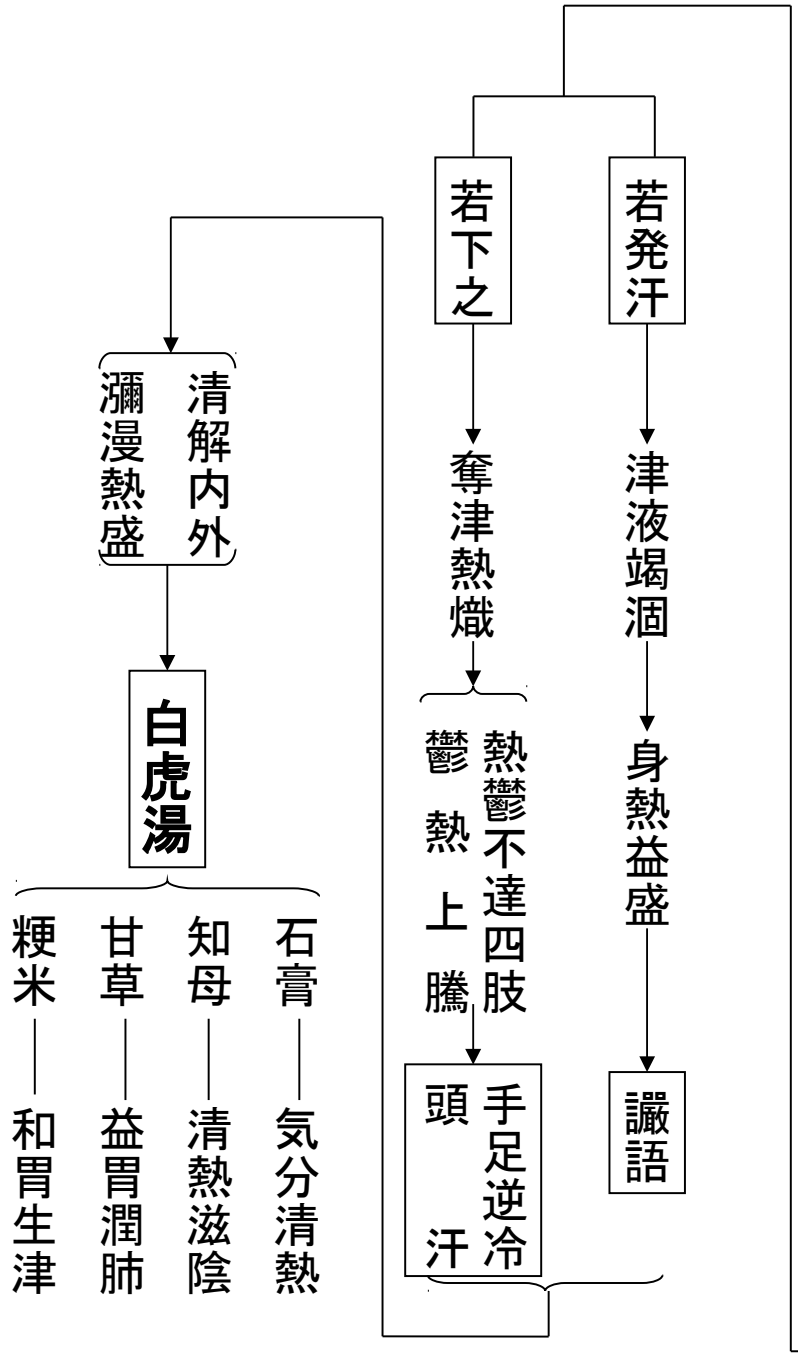
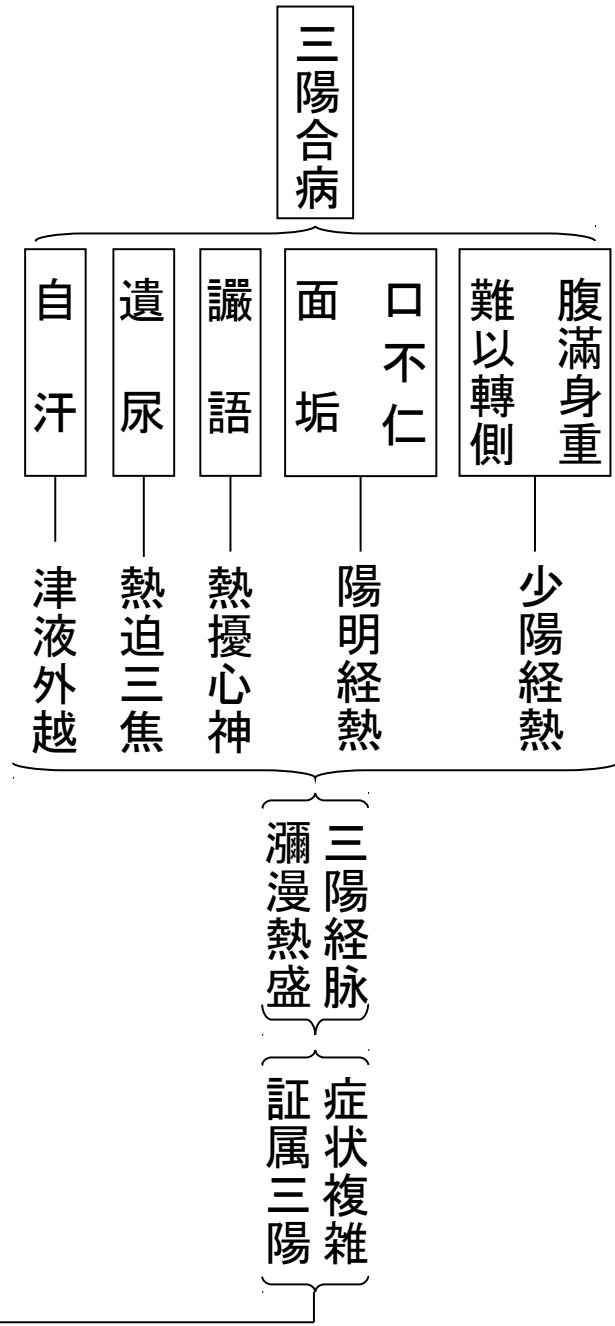
津液越出、大便爲難。表虛裏實、久則讖語



第二一九條 三陽合病、腹滿、身重、難以轉側、口不仁、面垢、讞語、

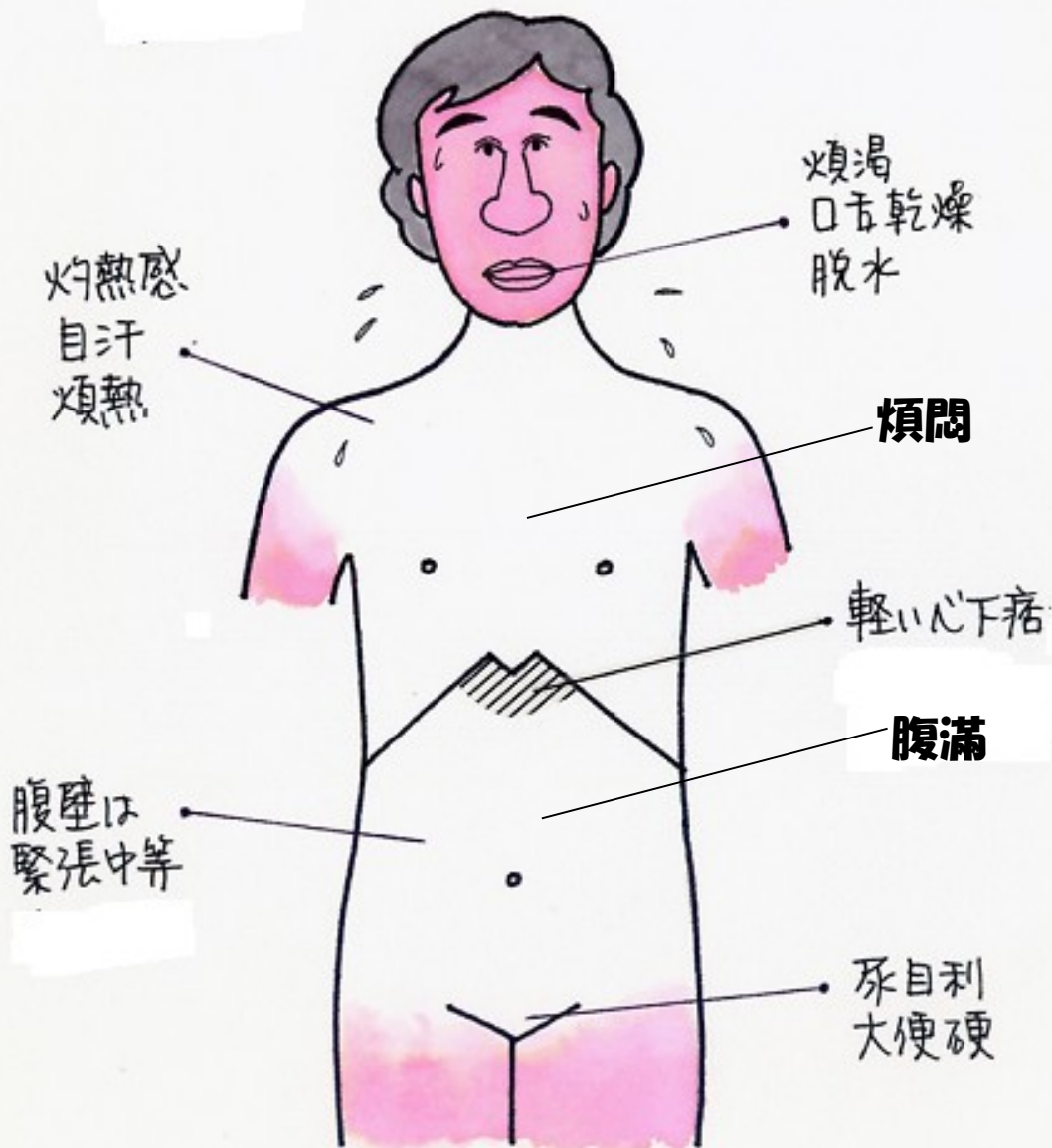
遺尿。發汗則讞語、下之則額上生汗、手足逆冷。

若自汗出者、白虎湯主之。



陽明病内外俱熱証を清解する

白虎湯の証



方意

陽明經は氣血俱に旺盛であるので陽明經病では全身の内外上下及び肌肉皮毛に邪熱が充満して、高熱、悪熱を呈し、焦燥煩悶する。

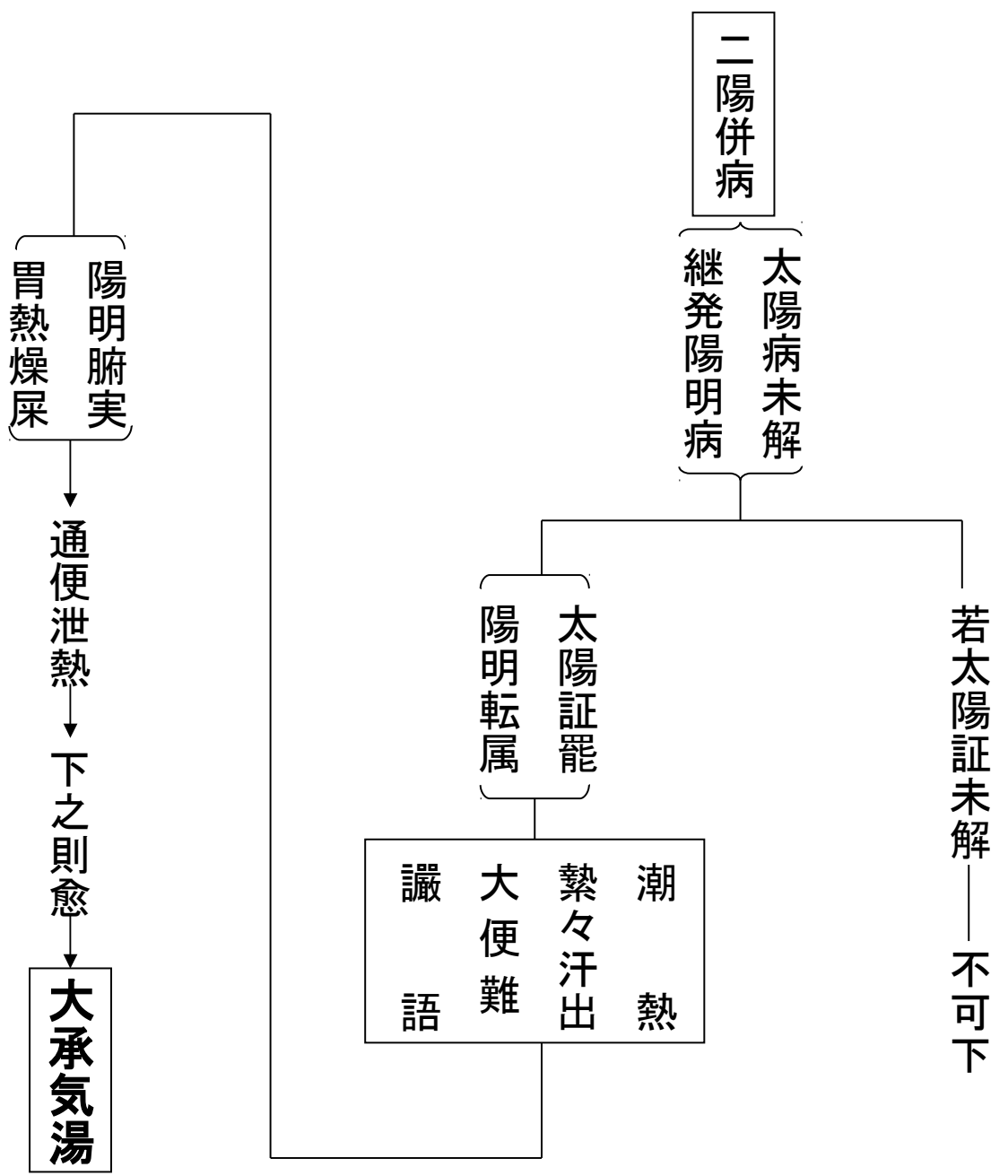
実熱証であるので口渇冷飲を欲し、裏熱が津液を蒸迫するので汗が出、津液は消耗するので口渇、口乾燥し、舌証：熱盛で舌質は紅、苔は黄。

脉象：実熱旺盛で脉洪大か滑数。

弁証の4大キーワードは
大熱、大汗、大渇、脉洪大

第二二〇条 二陽併病、太陽証罷、但発潮熱、手足絜々汗出、

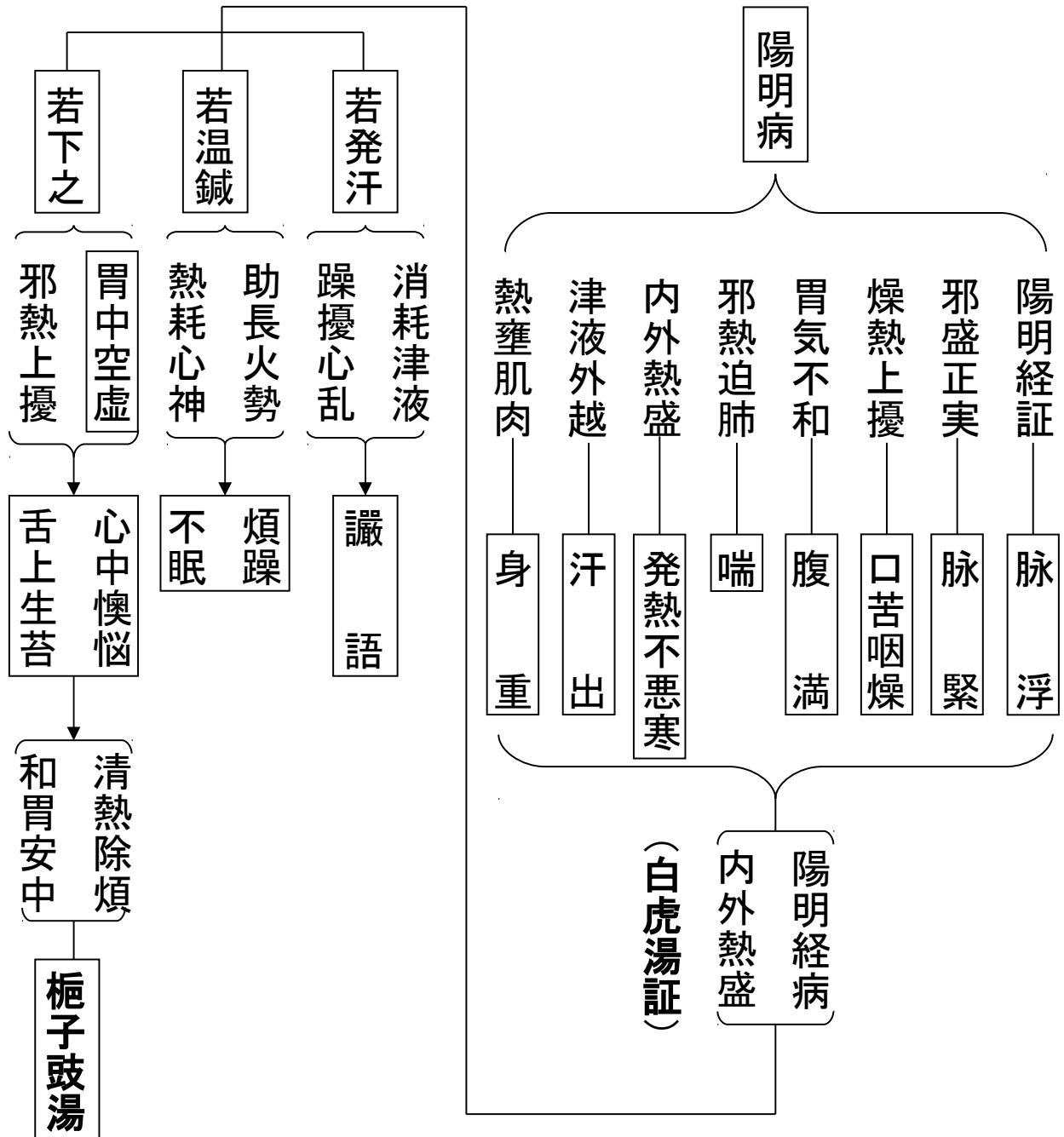
大便難而讞語者、下之則愈。宜大承氣湯。



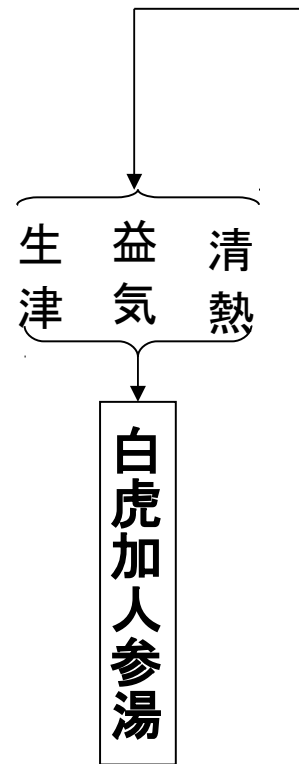
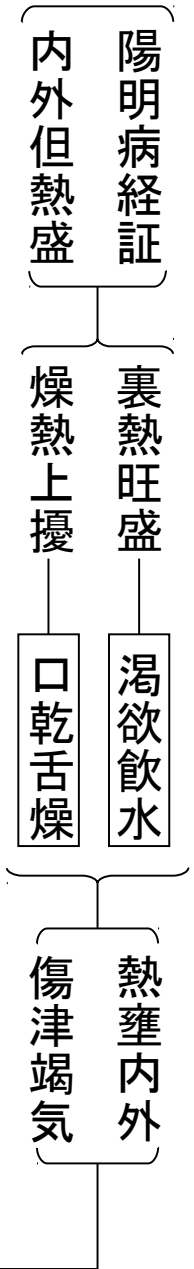
第二二二条 陽明病、脉浮而緊、咽燥、口苦、腹滿而喘、發熱

汗出、不惡寒反發熱、身重。

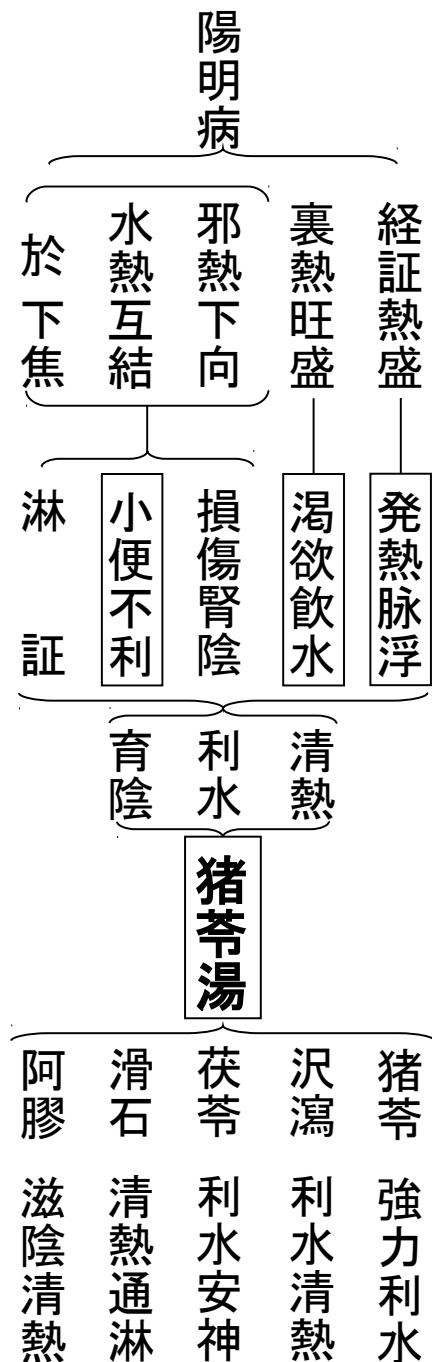
若發汗則躁、心憤々反讖語。若加溫鍼、心忪惕煩躁不得眠。若下之、則胃中空虛、客氣動膈、心中懊惱。舌上胎者、梔子豉湯主之。



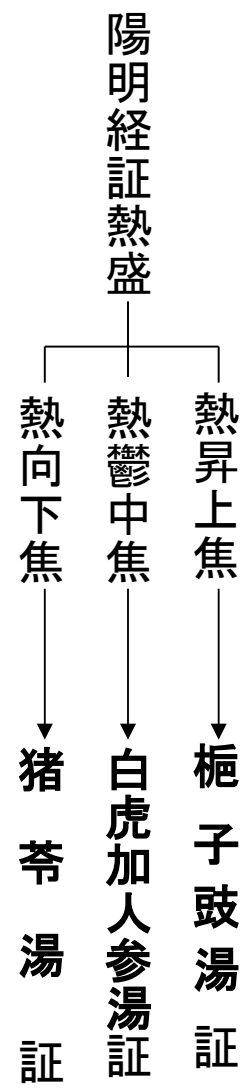
第二二三条 若渴欲飲水、口乾舌燥者、白虎加人參湯主之。



第二二三条 若脉浮、発熱、渴欲飲水、小便不利者、猪苓湯主之。



補遺 陽明經証は熱の偏在部位で証が別れる



下焦水熱互結は **猪苓湯の証***

方意

下焦で熱と水が互結して発熱、口渇、尿不利を呈す。

下焦の蓄熱を去り、利尿をはかる方劑

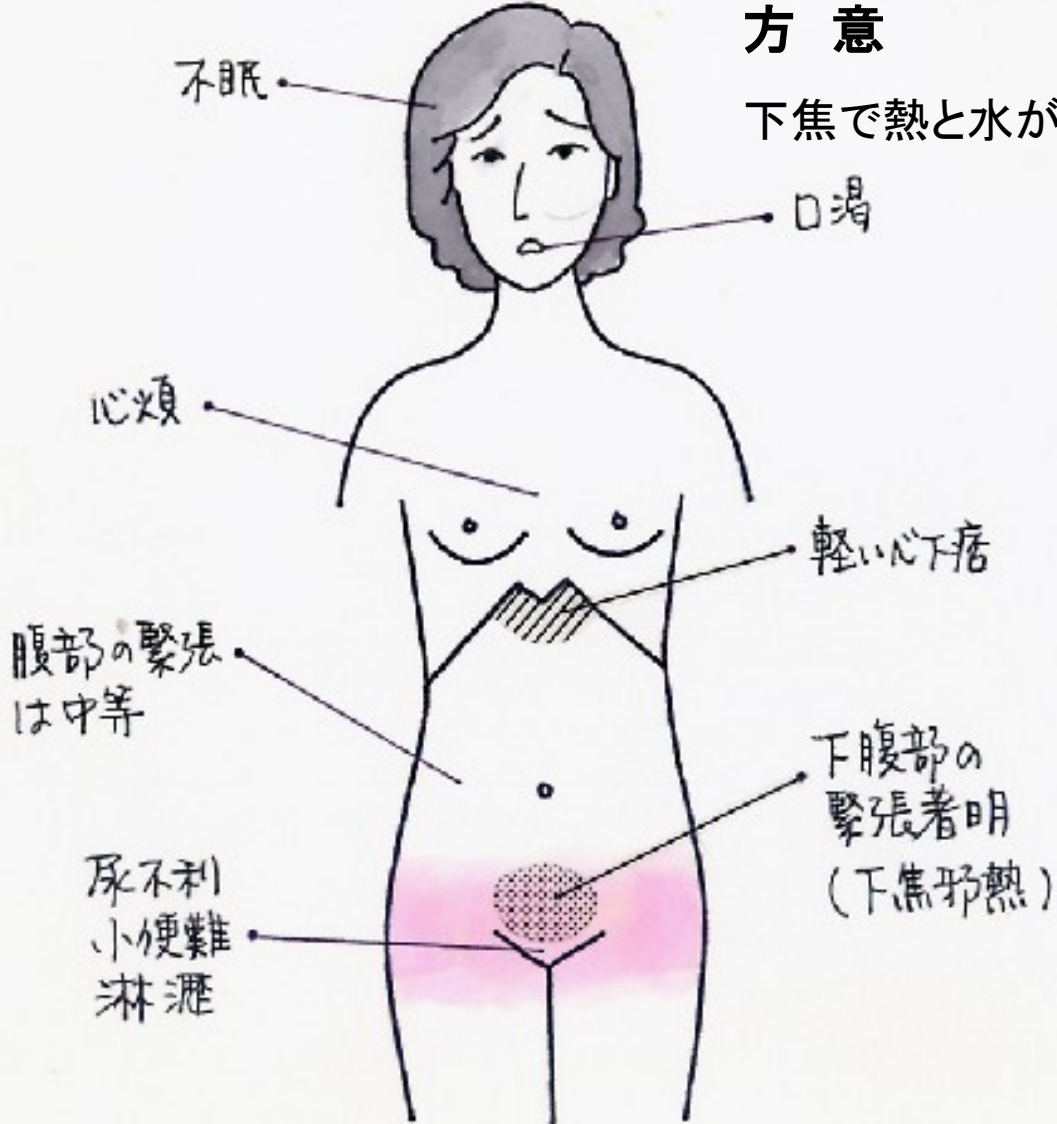
病位は **陽明病か少陰病**

脈は 数

舌は 白苔あり

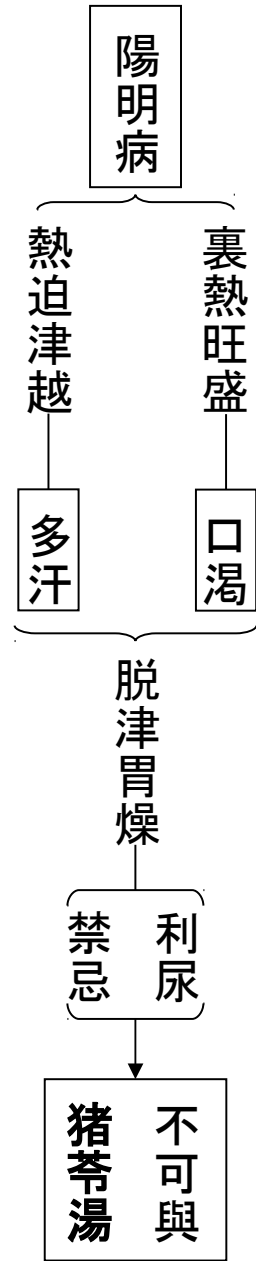
診断のポイント

- ・小便難
(膀胱刺戟症状)
- ・下腹の緊満
- ・口渇、尿不利

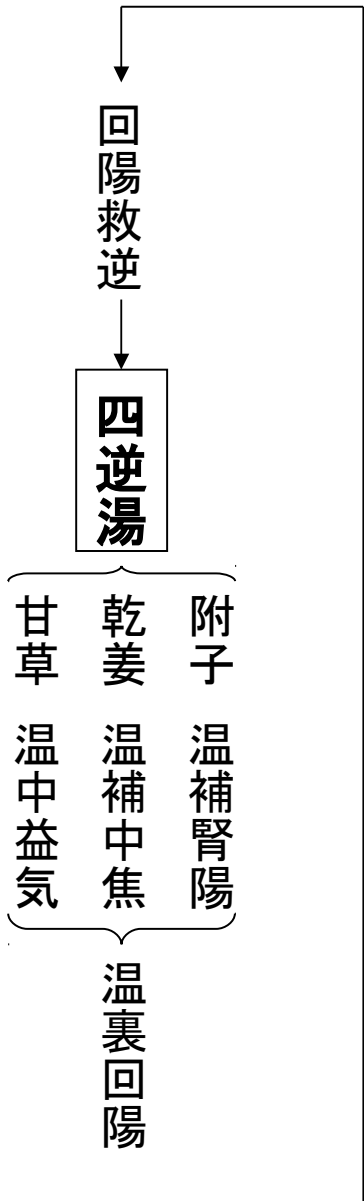
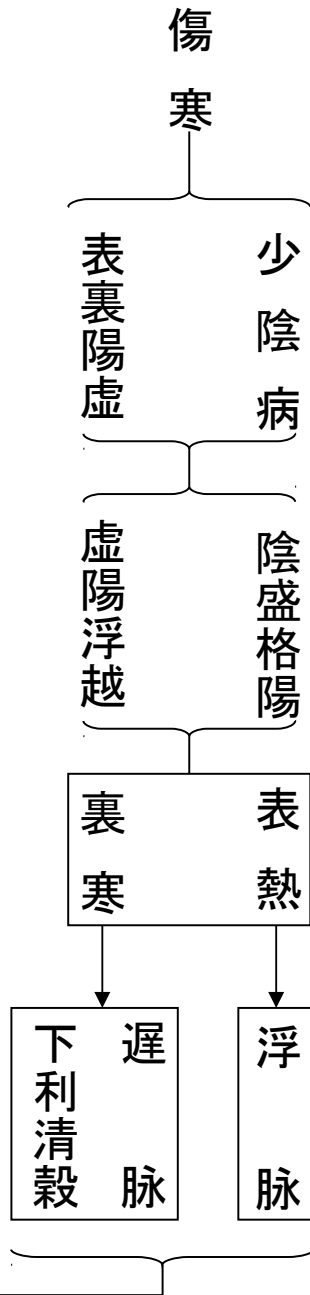


第二二四条 陽明病、汗出多而渴者、不可與猪苓湯。

以汗多胃中燥、猪苓湯復利其小便故也。



第二二五条 脉浮而遲、表熱裏寒、下利清穀者、四逆湯主之。



眞寒仮熱証の虚陽上浮と陰盛格陽

どちらも仮熱
が浮上して戴
陽証を呈す

虚陽上浮

弱い陽熱

弱い陰寒

陰も陽も弱く

乖離する

強い陰寒

陰盛格陽

弱い陽熱

強い陰寒は

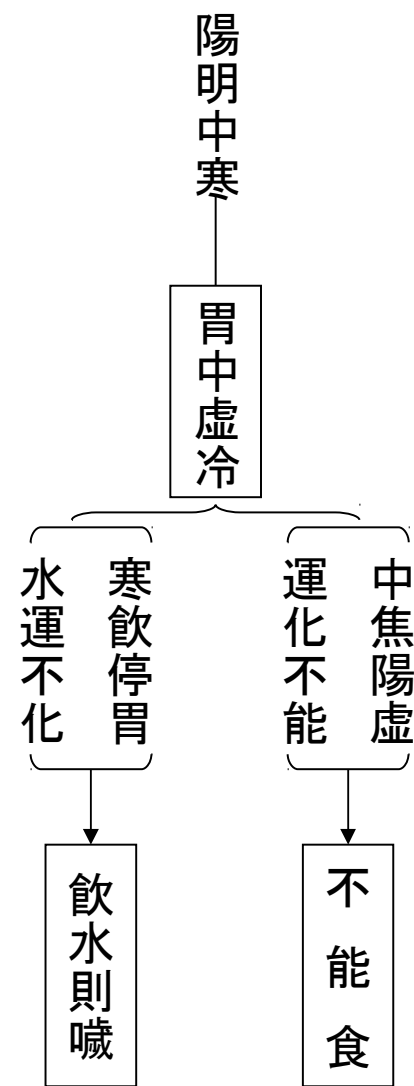
貧弱な陽熱

を拒み駆逐

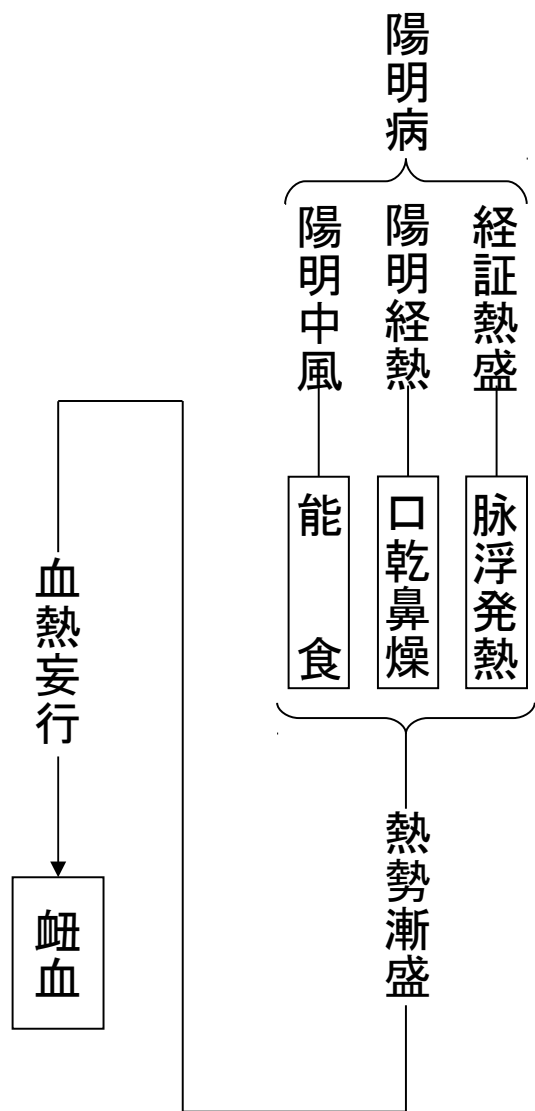
虚陽上浮

陰盛格陽

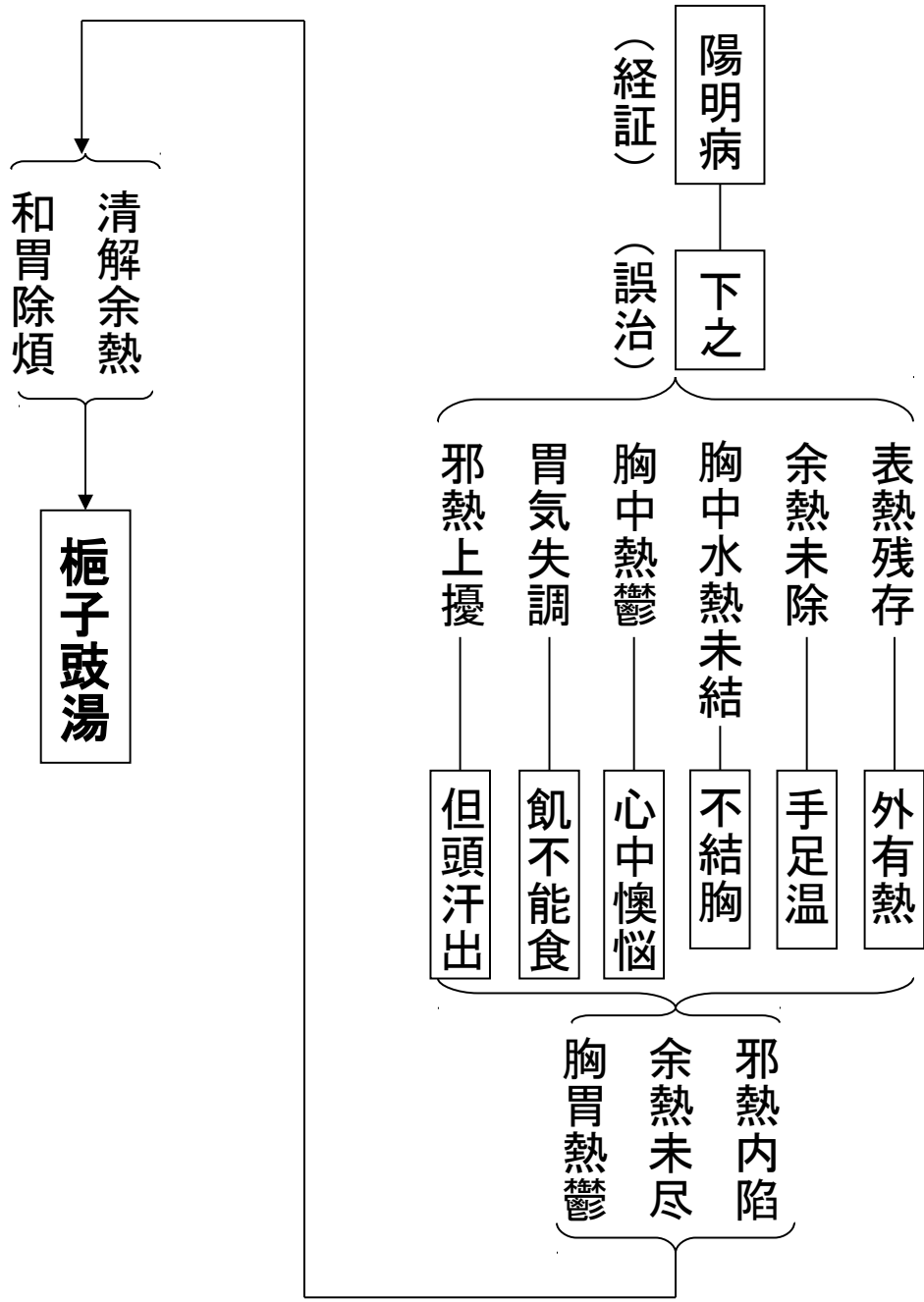
第二二六条 若胃中虚冷、不能食者、飲水則噦。



第二二七条 脉浮、發熱、口乾、鼻燥、能食者則衄。

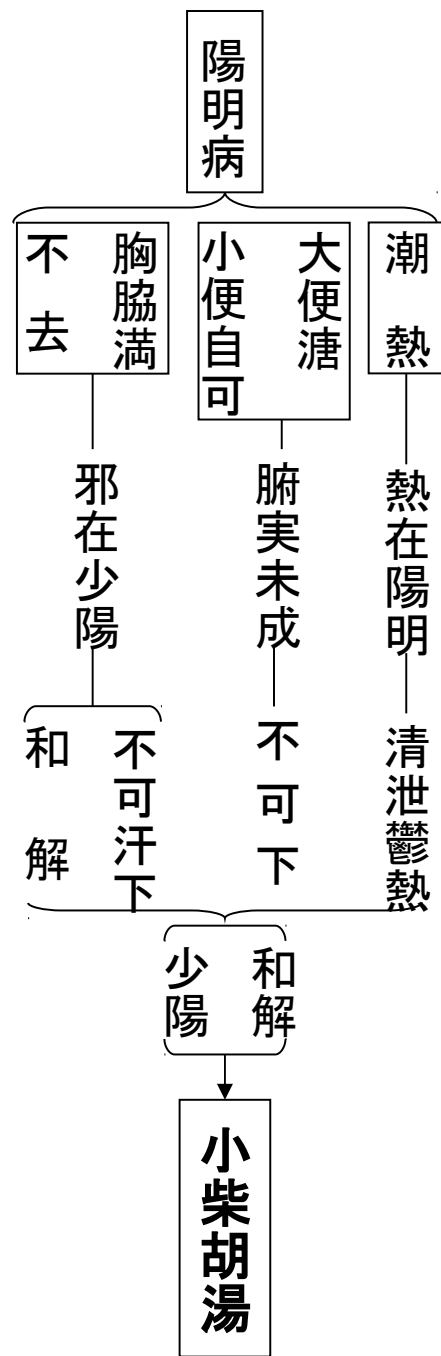


第二二八条 陽明病、下之、其外有熱、手足温、不結胸、心中懊惱、飢不能食、但頭汗出者、**梔子豉湯**主之。



第二二九条 陽明病、発潮熱、大便溏、小便自可、胸脇滿不去者、

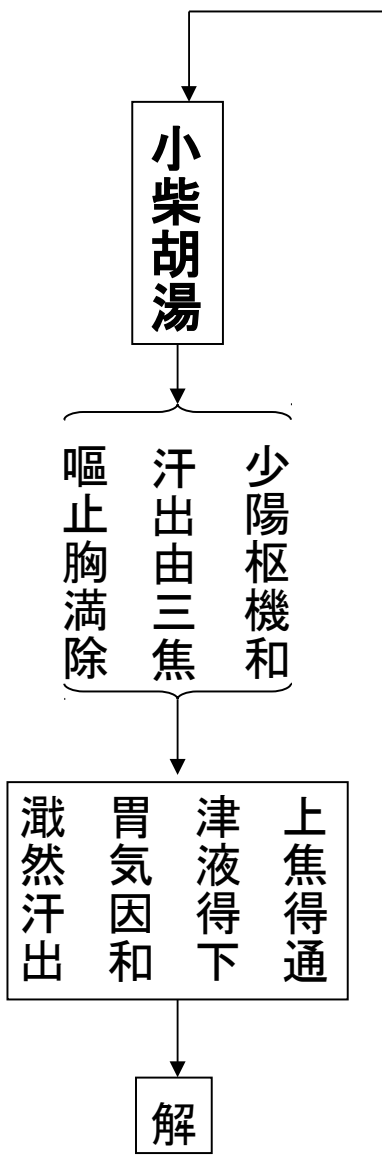
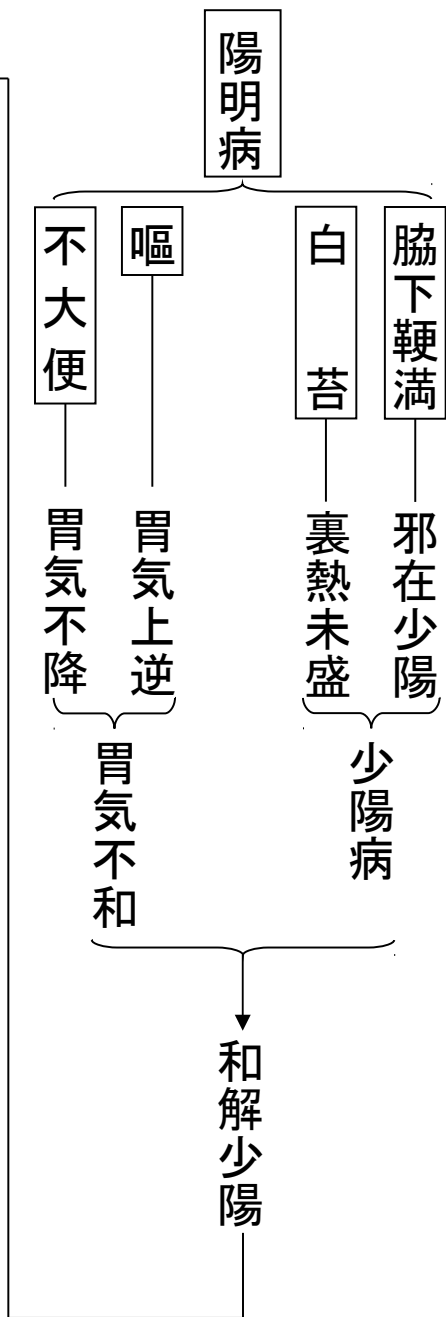
與小柴胡湯。



第二三〇条 陽明病、脇下鞞滿、不大便而嘔、舌上白胎者、可

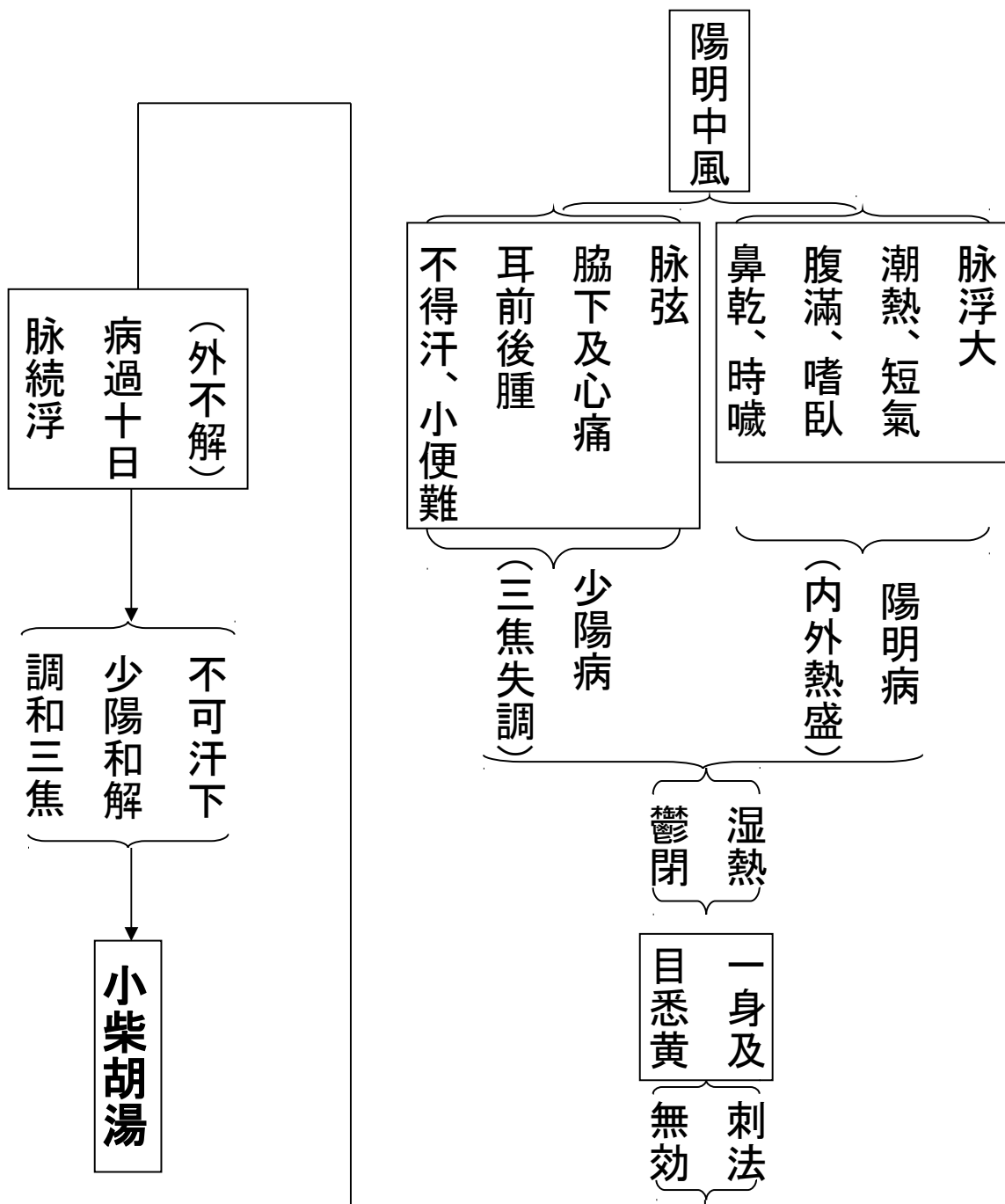
與小柴胡湯。

上焦得通、津液得下、胃氣因和、身濇然汗出而解。



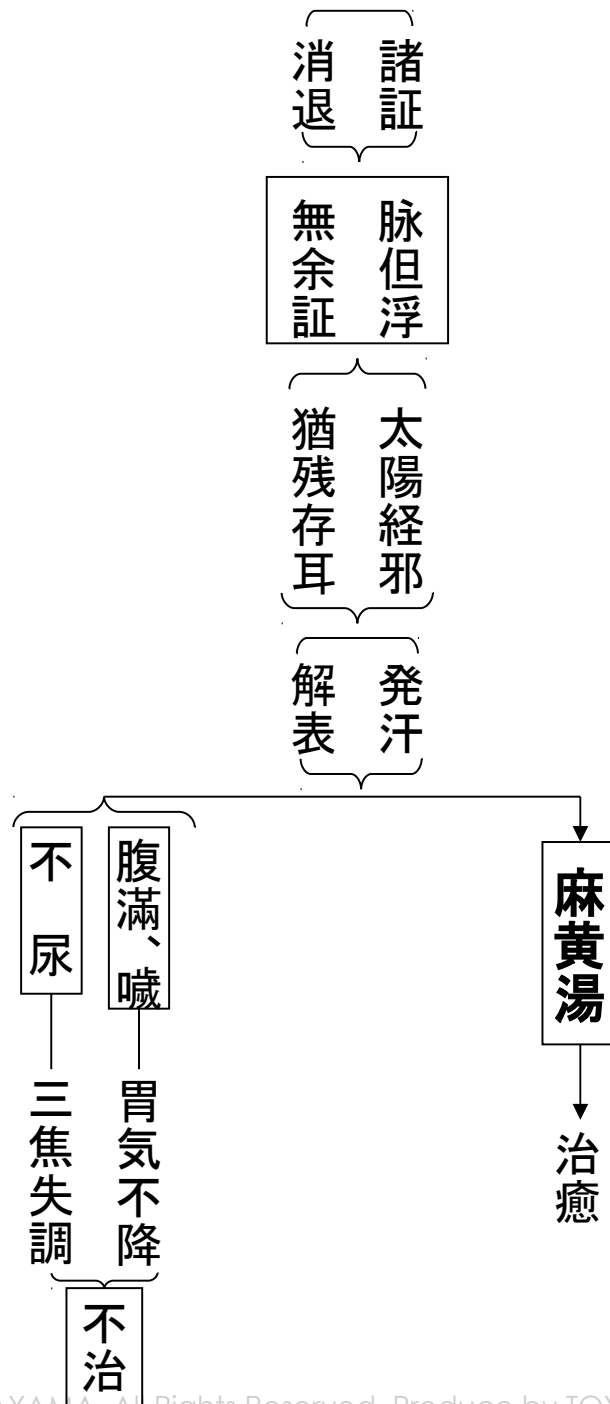
第二三一条 陽明中風、脉弦浮大、而短氣、腹都滿、脇下及心痛、

久按之氣不通、鼻乾、不得汗、嗜臥、一身及目悉黃、小便難、有潮熱、時々噦、耳前後腫、刺之小差、外不解。病過十日、脉続浮者、與小柴胡湯。



第二三二条 脉但浮、無余証者、與麻黄湯。若不尿、腹滿加噦者、

不治。

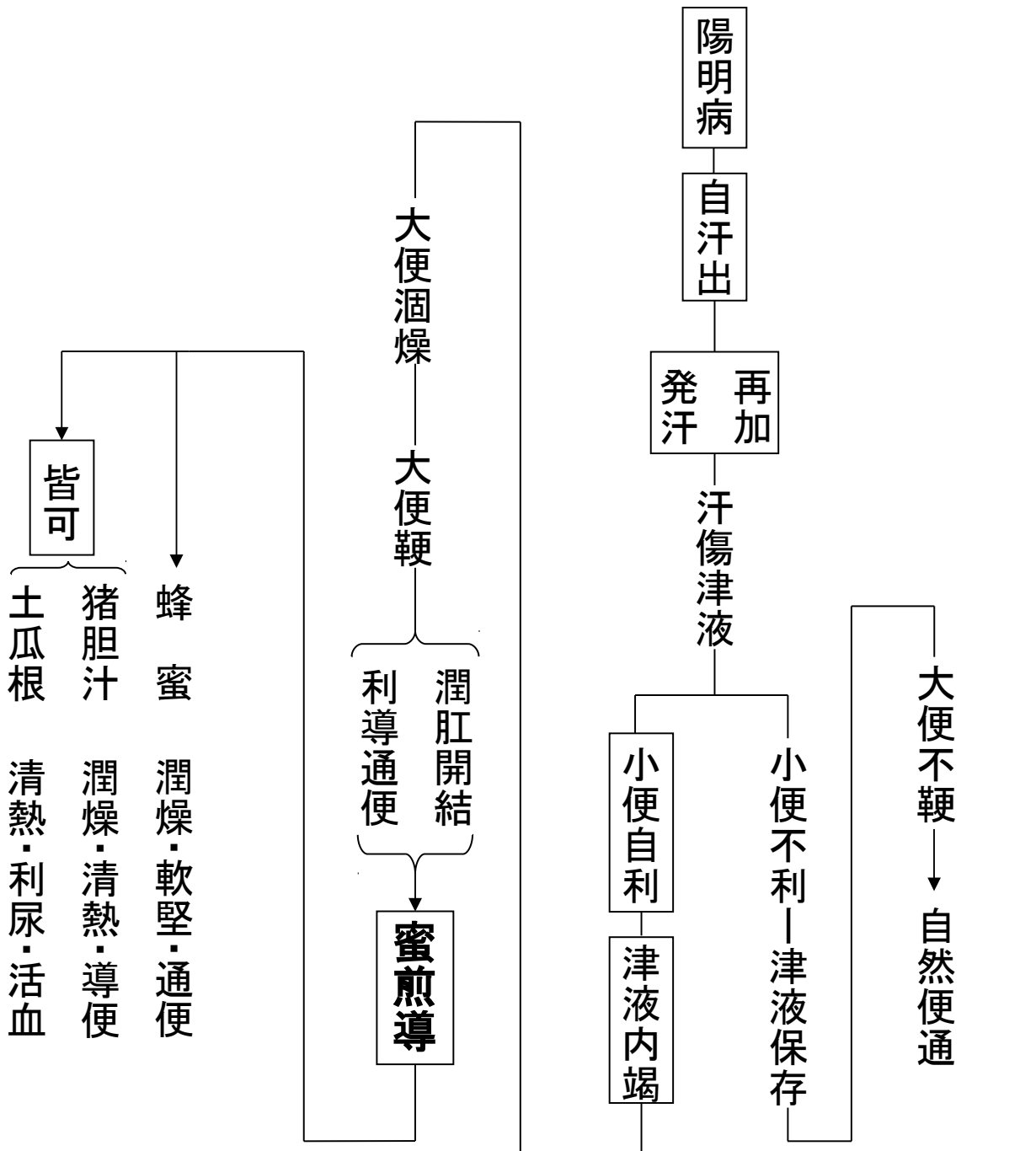


第二三三条 陽明病、自汗出。若發汗、小便自利者、此為津液

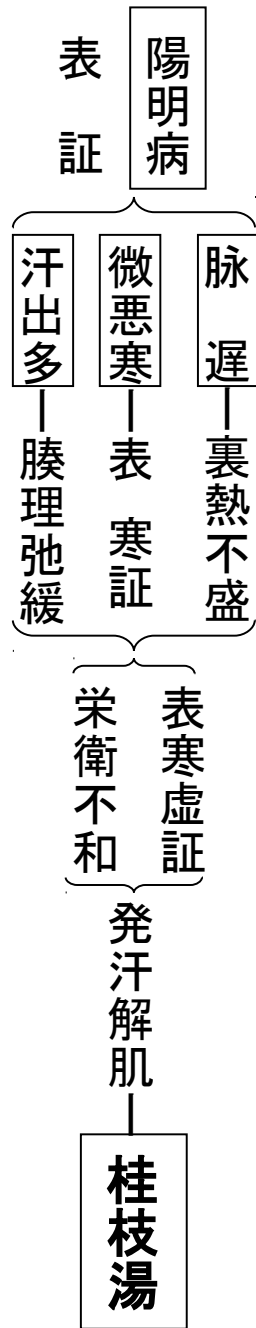
內竭、雖鞭不可攻之。

當須自欲大便、宜蜜煎導而通之。若土瓜根及大

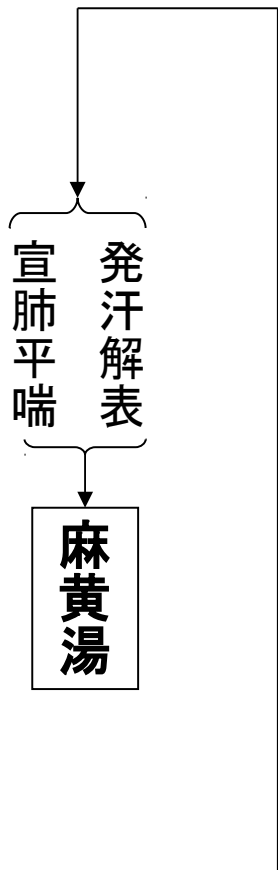
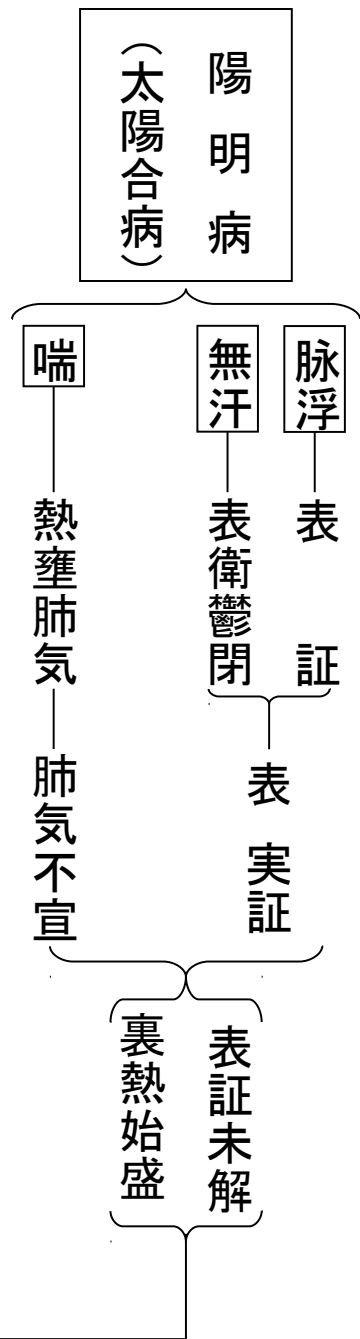
猪胆汁、皆可為導。



第二三四条 陽明病、脉遲、汗出多、微惡寒者、表未解也。可發汗、宜桂枝湯。

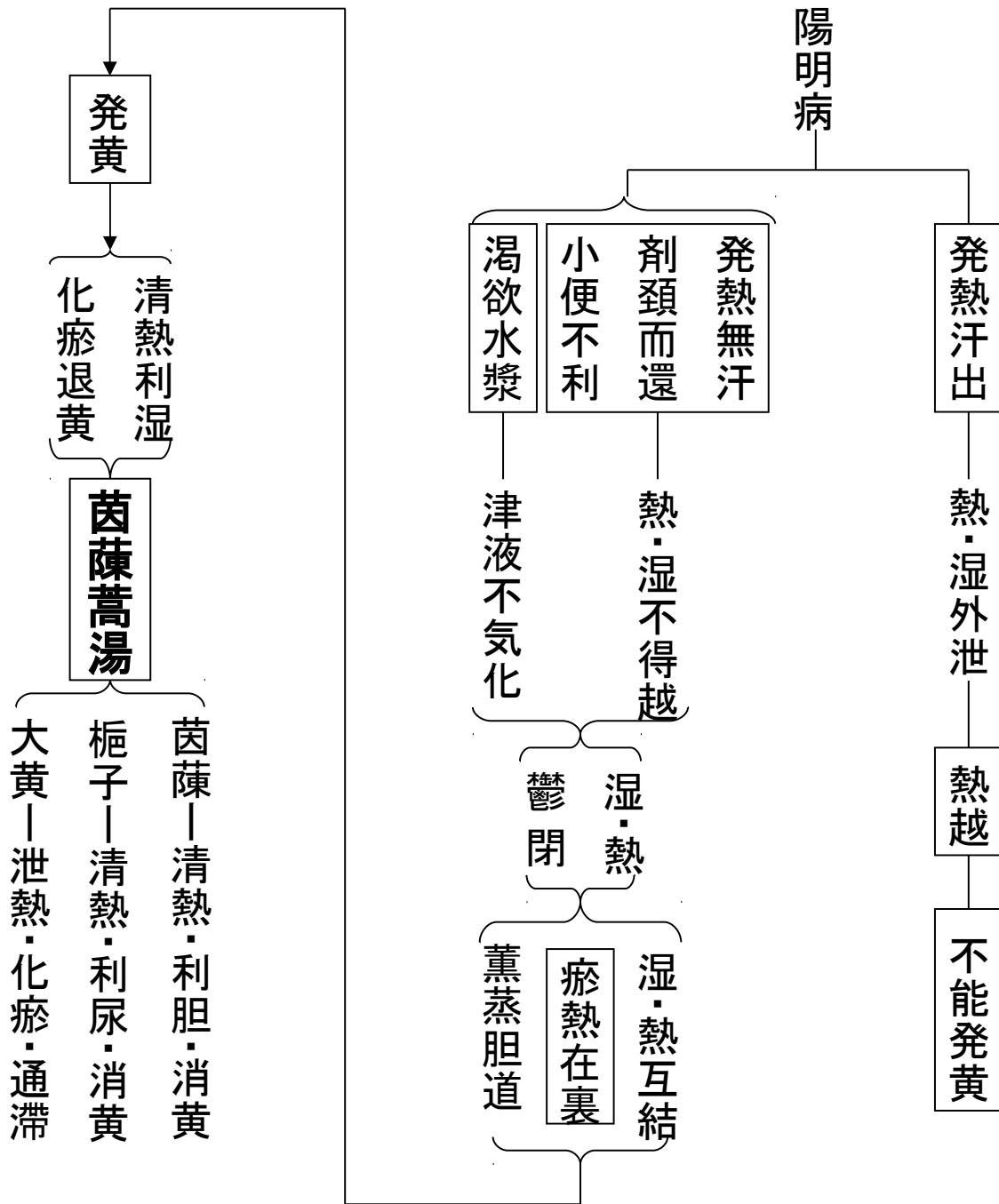


第二三五条 陽明病、脉浮、無汗而喘者、發汗則愈。宜麻黃湯。

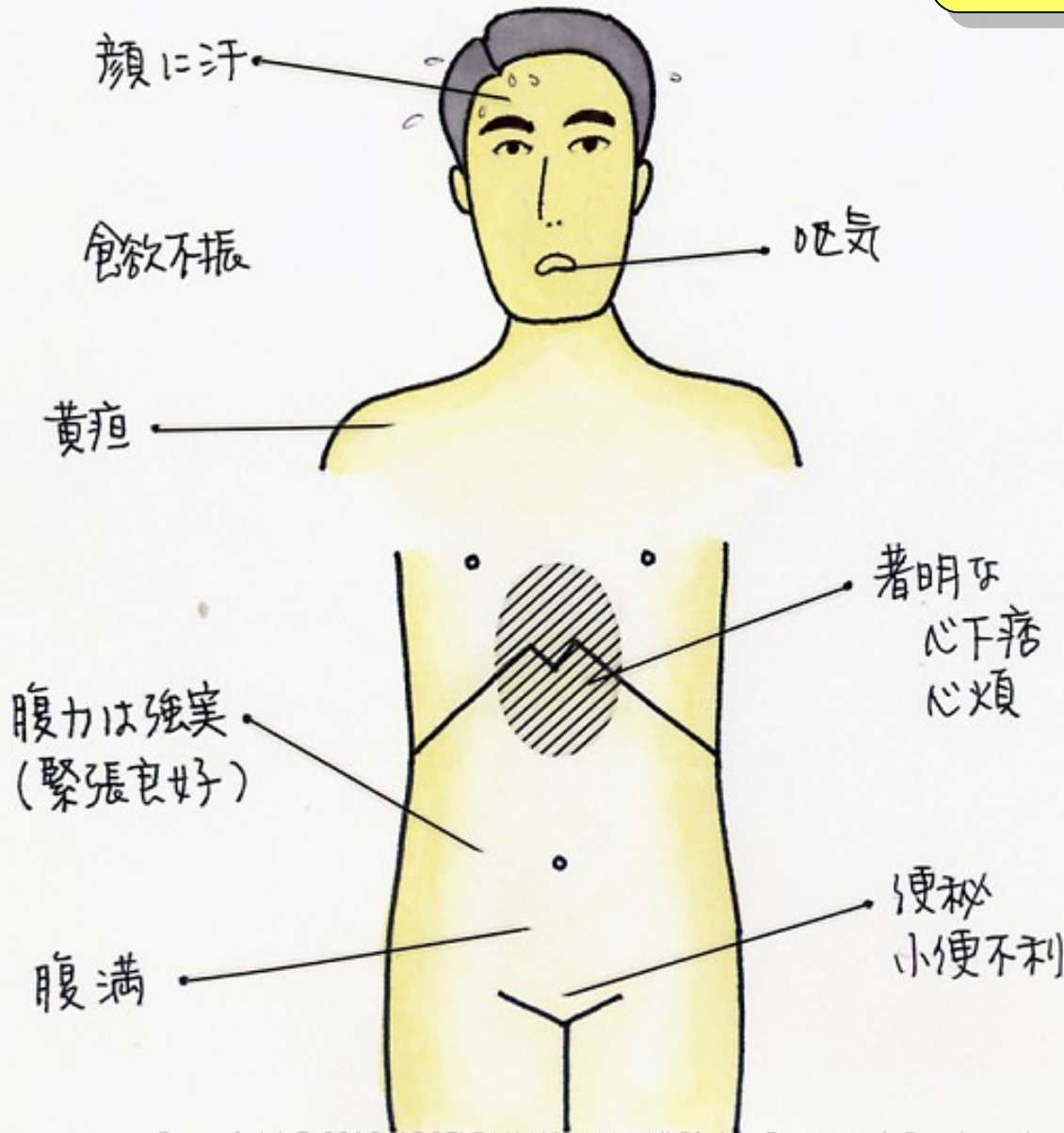


第二三六条 陽明病、發熱、汗出者、此爲熱越、不能發黃也。

但頭汗出、身無汗、劑頸而還、小便不利、渴引水漿者、此爲瘀熱在裏、身必發黃、茵陳蒿湯主之。



茵陳蒿湯の証*



方意

陽明病の実熱が汗にも尿にも外泄されること無く、裏に鬱閉され、熱と湿が裏で結合して湿熱となり、胆道を薰蒸するため胆汁が漏れ出し、体表に溢出し黄疸を生じた陽黄の証である。

処方

君薬：茵陳蒿、清熱、利胆、消黄

臣薬：山梔子、清熱、利湿、消黄

佐薬：大 黄、泄熱、化瘀、通滯

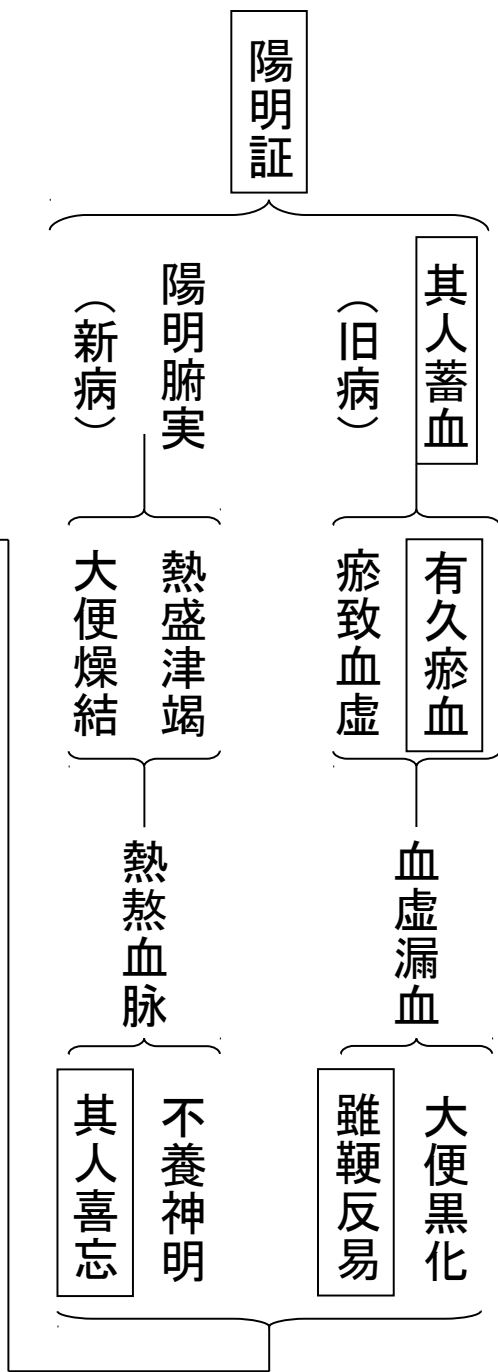
証と脉

黄疸、口渴、尿不利、便秘腹満
脉沈実或は滑数。舌苔が黄膩。

第二三七条 陽明証、其人喜忘者、必有蓄血。所以然者、本有久

瘀血、故令喜忘。

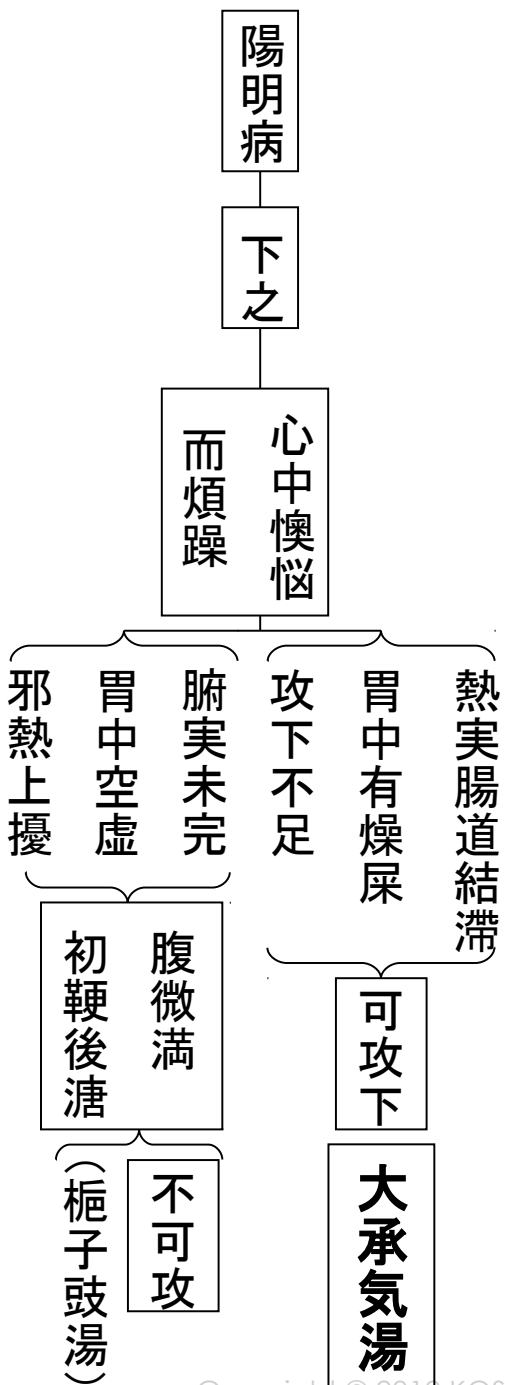
屎雖鞭、大便反易、其色必黑者、宜抵当湯下之。



第二三八条 陽明病、下之、心中懊惱而煩、胃中有燥屎者、可攻。

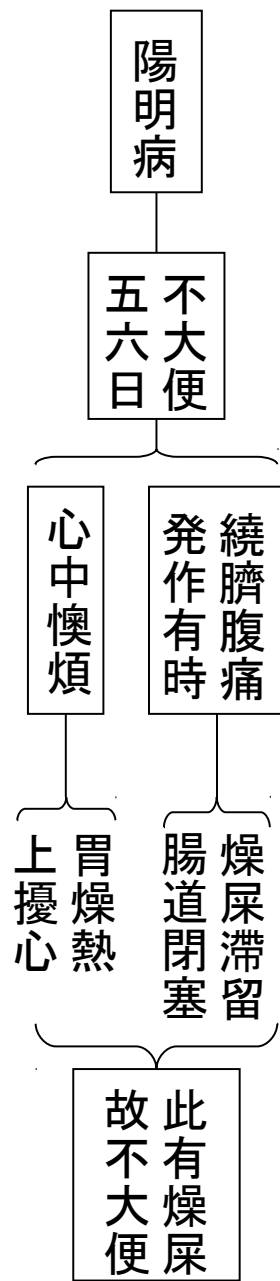
腹微滿、初頭鞭、後必溏、不可攻之。

若有燥屎者、宜大承氣湯。



第二三九条 病人不大便五六日、繞臍痛、煩躁、發作有時者、

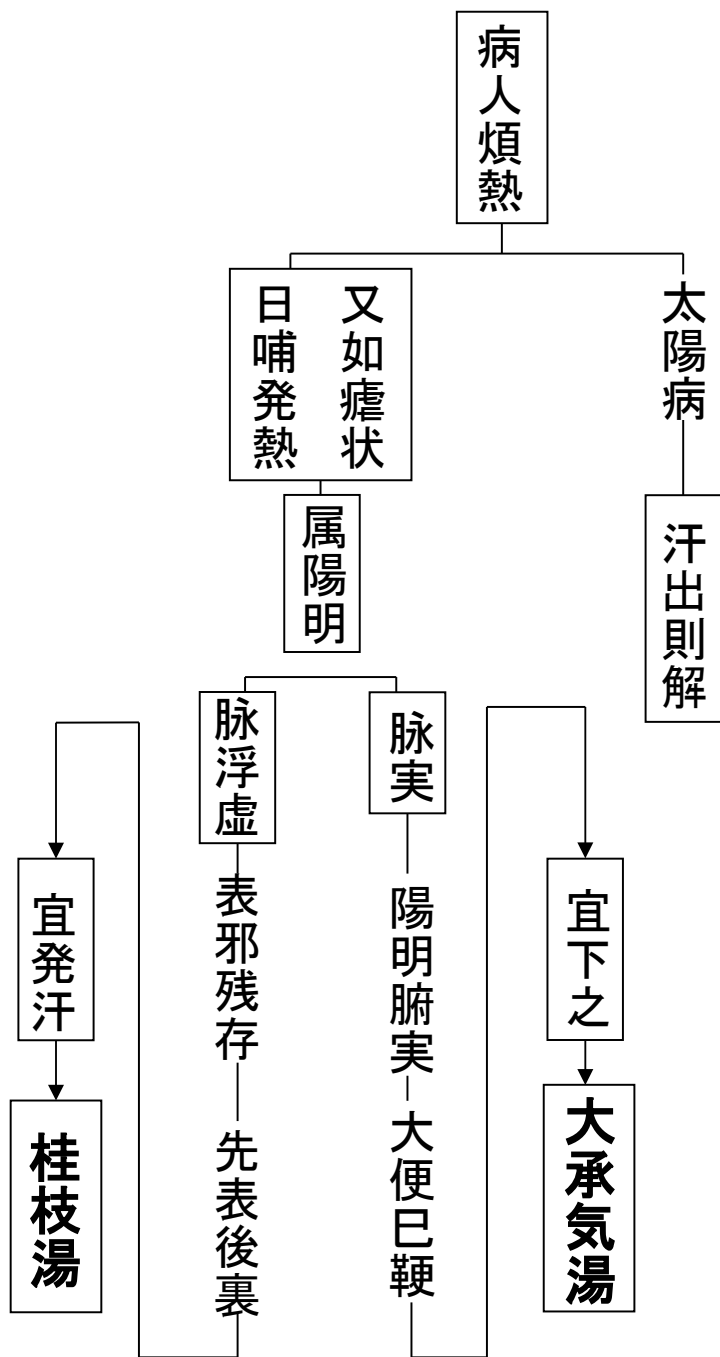
此有燥屎、故使不大便也。



第二四〇条 病人煩熱、汗出則解。又如瘧狀、日晡所發熱者、

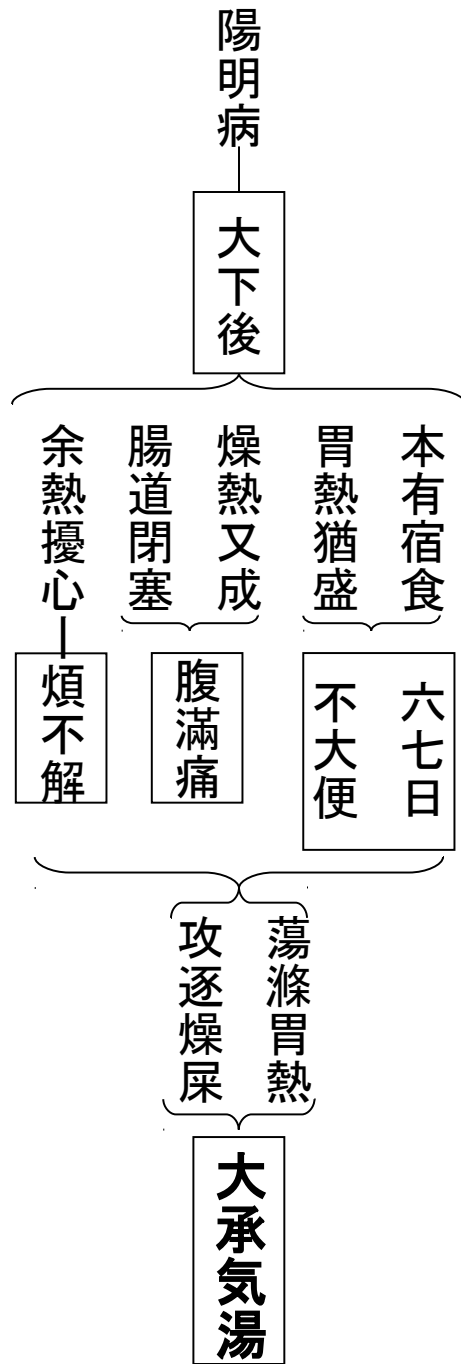
屬陽明也。脉實者、宜下之。脉浮虛者、宜發汗。

下之與大承氣湯、發汗宜桂枝湯。



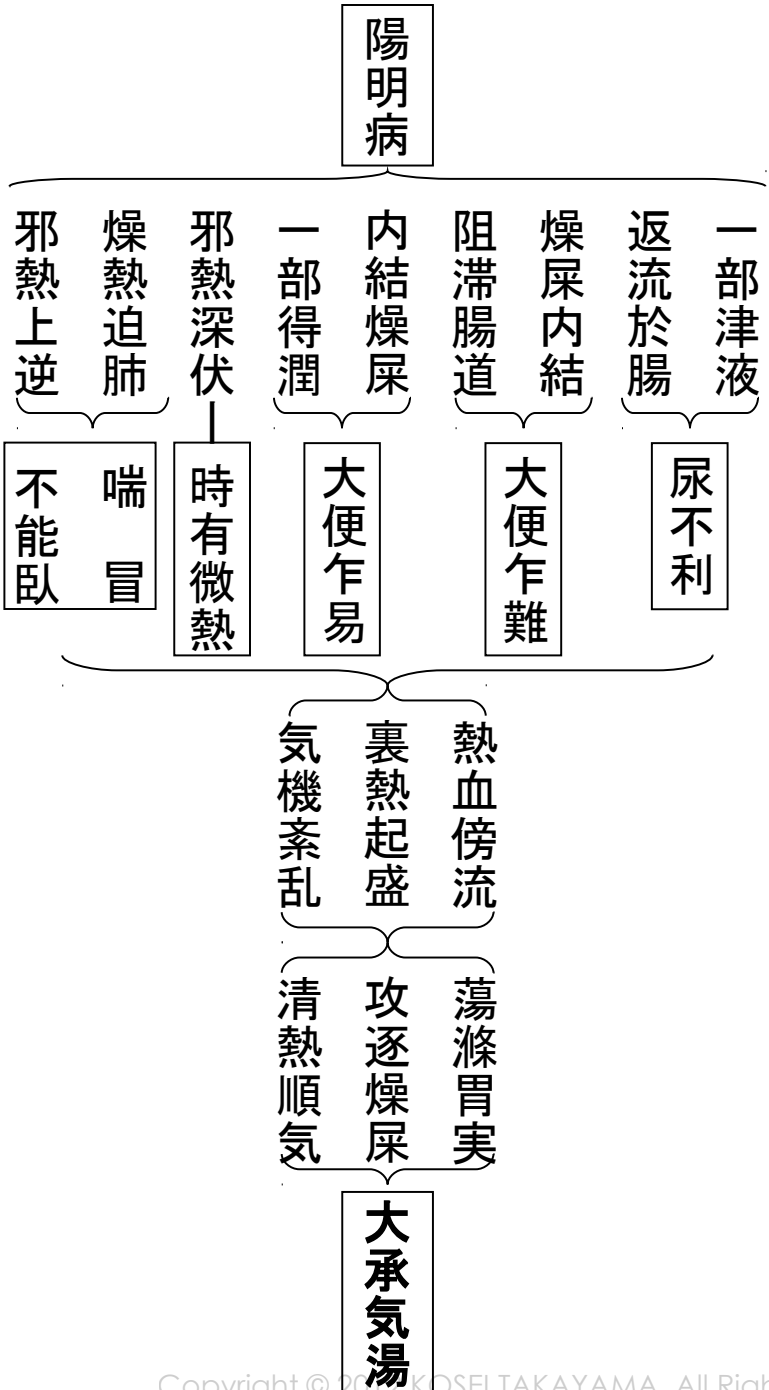
第二四一条 大下後、六七日不大便、煩不解、腹滿痛者、此有

燥屎也。所以然者、本有宿食故也、宜大承氣湯。

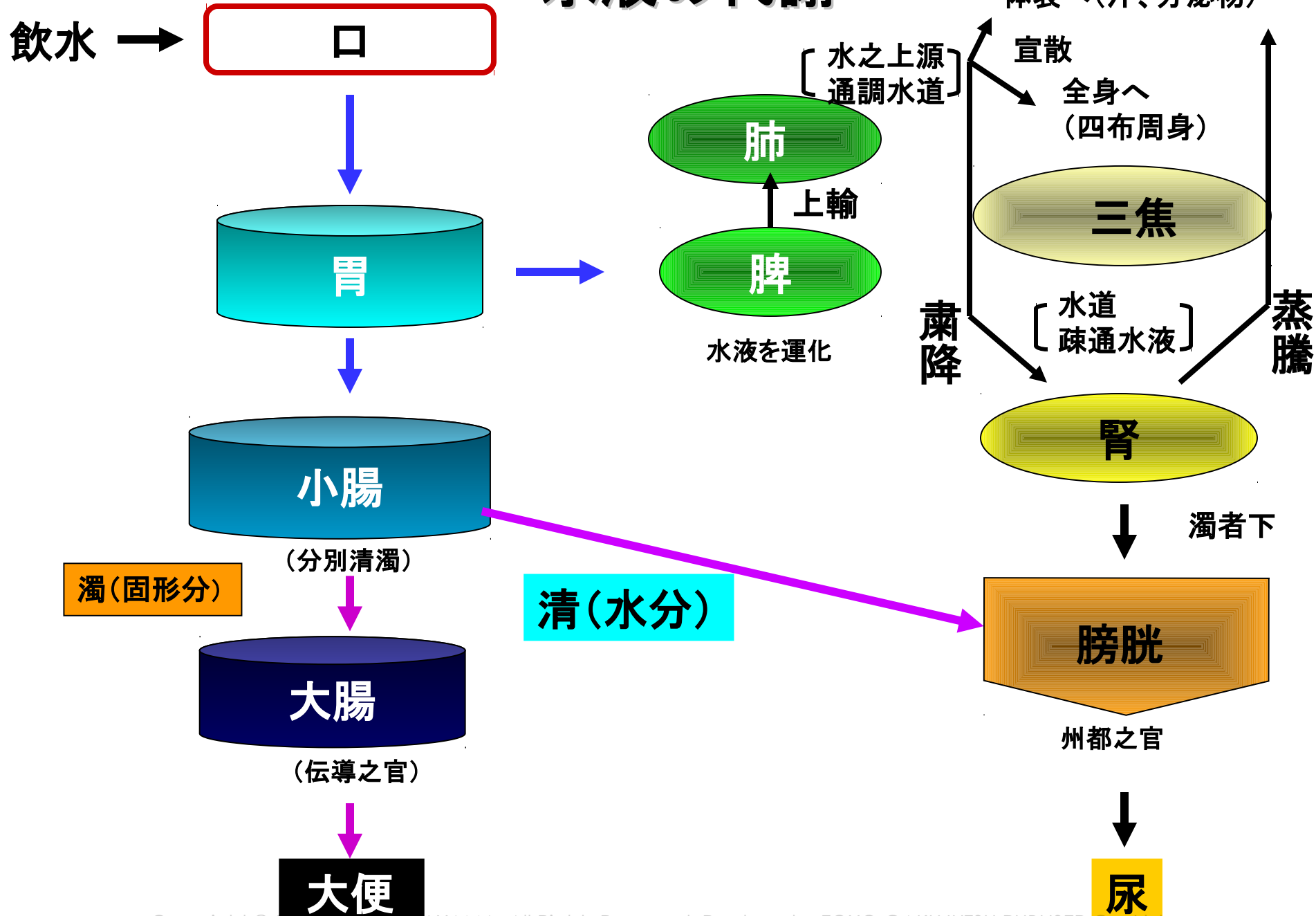


第二四二条 病人小便不利、大便乍難乍易、時有微熱、喘冒不

能臥者、有燥屎也。宜大承氣湯。

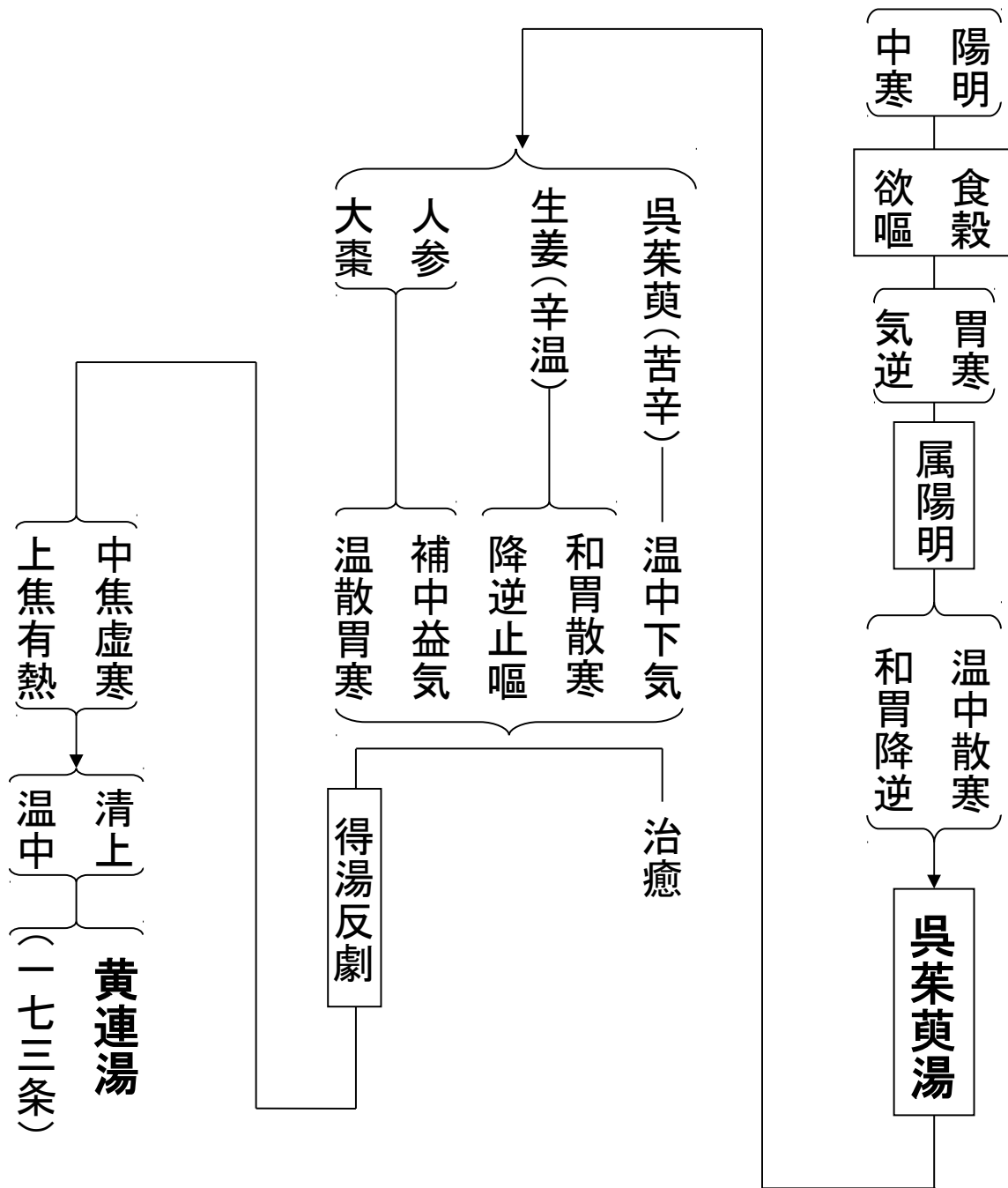


水液の代謝



第二四三条 食穀欲嘔、属陽明也、吳茱萸湯主之。

得湯反劇者、属上焦也。



裏の虚寒に因る嘔逆、厥冷、煩躁は

呉茱萸湯の証*

方意

陽明病の胃寒証で食後悪心嘔吐を生じる者、

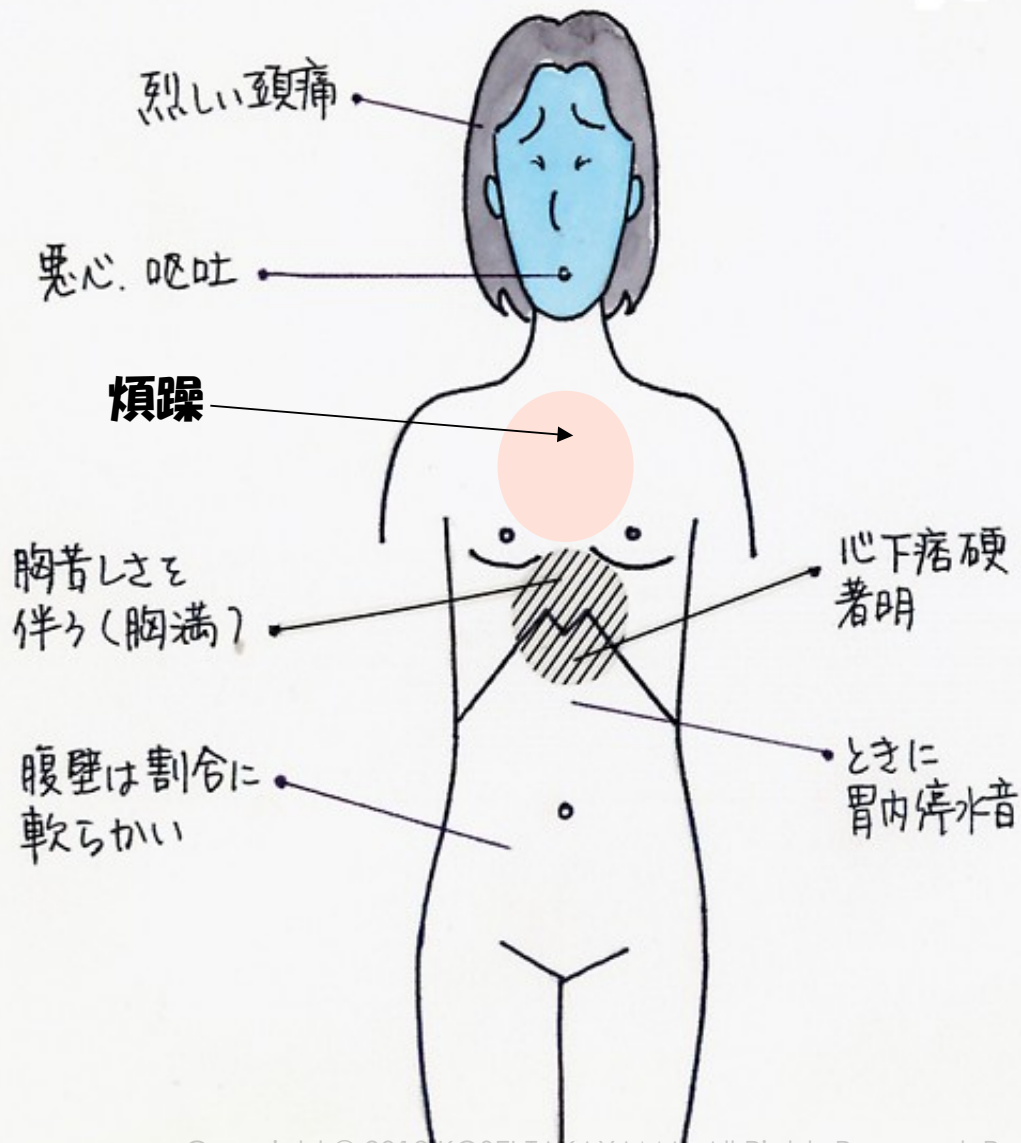
少陰病で吐利、手足逆冷、煩躁して死せんと欲す者、

厥陰病で乾嘔して涎沫を吐し、頭痛する者をいずれも主治する。

陽明病の嘔吐は胃が冷えて食を受け付けない結果である。

少陰病の吐利と手足厥逆は陰寒内盛に因る。煩躁は残存した僅かな陽氣が裏で陰寒と相争うからである。

厥陰病の乾嘔、吐涎沫、頭痛は厥陰の寒氣上逆に因るものである。



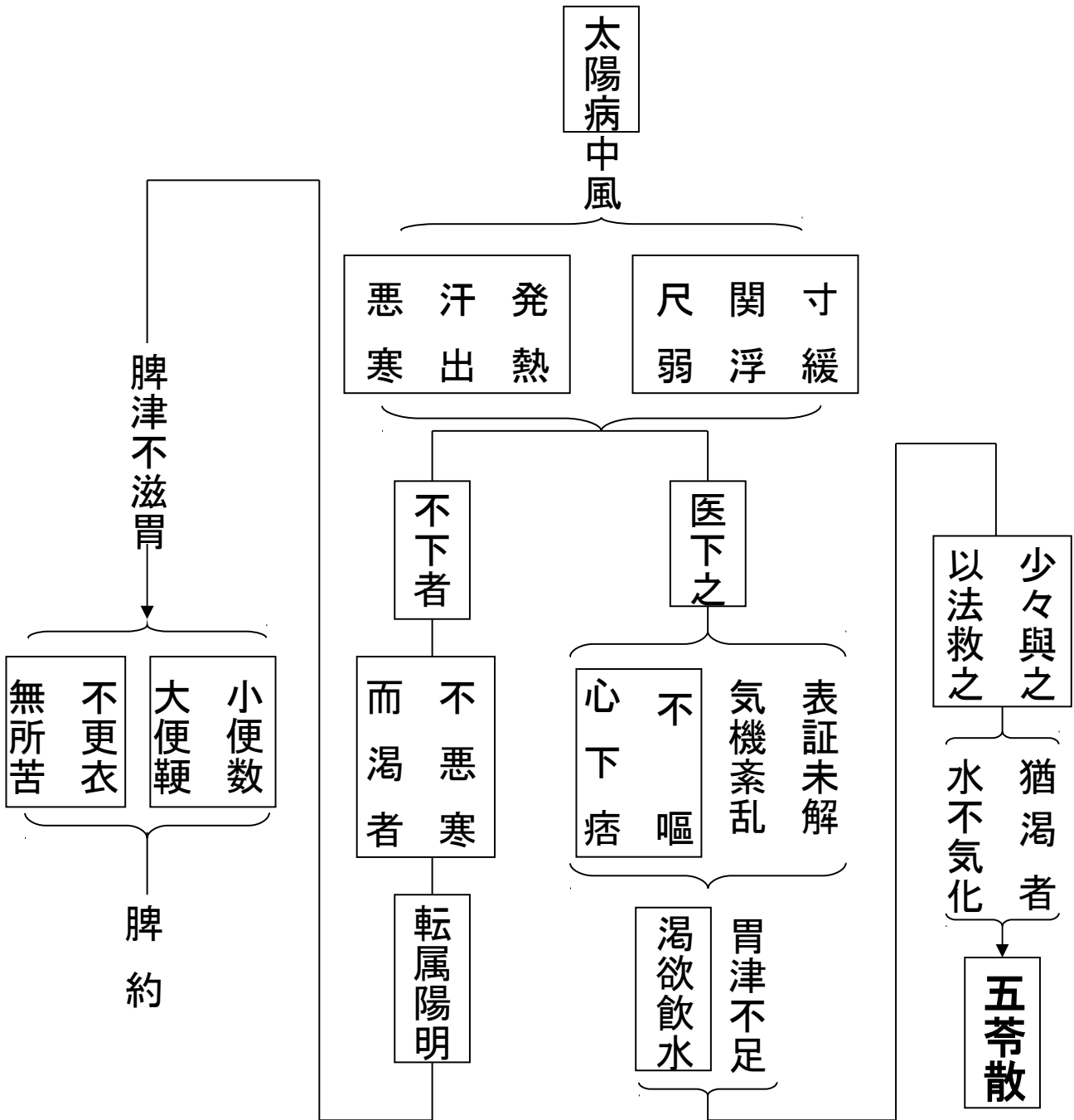
第二四四條 太陽病、寸緩、關浮、尺弱、其人發熱汗出、復惡寒、

不嘔、但心下痞者、此以医下之也。

如其不下者、病人不惡寒而渴者、此轉屬陽明也。

小便數者、大便必鞭、不更衣十日、無所苦也。

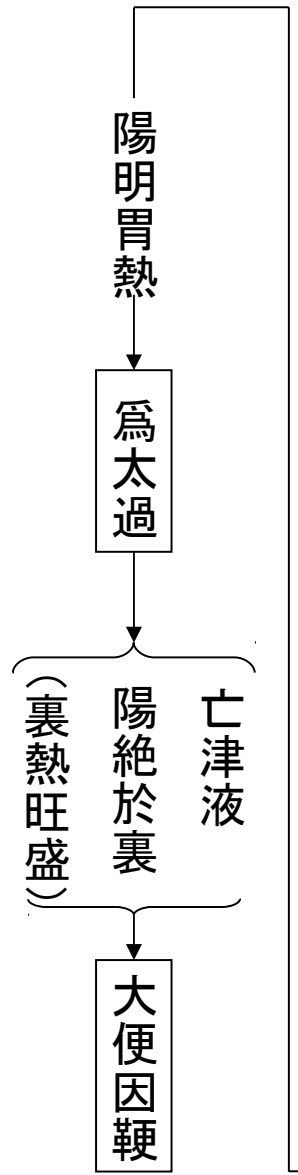
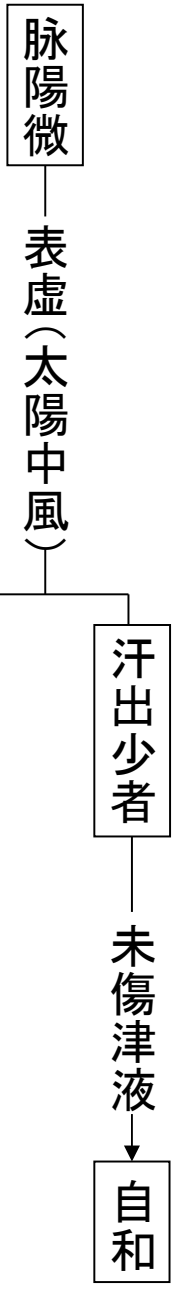
渴欲飲水、少々與之、但以法救之。渴者、宜五苓散。



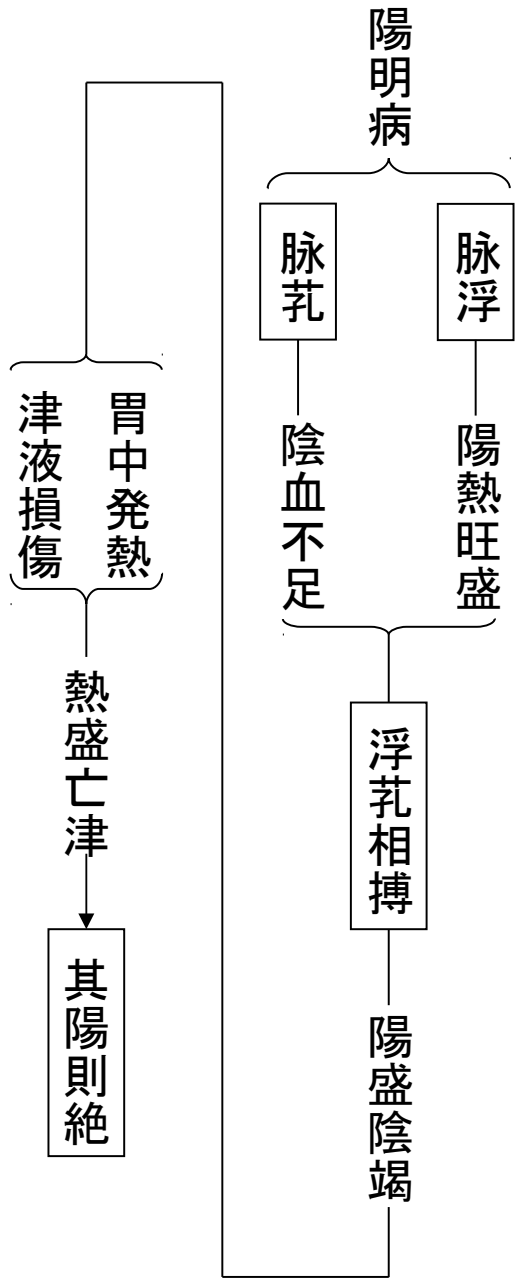
第二四五条 脉陽微而汗出少者、爲自和也。汗出多者、爲太過。

陽脉實、因發其汗出多者、亦爲太過。

太過者、爲陽絕於裏、亡津液、大便因鞭也。

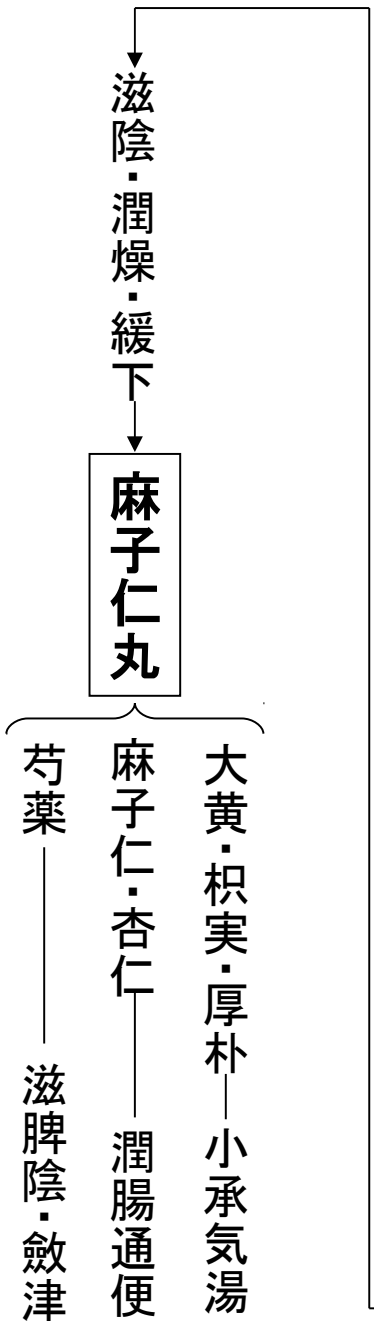
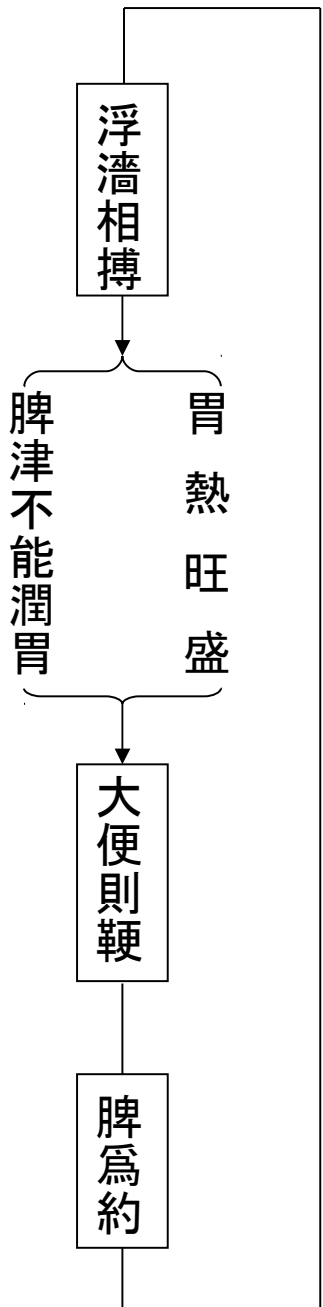
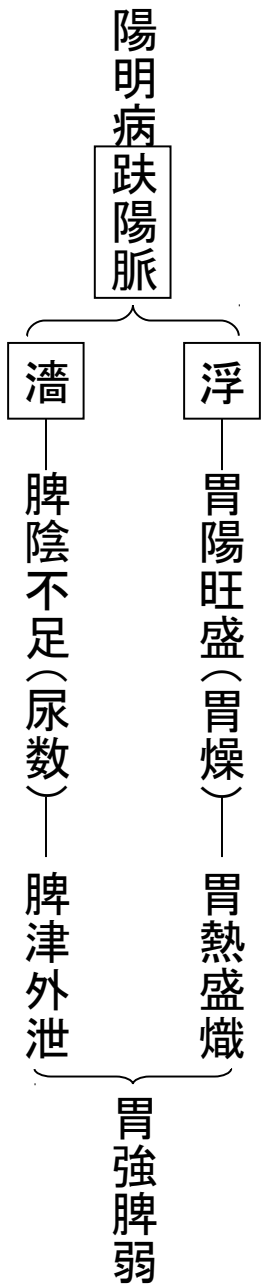


第二四六条 脉浮而芤、浮爲陽、芤爲陰。浮芤相搏、胃氣生熱、其陽即絕。



第二四七条 跌陽脈浮而濇、浮則胃氣強、濇則小便數。

浮濇相搏、大便則鞭、其脾爲約、麻子仁丸主之。



脾約の便秘は

麻子仁丸の証

方意

陽明病で胃強脾弱の状態になると、胃は熱を持ち、一方脾は機能が低下して胃に津液を供給できなくなるので、胃中は益々乾燥して、大便是乾燥して硬くなり便秘する。これを脾が制約されているという意味で脾約と謂う。治法は攻下は避け、潤燥緩下する。

肌膚乾燥

胃内乾燥

時に腹壁に
便塊を触知

常習便秘
小便自利

弁証のTrias

- 1) 本来虚証、やや津液不足
- 2) 腹部軟弱、時に便塊触知
- 3) 常習性便秘

第二四八条 太陽病三日、発汗不解、蒸々発熱者、属胃也、

調胃承氣湯主之。

太陽病三日

病勢極盛

熱勢入裏
病轉陽明

発汗不解
蒸々発熱

陽明腑実
形成開始

属胃

和胃
泄熱

調胃承氣湯

大黄 — 瀉熱通便
芒硝 — 潤燥軟堅
甘草 — 藥力緩和

第二四九条 傷寒吐後、腹脹滿者、與調胃承氣湯

太陽病

傷寒

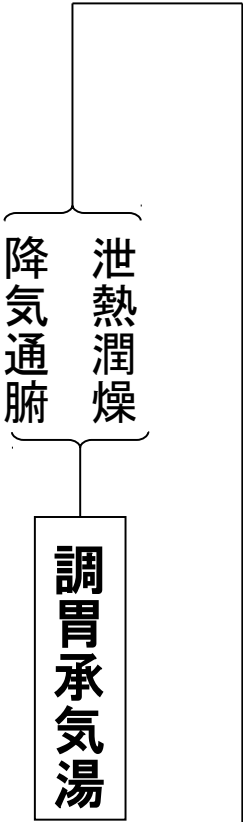
誤用

吐法

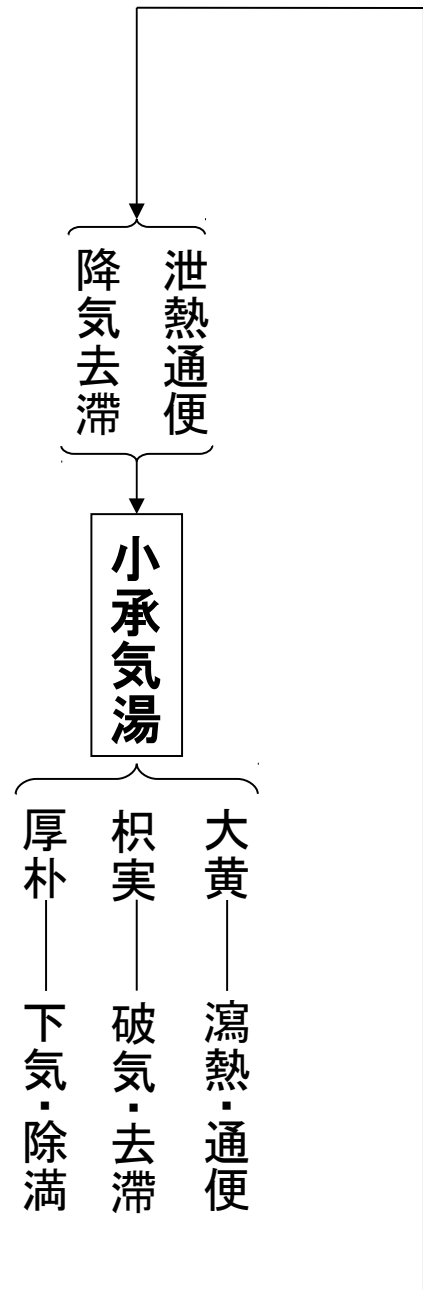
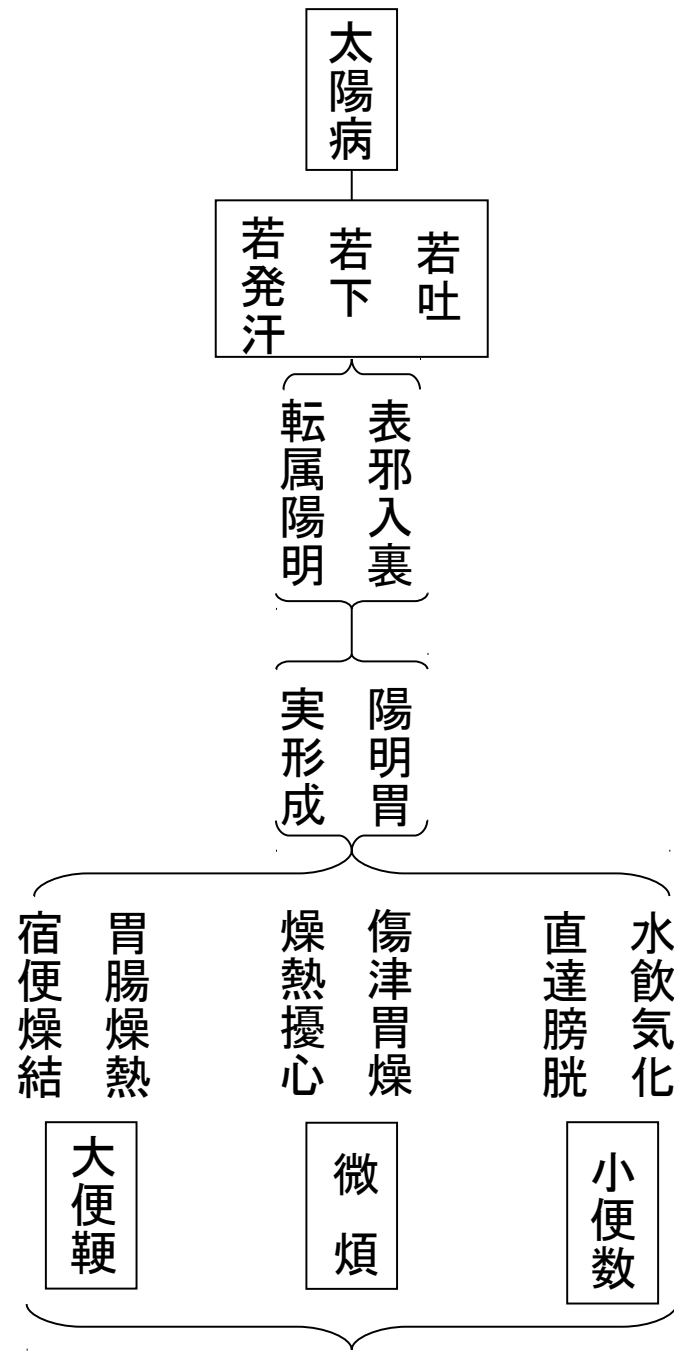
邪氣内陷
胃津損傷

胃中燥熱
胃氣不降

腹脹滿



第二五〇条 太陽病、若吐、若下、若発汗後、微煩、小便数、大便
 因鞭者、與小承氣湯、和之愈。



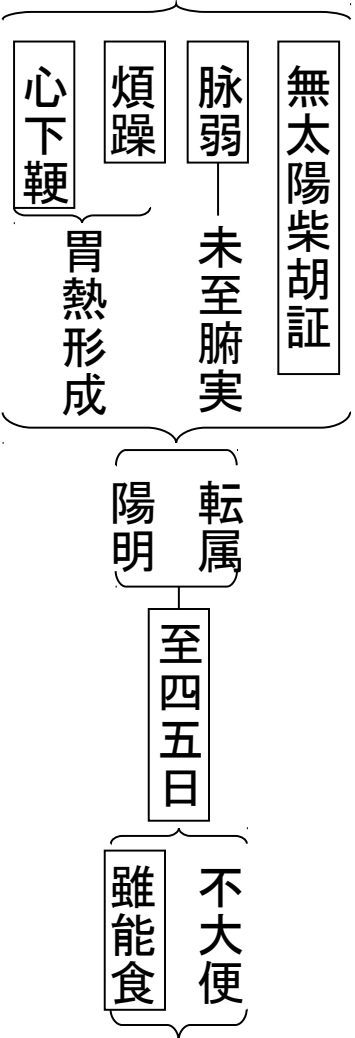
第二五一条 得病二三日、脉弱、無太陽柴胡証、煩躁、心下鞭。

至四五日、雖能食、以小承氣湯、少々與、微和之、令小安。至六日、與承氣湯一升。

若不大便六七日、小便少者、雖不受食、但初頭鞭、後必澹、未定成鞭、攻之必澹。

須小便利、屎定鞭、乃可攻之、宜大承氣湯。

得病二三日



小承氣湯
少々與之
微和胃氣

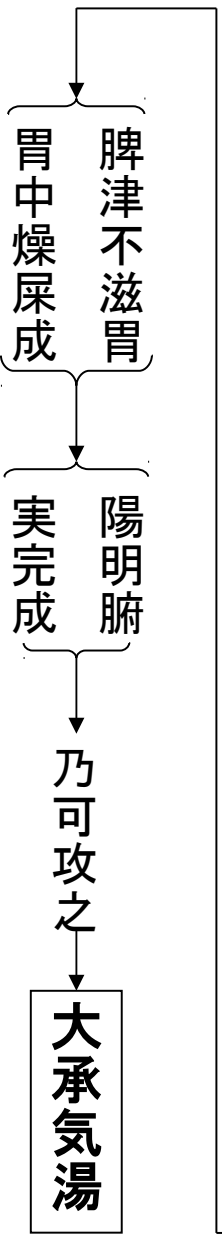
至六七日
小承氣湯
增至一升

不大便六七日
小便少不受食
便初頭鞭後澹

腑氣不降
濁氣上逆
腑實未成

未定成鞭
攻之必澹

小便利
屎定鞭

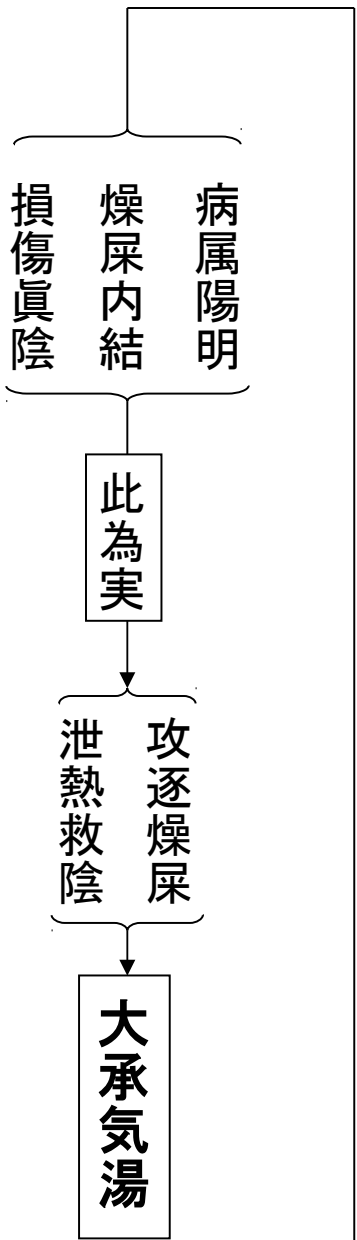
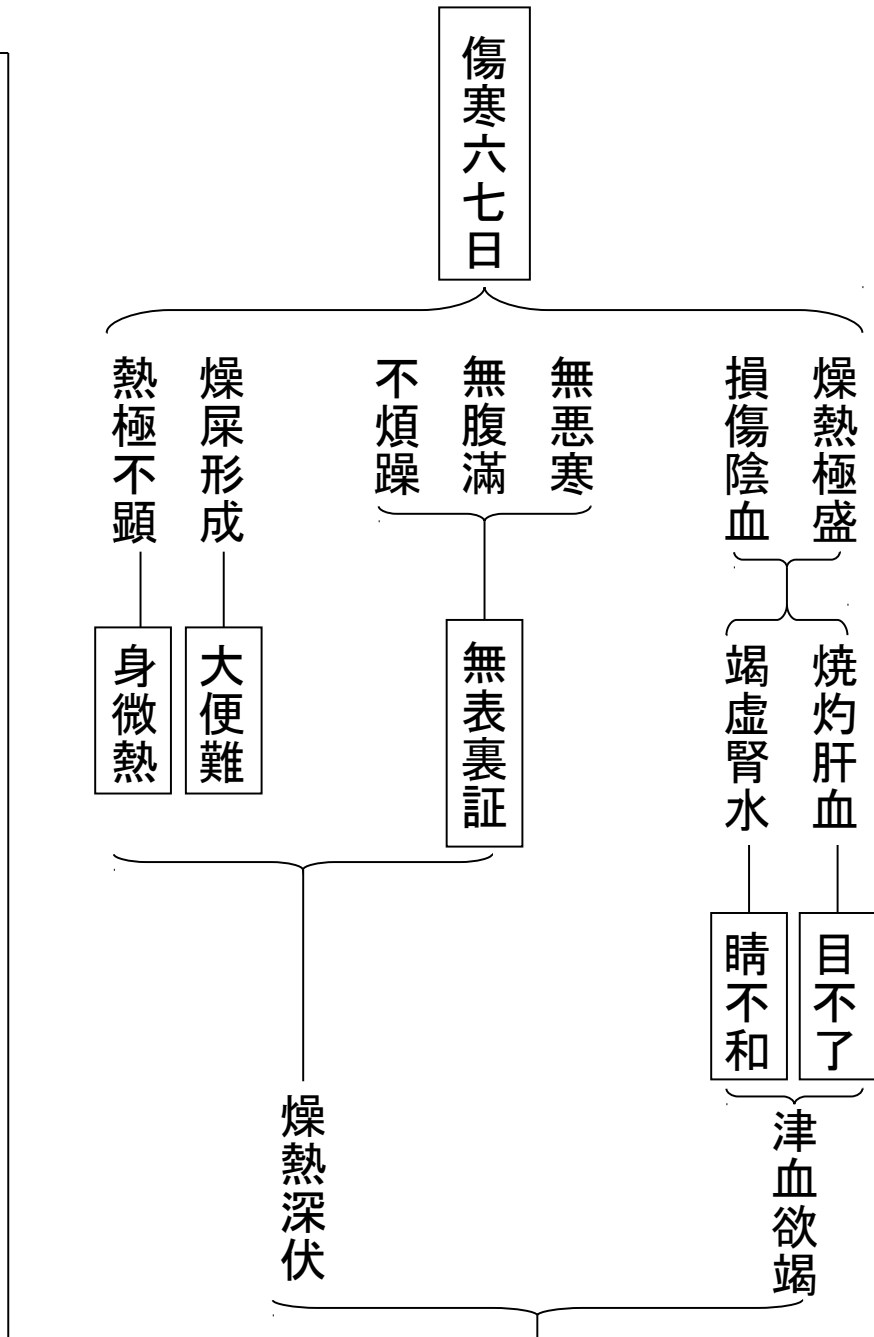


脾津不滋胃
胃中燥屎成

陽明腑
實完成

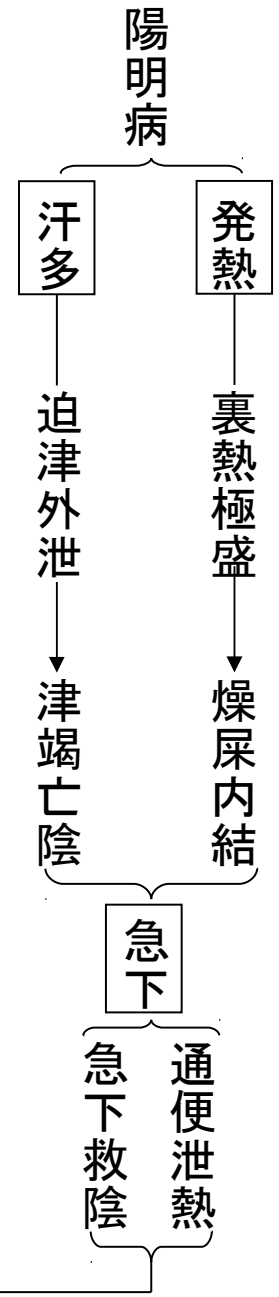
乃可攻之
大承氣湯

第二五二条 傷寒六七日、目中不了了、睛不和、無表裏証、大便難、身微熱者、此爲實也。急下之、宜大承氣湯。



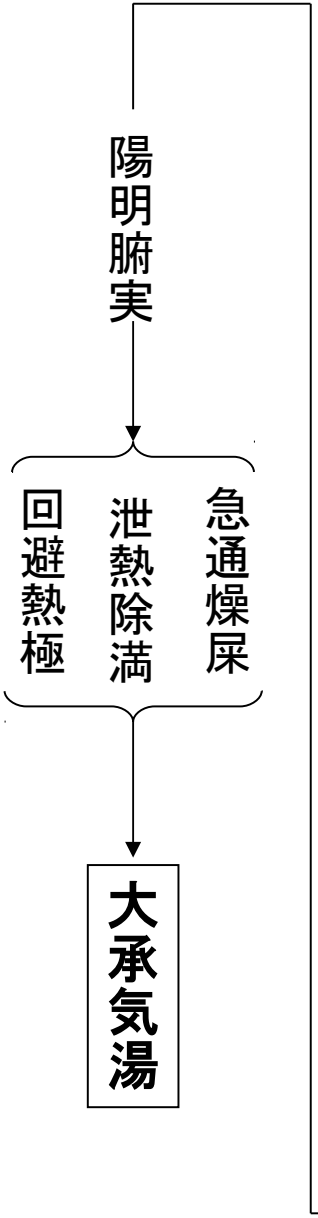
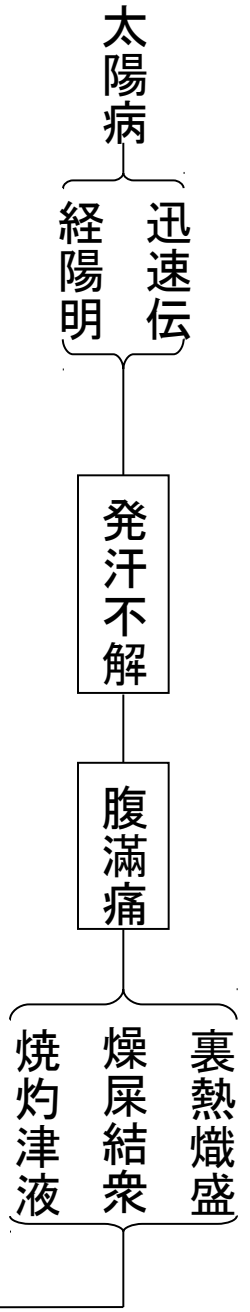
(注) 陽明病三急下証の一

第二五三条 陽明病、発熱、汗多者、急下之。宜大承気湯。



陽明病三急下証の二

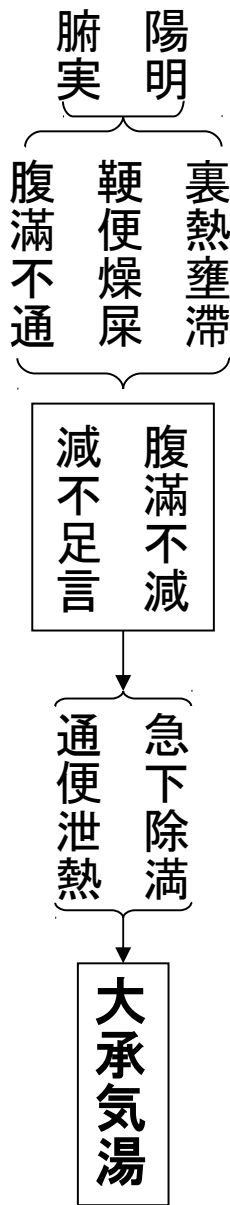
第二五四条 発汗不解、腹滿痛者、急下之。宜大承気湯。



(注) 陽明病三急下証の三

(注)

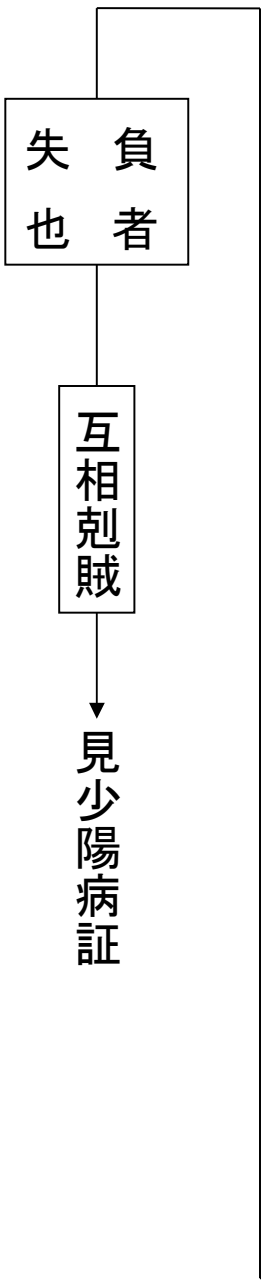
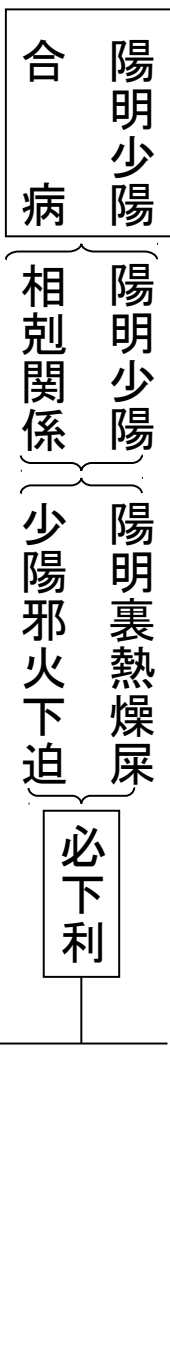
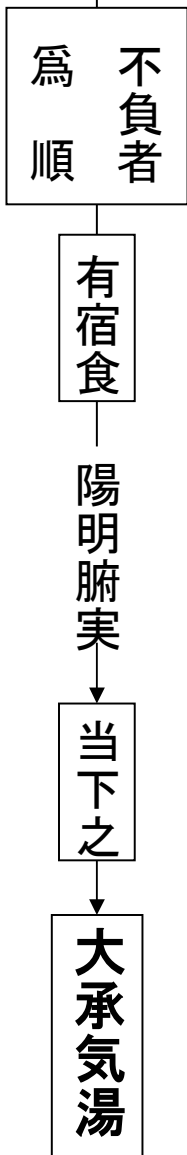
第二五五条 腹滿不減、減不足言、当下之、宜大承氣湯。



第二五六 陽明少陽合病、必下利。其脉不負者、爲順也。

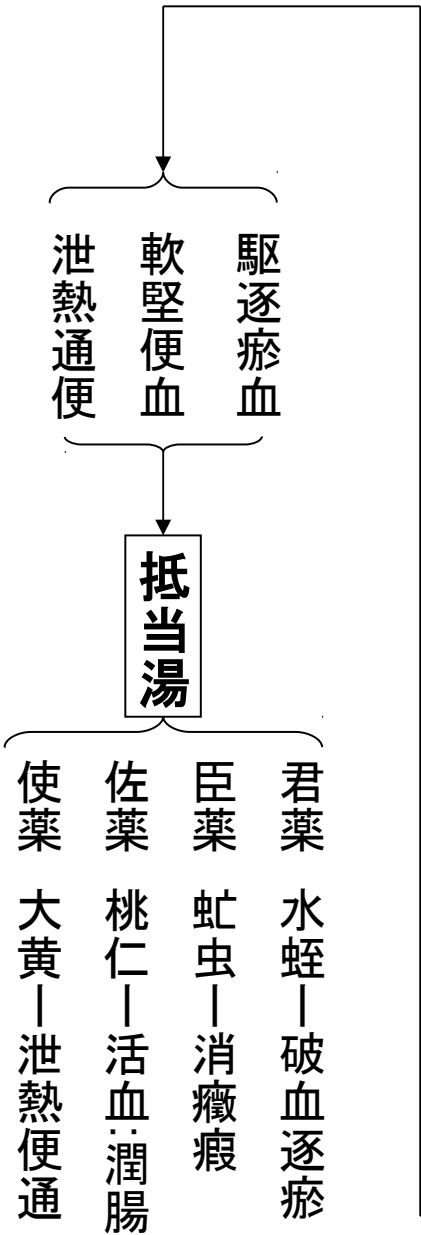
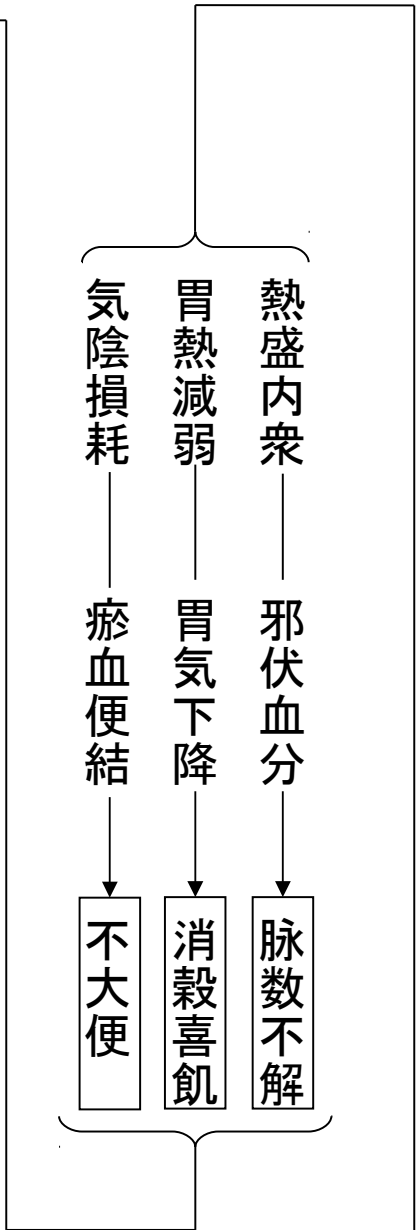
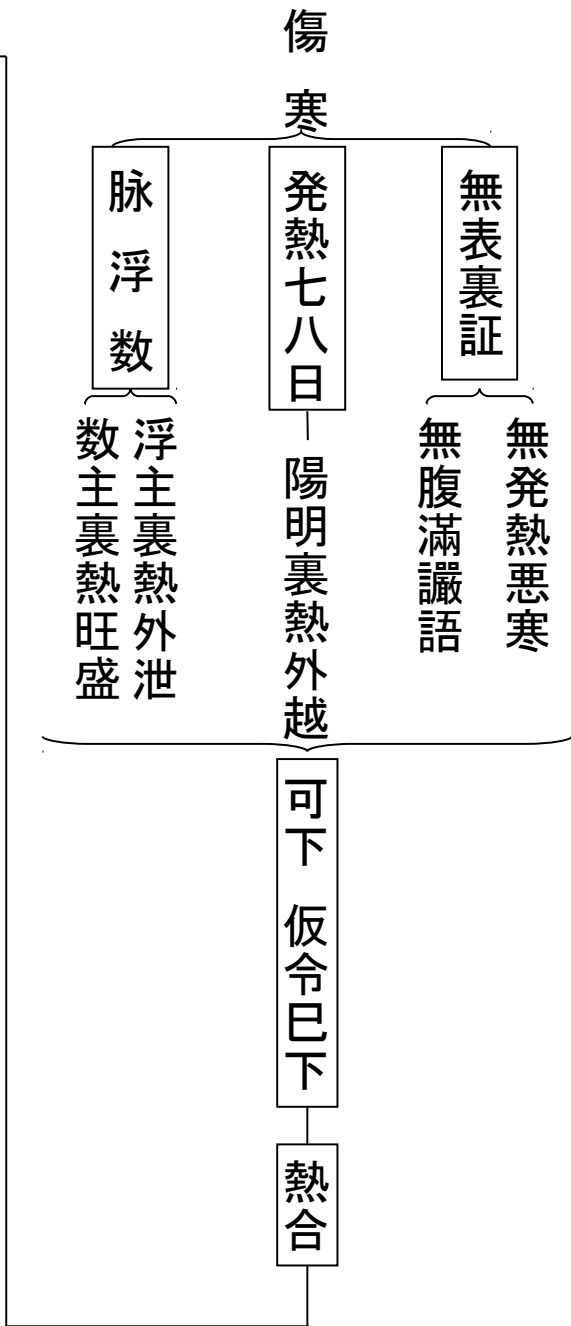
負者失也。互相剋賊、名爲負也。

脉滑而數者、有宿食也、当下之、宜大承氣湯。



第二五七条 病人無表裏証、發熱七八日、雖脉浮数者、可下之。

飯令已下、脉数不解、合熱則消穀喜飢、至六七日、不大便者、有瘀血、宜抵当湯。



第二五八条 若脉数不解、而下不止、必協熱便膿血也。

熱血互結——逐瘀通便——抵当湯

熱盛內衆
血熱瘀滯

脉数不解

血熱下注
破傷血絡

未下不止

熱・膿・血
結而滯

必協熱
便膿血

第二五九条 傷寒發汗已、身目爲黃、所以然者、以寒湿在裏

不解故也、於寒湿中求之。

傷寒

脾陽不足
素有内湿

發汗

脾陽損耗

肝胆疏泄不足
寒湿在裏不解
(脾寒湿停滯)

胆道鬱滯

無熱
寒湿
黄疸

陰黄

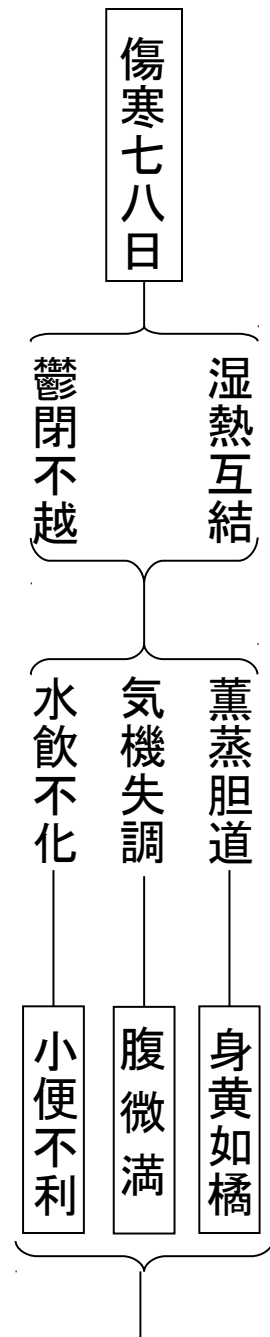
不可下

下則陽竭→壞病

於寒湿求之

温中化湿→正治

第二六〇条 傷寒七八日、身黄如橘子色、小便不利、腹微滿者、茵陳蒿湯主之。

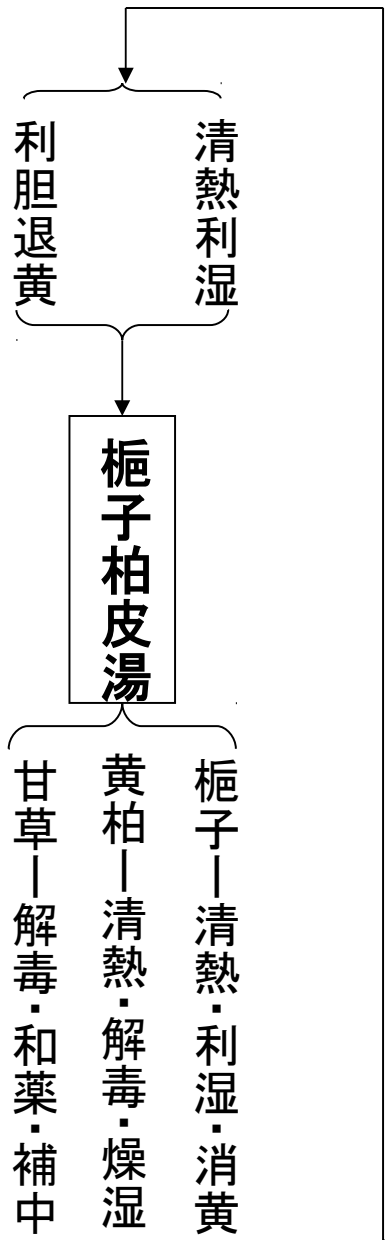
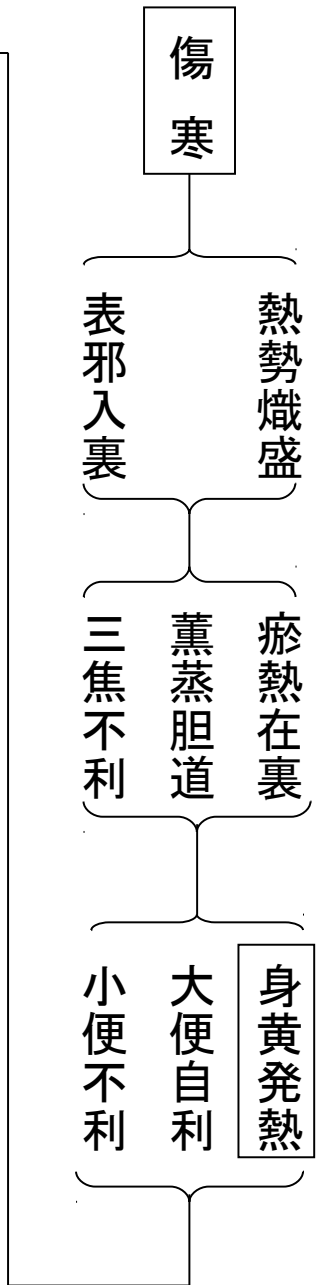


(注)

陽黃

- 茵陳蒿湯証 || 濕熱併重，氣機壅滯
- 梔子柏皮湯証 || 三焦濕熱、熱重濕輕
- 麻黃連軛赤小豆湯 || 中焦濕熱發黃、表証合併

第二六一條 傷寒身黃發熱、梔子柏皮湯主之。



(注)

茵陳蒿湯方

茵陳蒿六兩 梔子十四枚劈 大黃二兩去皮

梔子柏皮湯方

肥梔子十五箇劈 甘草一兩 黃檗二兩

麻黃連軹赤小豆湯方

麻黃二兩去節 連軹二兩連翹根是 杏仁四十箇去皮尖

赤小豆一升 大棗十二枚劈 生梓白皮切一升 生姜二兩切

甘草二兩炙

梔子柏皮湯の証

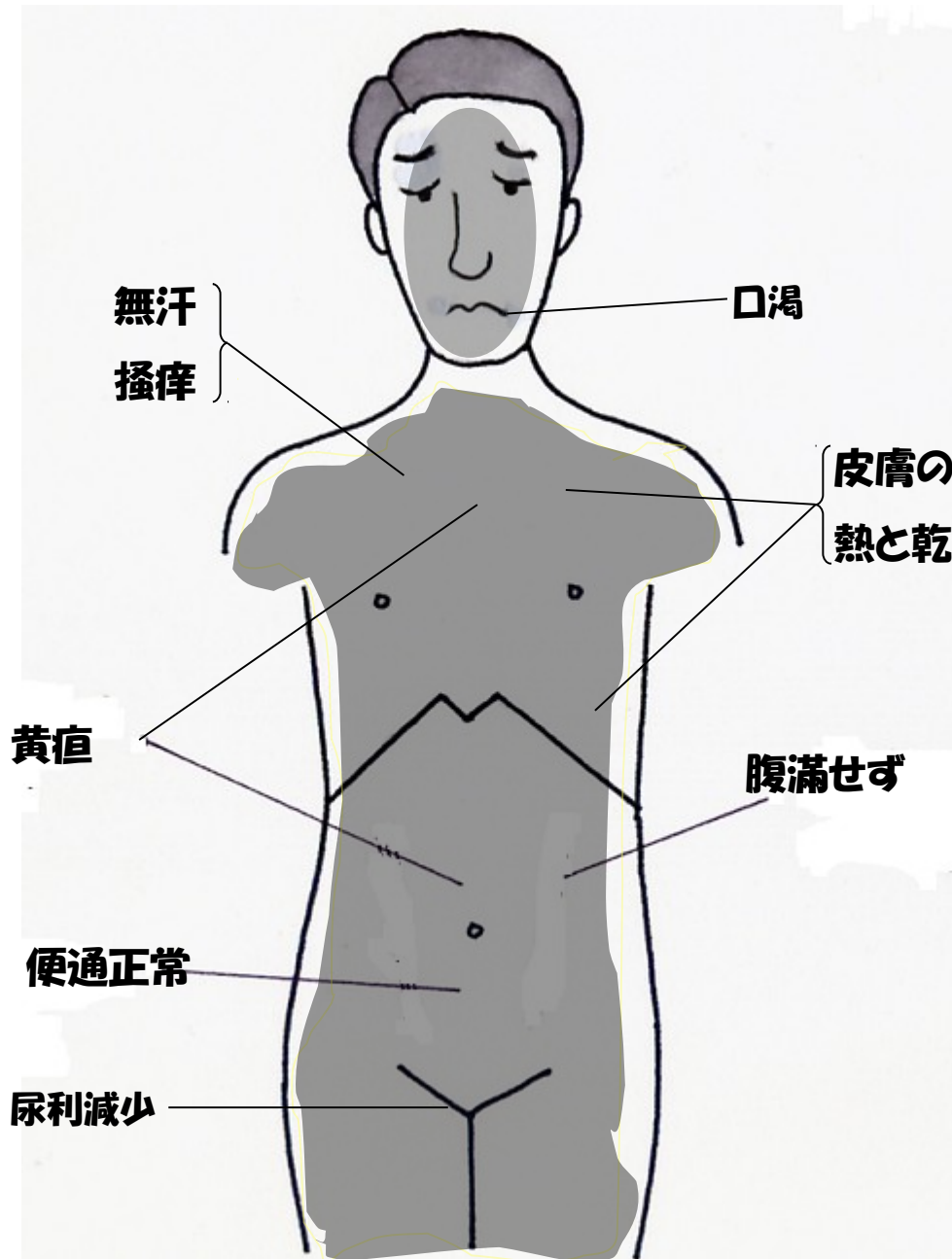
方意

傷寒の表邪が裏に陥入し、三焦の湿と熱が結合・鬱閉されて湿熱と化し、胆道を薰蒸した結果黄疸を発したものである。湿熱証の陽黄に属すが湿より熱が顕著である。

湿熱黄疸は三焦から発して、邪は陽明胃に及んでないので無汗・尿不利はあるが、便秘腹満は見られない。

弁証のTrias

- 1、黄疸、熱盛、無汗
- 2、口渇、皮膚乾燥や搔痒
- 3、尿不利で、便秘・腹満は無い



第二六二条 傷寒瘀熱在裏、身必黃、麻黃連軹赤小豆湯主之。

傷寒

太陽病

發熱惡寒

無汗身痛

熱不得越

濕不得泄

表邪不解

表証
咳嗽
搔痒

邪熱入裏

濕熱互結

瘀熱在裏
身必發黃

瘀熱發黃

表証兼有

宣散表邪

清熱利濕

解毒消黃

麻黃連軹赤小豆湯

麻黃・杏仁・生姜

發汗解表
宣發肺氣

連軹・梓白皮・小豆

清熱利濕
解毒退黃

甘草・大棗

和藥・補中

麻黄連軹赤小豆湯

方意

太陽傷寒で表邪が解散せず、表証が残存しているのに、一方で邪熱が裏に入り熱と湿が結合鬱閉されて、湿熱と化して黄疸を発したものである。

無汗・尿不利・便秘・黄疸などの陽黄に発熱悪寒・頭痛体痛・欬嗽・搔痒などの表証が合併している。

弁証のTrias

- 1) 発熱悪寒、咳、搔痒など表証
- 2) 無汗、口渴、黄疸
- 3) 便秘・腹滿・尿利減少

